MICRO RESEARCH

2.5GbE 対応 ブロードバンドルーター

NetGenesis® GigaLink2500

ユーザーズマニュアル

2026 年 10 月 第 1.4 版

本マニュアルについて

2.5Gbps 対応 ブロードバンドルーター NetGenesis GigaLink2500 をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

本マニュアルは NetGenesis GigaLink2500 ユーザーズマニュアルです。

ご使用にあたって

- ご使用の際は取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをして下さい。
- 本製品を使用できるのは日本国内のみです。本製品を海外で使用された場合、当社は一切その責任を負いません。
  This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは天災や停電等の外的要因によって発生した、純粋経済損失、精神的損害等につきましては、当社は一切その責任を負いません。
- 取扱説明書の内容については、万全を期して作成しておりますが万一不審な点、記載漏れ等お気付きの点がありましたら、ユーザーサポートへご連絡下さい。
- 本製品を運用した結果の影響については、当社は一切その責任を負いません。
- ソフトウェア仕様、ハードウェア仕様、外観、付属品および、取扱説明書などの内容は将来予告なしに変更することがあります。
- 本製品に搭載されているソフトウェアの解析（逆コンパイル、逆アセンブル、リバースエンジニアリングなど）、コピー、転売、改造を行うことを禁止します。
- 本マニュアルに記載されている設定画面は開発中のものです。実際の仕様と異なる場合があります。

本マニュアル中の表記について

- 本マニュアルでは、NetGenesis GigaLink2500 を「NetGenesis」と表記しています。
- 以下の文字は非常に間違えやすいので、ご注意下さい。
  半角数字「0」（ゼロ）と半角アルファベット「O」（オー）
  半角数字「1」（イチ）と半角アルファベット小文字「l」（エル）、半角アルファベット大文字「I」（アイ）
- 本書では一部の語句について略語表記している箇所があります。

本書での表記	正式な呼称
PC	パソコン、コンピューター、端末等
Windows 11	Microsoft® Windows® 11 Operating System
Windows 10	Microsoft® Windows® 10 Operating System
Windows	上記 2 つのオペレーションシステムの総称

- 以下のマークが付いている箇所は本製品をお使い頂く上で必ず確認または注意して頂きたい項目です。

確 認	ここに記載されている内容を必ず確認・注意して下さい。

商標について

- 以下の製品名は米国 Microsoft Corporation の米国、及びその他の国における商標です。
  Microsoft® Windows® 11 Operating System
  Microsoft® Windows® 10 Operating System
- その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名等は各社、作者の商標または登録商標です。

安全にお使い頂くために

NetGenesis を安全に正しくお使い頂き、お客様や財産への損害を防ぐために、以下のマークの記されている項目を必ずお守り下さい。

警　告	本表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡あるいは重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注　意	本表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害の発生が想定される内容を示します。
STOP お願い	本表示を無視して誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮出来なかったり、機能停止を招く内容を示します。

ご使用にあたって

警　告	本製品は一般のオフィスや家庭用 OA 機器として設計されております。 人命に直接関わる医療機器や、極めて高い信頼性を要求されるシステム（幹線通信機器や電算機システム等）では、使用しないで下さい。
	落雷の恐れがある場合は、本製品の使用を直ちに中止し、接続されているケーブルを取り外して下さい。 落雷により本製品及び本製品が接続されている機器の故障、発煙、発火の可能性があります。 なお、落雷等の天災による故障の場合、保証期間内であっても有償修理となりますので、あらかじめご了承下さい。
	本製品から煙が出たり、異臭が発生した場合等、異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。 その際は電源アダプターをコンセントから外して煙が出なくなる、もしくは異臭が消えることを確認した後、ユーザーサポートへご連絡下さい。 お客様による修理は大変危険ですので、絶対にお止め下さい。
	本製品の内部に水や金属等の異物が混入した場合、すぐに本製品の電源アダプターをコンセントから外した後、ユーザーサポートへご連絡下さい。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因となります。
	電源アダプターは必ず付属のものを使用し、それ以外のものは絶対に使用しないで下さい。 火災、故障の原因となります。
	電源アダプター本体を宙吊りに設置しないで下さい。電源プラグと電源アダプター間に隙間が生じ、ほこりによる火災が発生する可能性があります。 電源アダプターは容易に抜き差し可能な電源コンセントに差し込んで下さい。
	濡れた手で本製品の電源アダプターを抜き差ししないで下さい。 火災、感電、故障の原因となります。
	本製品の電源アダプターのプラグにドライバー等の金属が触れないようにして下さい。 火災、感電、故障の原因となります。
	電源アダプターのケーブルを傷つけたり、無理な力を加えたり、ものを乗せたりすることはお止め下さい。 火災、感電、故障の原因となります。
	電源アダプターのケーブルが破損した状態（芯線の露出、断線等）のまま使用しないで下さい。 火災、感電、故障の原因となります。

警　告	電源アダプターは確実に根本まで差し込んで下さい。 また、電源アダプターのプラグとコンセントの間のほこりは定期的（半年に 1 回程度）に取り除いて下さい。そのまま放置すると火災の原因となります。
	電源アダプターを抜き差しするときは、必ず電源アダプター本体を持って行って下さい。 電源アダプターのケーブルを引っ張るとケーブルが破損し、火災、感電の原因となります。
	梱包のポリ袋などは、小さいお子様の手の届く所に置かないで下さい。 小さいお子様がかぶったり、飲み込んだりすると、呼吸を妨げる危険があります。
	本製品を落下させたり、強い衝撃を与えてしまった場合、本製品の電源アダプターをコンセントから外した後、 ユーザーサポートへご連絡下さい。 そのまま使用すると火災、故障の原因となります。
	本製品、及び本製品の電源アダプターを開けて内部の部品に触れたり、改造したりしないで下さい。 高電圧のかかっている箇所があり、そのまま使用すると火災、感電、故障の原因となります。 また、分解・改造が行われた製品については、一切のサポートおよび修理をお受け致しません。
	本体（コネクター部）、電源アダプターに液体が入ったりしないよう、また本体（コネクター部）、電源アダプター、 ケーブル類、コネクター類を濡らさぬようにご注意下さい。 漏電して火災、感電、故障の原因となります。
	本製品の内部や周囲でエアダスターやスプレー等、可燃性ガスを使用したスプレーを使用しないで下さい。 引火による爆発、火災の原因となることがあります。

注　意	本製品の動作中は本製品の内部及び外側が熱くなることがあります。長時間皮膚に接触すると低温やけどの原因となる場合がありますのでご注意下さい。
	本製品の上に乗らないで下さい。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意下さい。 本製品が破損し、ケガや感電の原因となります。
	本製品背面の各コネクタに異物を挿入しないで下さい。 感電、故障の原因となります。

STOP お願い	本製品が動作しているときは本製品に接続されているケーブルに触れないで下さい。 ケーブルが外れたり、動作が不安定になる等、誤動作の原因となります。

ご使用環境について

警　告	本製品を風呂場やシャワー室等、水のかかる場所で使用しないで下さい。 漏電して、火災、感電、故障の原因となります。
	本製品の近くに花瓶や植木鉢、コップ、化粧品、薬品等の液体が入った容器、または小さな金属等を置かないで下さい。 これらの異物が本製品の内部に混入した場合、火災、感電、故障の原因となります。
	電源アダプターを風通しの悪い狭い場所に設置しないで下さい。 過熱し、火災や故障の原因となることがあります。
	ガソリンスタンドなど、引火、爆発の恐れがある場所では、使用しないで下さい。

注　意	本製品を不安定な場所へ設置しないで下さい。 また、本製品の上にものを置かないで下さい。バランスが崩れて倒れたり、落下して怪我や本製品の故障の原因となります。
	本製品を以下の環境で使用・保管・放置しないで下さい。本製品の故障の原因となります。 ・室内または製品周辺の温度や湿度が極端に高い、または低い場所 ・結露がある場所　・急激な温度変化が起こる場所 ・ほこりが多い場所　・静電気が発生しやすい場所 ・腐食性ガスが発生する場所　・水などがかかりやすい場所 ・不安定な場所　・油煙が当たる場所 ・直射日光が当たる場所　・製品周辺に発熱する器具や燃えやすい物がある場所
	本製品の動作中は本製品内部及び外側が熱くなることがあります。 本製品のそばにビニール等、熱に弱い物を置かないで下さい。 また、本製品を他の機器の上に設置しないで下さい。変色、変形の原因となります。
	本製品の通気孔をふさいだり、重ねて設置しないで下さい。 本製品内部に熱がこもり加熱故障、火災の原因となります。
	本製品に各種ケーブルを接続する・外す際は、必ず本製品及び他の機器の電源を OFF にして下さい。感電、故障の原因となります。
	本製品を長期間ご使用にならないときは、電源アダプターをコンセントから外し、本製品に接続されている各種ケーブルを外して下さい。
	本製品を長期間無人で使用する際は、必ず定期的に保守/点検を行って下さい。

STOP お願い	本製品を電気製品・AV・OA 機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないで下さい。
	本製品とコードレス電話機や電子レンジなどの電波を放射する装置との距離が近すぎると通信速度が低下したり、データ通信が切れる場合があります。 また、コードレス電話機の通話にノイズが入ったり、発信・着信が正しく動作しない場合があります。このような場合は、お互いを数メートル以上離してお使い下さい。

お手入れの際

警　告	本製品の汚れのお手入れは、柔らかい布で軽く拭き取って下さい。 ベンジンやシンナー等の薬品を使用すると、人体に有害な気体が発生したり、本製品の変形や変色の原因となることがあります。

注　意	お手入れをするときは本製品から電源アダプターを外して安全な状態で行って下さい。

セキュリティについて

本製品を使用するにあたり、設定画面へのログインパスワードを設定変更することを強く推奨します。

管理者用のログインパスワードを設定変更しない場合、ネットワーク上の他の機器等から NetGenesis の設定や情報を見られてしまう可能性があります。

これは、セキュリティの面で非常に危険です。

管理者用のログインパスワードを設定変更することにより、安全に NetGenesis を使用することができます。

パスワードの設定方法については、ユーザーズマニュアルの下記項目を参照して下さい。

「14-1.アカウント」(135 ページ)

もくじ

本マニュアルについて 2
安全にお使い頂くために 3
もくじ 8
1.はじめに 1
1-1.主な機能 1
1-2.設定を行う前に確認する事 3
1-3.付属品の確認 4
1-4.各部の名称 5
1-5.各機器との接続 6
2.パソコンの設定 7
2-1.Windows 11/10 7
3.設定画面へのログイン 9
3-1.設定画面へのログイン方法（初期設定時） 9
3-2.設定画面にログインできない場合 11
4.ダッシュボード 12
4-1.本体情報 12
4-2.IPv4 ネットワーク情報 13
4-3.IPv6 ネットワーク情報 13
4-4.各ポートのリンク状態 14
4-5.WAN ポートの情報 15
4-6.LAN ポート接続機器情報 18
5.PPPoE クライアントで接続する（フレッツ光や eo 光等） 19
5-1.PPPoE クライアント接続 IP アドレス自動取得 19
5-2.PPPoE クライアント接続 IP アドレス固定 22
5-3.PPPoE クライアント接続 アンナンバード接続 25
5-4.PPPoE クライアント接続 マルチセッション接続 29
6.IPv4 Over IPv6 で接続する（DS-Lite、MAP-E 等） 36
7.DHCP クライアントで接続する（CATV や社内 LAN 等） 38
8.IP アドレス固定で接続する（CATV や社内 LAN 等） 40
9.VPN 接続を行う 42
9-1.L2TP 接続 42
9-2.PPTP 接続 46
10.LAN 設定 52
10-1.LAN ポート設定 52
10-2.DHCP サーバー設定 54
10-3.固定 IP アドレス設定 56
10-4.DHCP サーバーIP アドレス割り当て情報リスト 61

11.セキュリティ設定 62
11-1.ファイアウォール 62
11-2.ポートフォワーディング 63
11-3.IP フィルタリング 74
11-4.MAC フィルタリング 82
11-5.URL フィルタリング 87
11-6.ALG 92
11-7.DMZ ホスト 93
11-8.UPnP 95
11-9.EasyDNS 98
12.高度な設定 103
12-1.ルーティング 103
12-2.ダイナミック DNS 109
12-3.LAN ポートネットワークの拡張 116
12-4.ポート設定 119
13.IDM 121
13-1.ステータス監視 121
13-2.死活監視 130
13-3.ファームウェア更新 132
13-4. リモート管理 134
14.管理 135
14-1.アカウント 135
14-2.アクセス制御 137
14-3.ファームウェアバージョンアップ 147
14-4.設定保存・読み込み・初期化 153
14-5.システムログ 157
14-6.システム時間 159
14-7.診断 165
14-8.再起動 173
15.統計情報 175
15-1.インターフェース統計情報 175
15-2.IP アドレス統計情報 177
Q&A 集 179
仕様 189
ソフトウェア仕様 189
ハードウェア仕様 191
ユーザーサポート 193
お問い合わせ窓口について 193
製品の修理について 194

1.はじめに

1-1.主な機能

NetGenesis の主な機能について説明します。

●2.5GbE に対応

2.5GbE に対応したイーサネットポートをインターネット（WAN）側に 1 ポート、LAN 側に 1 ポート搭載しています。
より高速なインターネット通信が可能です。
また、1GbE に対応したイーサネットポートを LAN 側に 4 ポート搭載しています。

●IPv6 接続（IPoE IPv4 over IPv6）対応

IPoE IPv4 over IPv6 に対応しています。
（transix・DS-Lite 方式、v6 プラス・MAP-E 方式、IPv6 オプション・MAP-E 方式　での動作を確認済み）
混雑の影響を受けにくい IPv6 ネットワークを利用する事で、より高速なインターネット通信が可能です。

●様々なブロードバンド回線に対応

WAN ポートの動作モードとして、PPPoE 接続、DHCP クライアント接続、IP アドレス固定接続に対応していますので、
様々な回線で利用する事が可能です。

●PPPoE マルチセッション機能

同時に 4 箇所への PPPoE 接続を行うことが可能です。
※PPPoE マルチセッション接続時の動作モードは「IP アドレス自動取得」のみです。

●アンナンバード（unnumbered）機能（PPPoE 接続のみ）

WAN 側をアンナンバード（unnumbered）とし、プロバイダから取得した複数の固定グローバル IP アドレスを、LAN 内で使用することが可能です。
※PPPoE セッション 1 でのみ設定可能です。
※使用可能な固定 IP アドレス数は 4・8・16 個です。

●VPN 接続機能

VPN 接続機能として、L2TP 接続機能、PPTP 接続機能に対応しています。
よりセキュアなネットワークが構築可能です。

●ポートフォワーディング機能

インターネット側から発信された IP フレームを、プロトコルやポート番号に応じて LAN 内の特定の IPv4 アドレスへ転送することが可能です。
LAN 内へ転送する際、宛先ポート番号を別のポート番号へ変換することも可能です。

●IP フィルタリング機能

IP パケットのフィルタリングにより、LAN 内部のコンピューター資源を保護することが可能です。

●MAC フィルタリング機能

NetGenesis に接続した各機器固有の MAC アドレス（物理アドレス）により、通信を透過・遮断することが可能です。

●URL フィルタリング機能

指定した URL への Web アクセスを透過・遮断することが可能です。

●DMZ ホスト機能

インターネット側から発信された全ての IP フレームを、LAN 内の特定の IPv4 アドレスへ転送することが可能です。

●UPnP 機能

UPnP 対応ソフトウェアや、UPnP 対応機器を使用することが可能です。

●EasyDNS 機能

ホスト名（コンピュータ名）と IP アドレスを NetGenesis に登録することにより、NetGenesis を簡易 DNS サーバーとして使用することが可能です。

●スタティックルーティング機能
送信先の IP（ネットワーク）アドレスによって、ルーティング先を設定することが可能です。

●ダイナミック DNS 機能
外部ダイナミック DNS（DDNS）サービスを利用して、IP アドレスとドメイン名を自動的に結びつけることができます。

●mDNS（Multicast DNS）機能
LAN 内で DNS サーバーを使わずに機器同士の名前解決が可能になる機能です。LAN 内の機器の情報はブラウザ設定画面上のダッシュボードで確認できます。

●MRL-IDM 機能
クラウド上の「MRL-IDM サーバー」を通じて、無人環境でも遠隔からデバイスの監視・管理を行う事ことができます。
（ステータス監視機能、死活監視機能、ファームウェア更新機能、リモート管理機能）

●ハードウェアルーティング搭載
ソフトウェア処理に比べ 低遅延・高スループットを実現し、CPU 負荷を抑えつつ高速 IP パケット転送を実現します。

●リモート設定対応
遠隔地から WWW ブラウザ経由で、ルーターの設定・制御を行うことが可能です。（設定ポート番号変更可能）

1-2.設定を行う前に確認する事

設定を行う前に確認が必要な事について説明します。

●回線の開通確認

NetGenesis を設置する前に、パソコンと回線終端装置を直結してインターネット接続可能か確認して下さい。
パソコンと回線終端装置を直結してインターネット接続ができない場合、回線が開通しているか回線事業者・プロバイダへお問い合わせ下さい。

●既存のネットワークに設置する場合

初期設定は既存のネットワークに接続せずに、パソコンと 1 対 1 の接続状態で行う事を推奨します。
NetGenesis の全ての設定が完了した後、既存のネットワークに接続するようにして下さい。

●MAC アドレス記憶型のケーブルモデムについて（ケーブル TV インターネット回線等）

ケーブル TV インターネット回線等で使用されているケーブルモデムの中には、「接続されているネットワーク機器の MAC アドレス（物理アドレス）を記憶し、その記憶した MAC アドレスを持つ機器以外と通信を行なわない機種」があります。
この場合、ケーブルモデムが NetGenesis を導入する前に接続していた他のルーターやパソコンの MAC アドレスを記憶しているため、NetGenesis を接続しても通信を行うことができません。
ケーブルモデムが他のネットワーク機器の MAC アドレスを記憶している場合、ケーブルモデムの電源を落として 30 分程度放置し、MAC アドレスの消去を行なって下さい。
再度電源を ON にすると、接続されている機器（NetGenesis）の MAC アドレスをケーブルモデムが自動的に記憶します。

●ルーター機能付き回線終端装置を接続する場合

ルーター機能を搭載した回線終端装置（以降ルーターモデム）に NetGenesis を接続する場合、以下の 2 通りの接続方法があります。

- **ルーターモデムのルーター機能を無効にする、もしくは PPPoE ブリッジ機能を有効にして NetGenesis を接続する。**
  この場合、ルーターモデムの LAN 側から NetGenesis が PPPoE 接続を行なう事ができます。
  ルーター機能を無効にする方法や PPPoE ブリッジ機能の設定方法については、回線事業者にお問い合わせ下さい。

- **ルーターモデムのルーター機能を有効にしたまま、NetGenesis を接続する。**
  この場合、NetGenesis は PPPoE 接続ではなく、DHCP クライアント（IP アドレス自動取得）で接続します。
  NetGenesis を接続する前に、必ずルーターモデムの LAN 側のプライベートネットワークアドレスを確認して下さい。
  ルーターモデムの LAN 側プライベートネットワークアドレスが、NetGenesis の工場出荷値の IP アドレス「192.168.0.1/24」と、同じネットワークアドレスであった場合、NetGenesis の LAN ポート IP アドレス（あるいはルーターモデムの LAN 側ネットワークアドレス）の変更が必要となります。
  NetGenesis の LAN ポート IP アドレスを変更する方法については、「10.LAN 設定」（52 ページ）を参照して下さい。

1-3.付属品の確認

本製品には、以下の付属品が同梱されています。

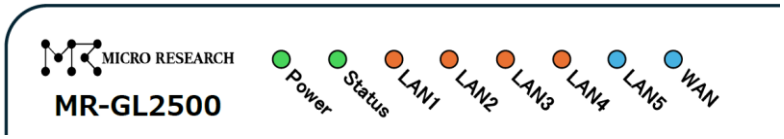
付属品が揃っているかご確認下さい。

- ■ 専用電源アダプター/1 個
- ■ LAN ケーブル（CAT6） 1.5m/1 本
- ■ はじめにお読み下さい（保証書）/1 枚

1-4.各部の名称

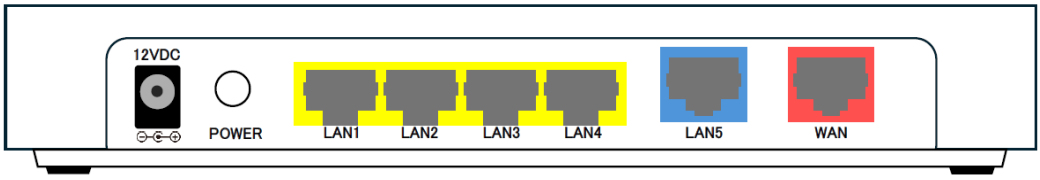
NetGenesis の各部の名称について説明します。

■前面（モニタランプ）



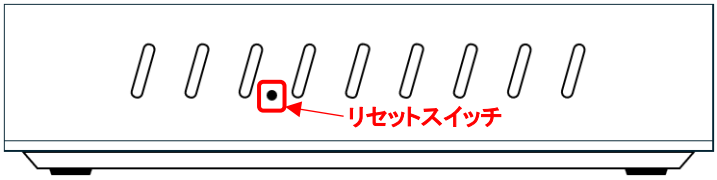
Power	電源が ON のときに点灯します。
Status	システムが起動中にオレンジで点灯し、起動が完了するとグリーンで点灯します。
LAN1～LAN4	オレンジ　:1Gbps リンク時のポートの状態を表します。 グリーン　:10/100Mbps リンクの各ポートの状態を表します。
LAN5	ブルー　:2.5Gbps リンク時のポートの状態を表します。 オレンジ　:100M/1Gbps リンク時のポートの状態を表します。
WAN	ブルー　:2.5Gbps リンク時のポートの状態を表します。 オレンジ　:100M/1Gbps リンク時のポートの状態を表します。

■背面（各コネクタ）



12V DC	電源アダプター用コネクタです。 付属の電源アダプターを接続します。
POWER	NetGenesis の電源を ON/OFF するスイッチです。
LAN1～LAN4	1Gbps 対応の LAN ポートです。 通信速度（10M/100M/1Gbps）の設定はオートネゴシエーションによって自動的に設定されます。 LAN ケーブルのストレート/クロスは自動判別します。
LAN5	2.5Gbps 対応の LAN ポートです。 通信速度（100M/1G/2.5Gbps）の設定はオートネゴシエーションによって自動的に設定されます。 LAN ケーブルのストレート/クロスは自動判別します。
WAN	2.5Gbps 対応の WAN ポートです。 ONU やケーブルモデム等の回線終端装置と接続します。 通信速度（100M/1G/2.5Gbps）の設定はオートネゴシエーションによって自動的に設定されます。 LAN ケーブルのストレート/クロスは自動判別します。

■側面（リセットスイッチ）



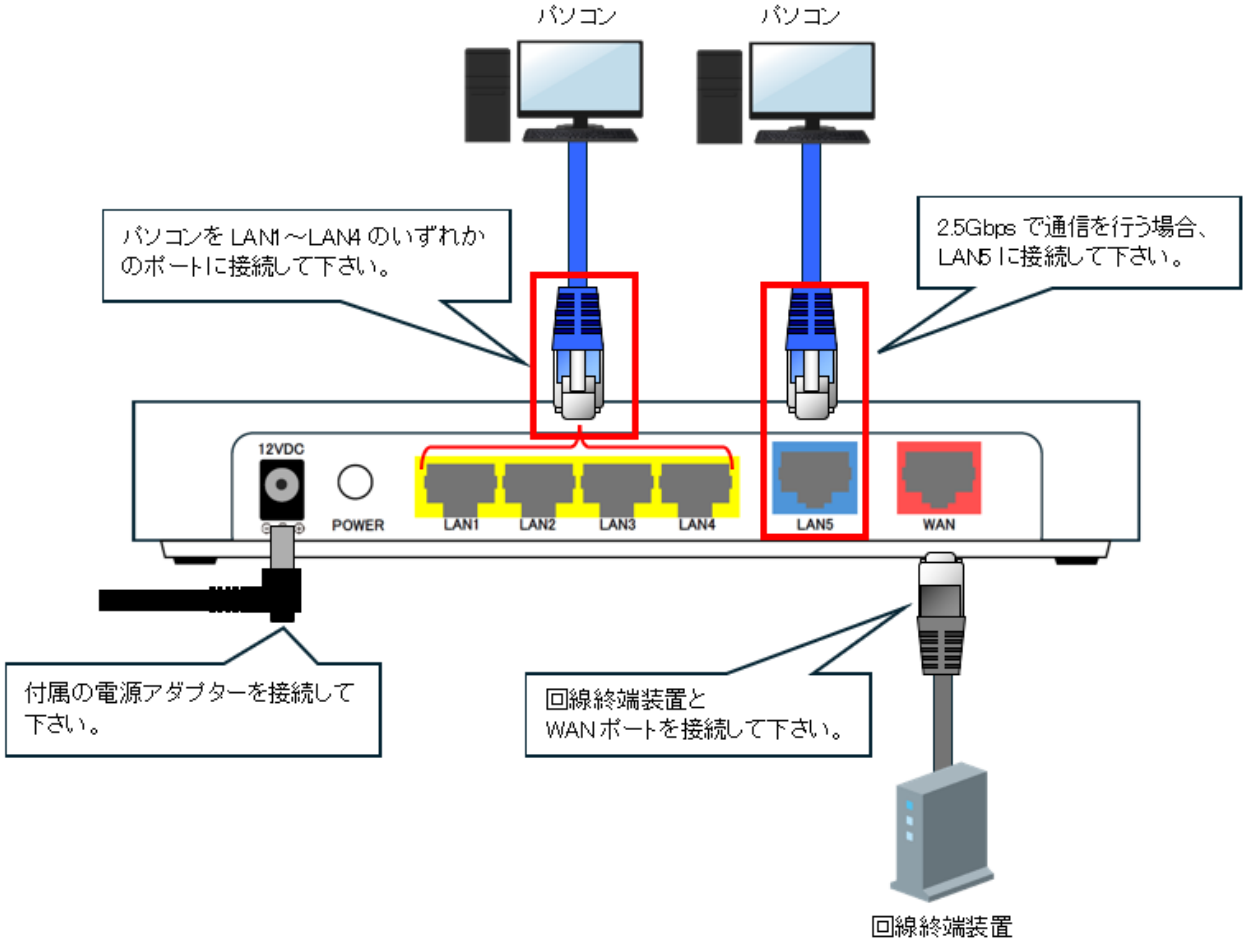
【設定のリセット（初期化）方法について】

1. 電源を投入し、「POWER」と「STATUS」ランプがグリーンで点灯している事を確認して下さい。
2. 本体側面の穴に細い棒等を差し込んで中のリセットスイッチを 20 秒以上押し続けて下さい。
3. 「POWER」以外の LED が全て消灯して、再度点灯したらリセットボタンを離して下さい。
4. 「POWER」と「STATUS」ランプがグリーンで点灯すれば初期化完了です。

1-5.各機器との接続

NetGenesis と各機器の接続について説明します。

下図のように配線して下さい。



警 告	**必ず付属の専用電源アダプターを使用して下さい。** **専用電源アダプター以外を使用すると、発煙、感電、火災、または製品の誤動作や故障の原因となります。**
	電源アダプターを接続する際は、しっかり奥まで差し込んで下さい。 **接触不良のまま使用すると、動作不良や故障の原因となります。**

確 認	1Gbps で通信を行う場合は、カテゴリ 5e かカテゴリ 6 のツイストペアケーブルで接続して下さい。
	NetGenesis の LAN1～LAN5 ポート及び WAN ポートは、ツイストペアケーブルのストレート/クロスを自動的に判別し、切り替えを行います。

各機器との接続が終わりましたら背面の「POWER」スイッチを押して電源を投入して下さい。

「Power」ランプと「Status」ランプがグリーンで点灯すれば起動完了です。

2.パソコンの設定

NetGenesis の初期設定を行う際のパソコンの TCP/IP 設定について、Windows を例に説明します。

2-1.Windows 11/10

①Windows を起動して下さい。

確 認	Administrator（管理者）権限のあるユーザーアカウントでログオンして下さい。

②「コントロールパネル」を開いて下さい。

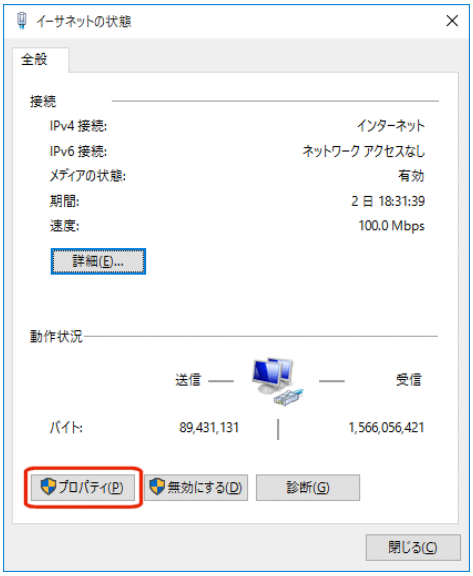
※コントロールパネルの開き方は各 OS により異なります。開き方については、各 OS のマニュアル等を参照して下さい。

③[ネットワークとインターネット]をクリックして下さい。

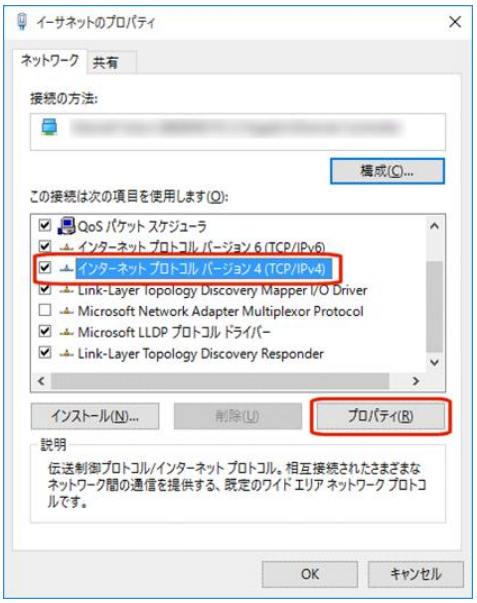
④[ネットワークと共有センター]をクリックして下さい。

⑤[イーサネット]もしくは[ローカルエリア接続]をクリックして下さい。

⑥[イーサネットの状態]が開きますので、[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。

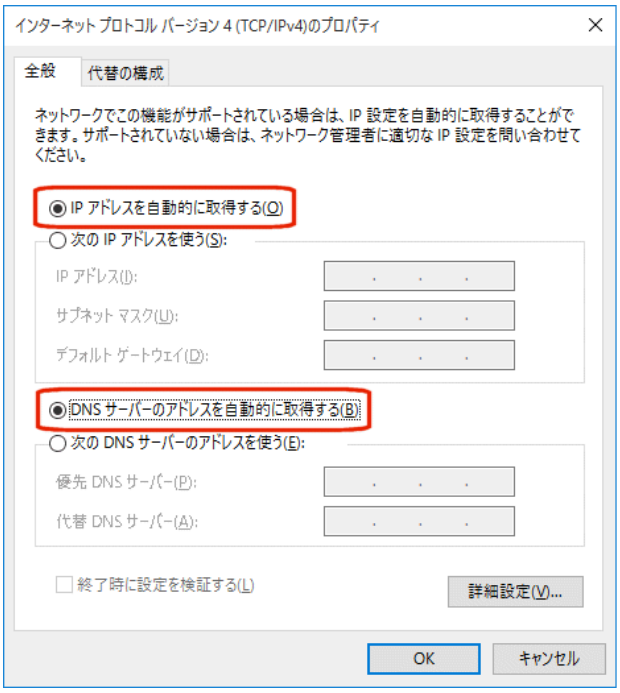


⑦[イーサネットのプロパティ]が開きますので、一覧の中の[インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)]を選択して、[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。



〈次ページへ進んで下さい〉

⑧[IP アドレスを自動的に取得する]、及び[DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する]を選択して、[OK]ボタンをクリックして下さい。



各画面で[OK]ボタンをクリックして下さい。

以上で設定は完了です。

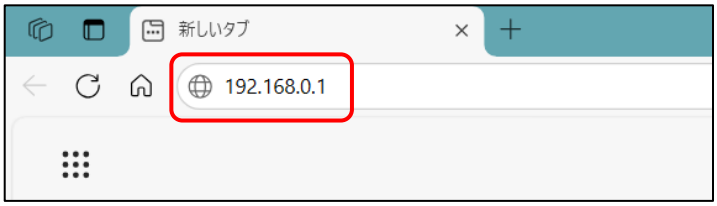
3.設定画面へのログイン

設定画面へのログイン方法について説明します。

3-1.設定画面へのログイン方法（初期設定時）

①WWW ブラウザ（Microsoft Edge 等）を起動して下さい。

②WWW ブラウザのアドレス入力欄に、本製品の LAN 側 IP アドレス（**工場出荷値：192.168.0.1**）を入力して、Enter（Return）キーを押して下さい。



③ログイン画面が表示されますので、「**passwd**」を入力して、[ログイン]ボタンをクリックして下さい。

④工場出荷値の場合は、以下の画面が表示されますので、新しいパスワードを設定して[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

⑤ログイン画面に戻りますので、設定した新しいパスワードを入力して、[ログイン]ボタンをクリックして下さい。

⑥「ダッシュボード」画面が開きます。

確 認	ログイン ID の「Admin」は変更する事はできません。
	「日本語」のプルダウンメニューを「English」に切り替えると画面が英語表記になります。
	3 回連続でログインエラーとなった場合、3 分間再ログインすることはできません。(工場出荷値)
	設定画面にログイン後に無操作状態で 5 分経過するとログアウトします。

3-2.設定画面にログインできない場合

NetGenesis の設定画面にログインできない場合、以下の内容を確認して下さい。

1. **NetGenesis 上面の LAN ランプは点灯していますか？**
   パソコンのネットワークアダプタと NetGenesis が LAN ケーブルで正しく接続されているか確認して下さい。
   なお、LAN ケーブルを NetGenesis 及びネットワークアダプタに差し込む際、「カチッ」と音がするまでしっかりと差し込んで下さい。

2. **NetGenesis に付属の電源アダプターを接続していますか？**
   NetGenesis の電源は ON になっていますか？
   他製品の電源アダプターを接続した場合、NetGenesis は正しく動作しません。
   必ず NetGenesis に付属の電源アダプターを接続して下さい。

3. **パソコンのネットワークアダプタは正常に動作していますか？**
   パソコンのネットワークアダプタが正常に動作していることを確認して下さい。

4. **パソコンにネットワークアダプタが複数セットアップされていませんか？**
   パソコンにネットワークアダプタ（無線 LAN も含む）が複数セットアップされている場合は、NetGenesis に接続していないネットワークアダプタを一時的に無効（未使用）にして下さい。

5. **NetGenesis の DHCP サーバーを使用する（工場出荷値）場合、IP アドレスが正しく取得されていますか？**
   パソコン側で NetGenesis から IP アドレスが正しく取得できているか確認して下さい。
   <NetGenesis の DHCP サーバー設定が工場出荷値の場合>
   IP アドレス：192.168.0.2～192.168.0.254 のいずれか
   サブネットマスク：255.255.255.0
   デフォルトゲートウェイ：192.168.0.1
   プライマリ DNS：192.168.0.1

6. **WWW ブラウザが「プロキシサーバーを使用する」設定になっていませんか？**
   NetGenesis の設定を行う際は、WWW ブラウザを「プロキシサーバーを使用しない」設定にする必要があります。

7. **ファイアウォール・セキュリティ対策ソフトウェア等が起動・常駐していませんか？**
   NetGenesis の設定を行うパソコンにファイアウォール・セキュリティ対策ソフトウェアが起動・常駐している場合、NetGenesis の設定を始める前に一時的に「無効」にして下さい。

8. **WWW ブラウザのキャッシュを削除してみて下さい。**
   WWW ブラウザのキャッシュを削除する方法については、各 WWW ブラウザのマニュアルやヘルプを参照して下さい。

4.ダッシュボード

ダッシュボードについて説明します。

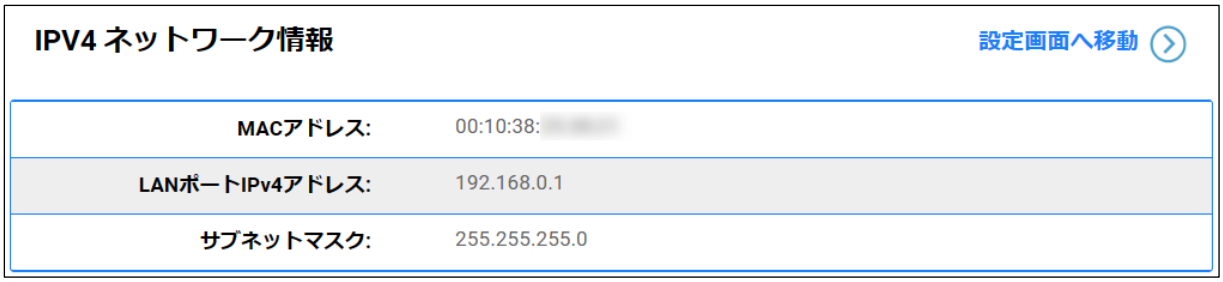
設定画面にログインすると、ダッシュボード（本体情報画面）が開きます。

4-1.本体情報

設定画面にログインする、もしくは「MR-GL2500 本体情報」をクリックすると、本体情報が表示されます。

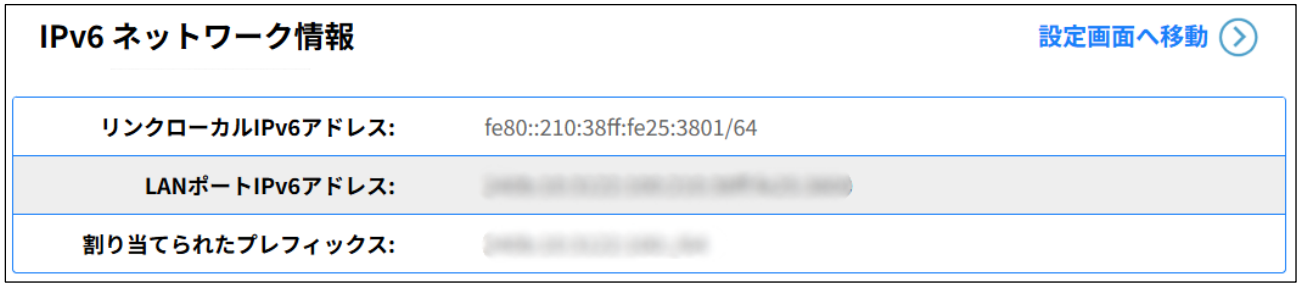
認証情報	本製品の認証情報が表示されます。 XXX-XXXXXX XXX-XXXXXX Ok
型番	製品型番が表示されます。
ハードウェアバージョン	ハードウェアバージョンが表示されます。
ファームウェアバージョン	ファームウェアバージョンが表示されます。
WAN ポート MAC アドレス	WAN ポートの MAC アドレスが表示されます。
LAN ポート MAC アドレス	LAN ポートの MAC アドレスが表示されます。
製造番号	製造番号が表示されます。
メモリ使用量 %	メモリ使用量が表示されます。
CPU 使用率 %	CPU 使用率が表示されます。
システム起動経過時間	起動してから経過した時間が表示されます。

4-2.IPv4 ネットワーク情報



設定画面へ移動	LAN ポート設定画面へ移動します。
MAC アドレス	LAN ポートの MAC アドレスが表示されます。
LAN ポート IPv4 アドレス	LAN ポートの IPv4 アドレスが表示されます。
サブネットマスク	LAN ポートのサブネットマスクが表示されます。

4-3.IPv6 ネットワーク情報



設定画面へ移動	IPv6 設定画面へ移動します。
リンクローカル IPv6 アドレス	LAN ポートのリンクローカル IPv6 アドレスを表示します。
LAN ポート IPv6 アドレス	LAN ポートが取得した IPv6 アドレスを表示します。
割り当てられたプレフィックス	IPv4 over IPv6 モード時に、割り当てられたプレフィックスを表示します。 本情報は動作モードが IPv4 Over IPv6 に設定された場合に表示されます。

4-4.各ポートのリンク状態

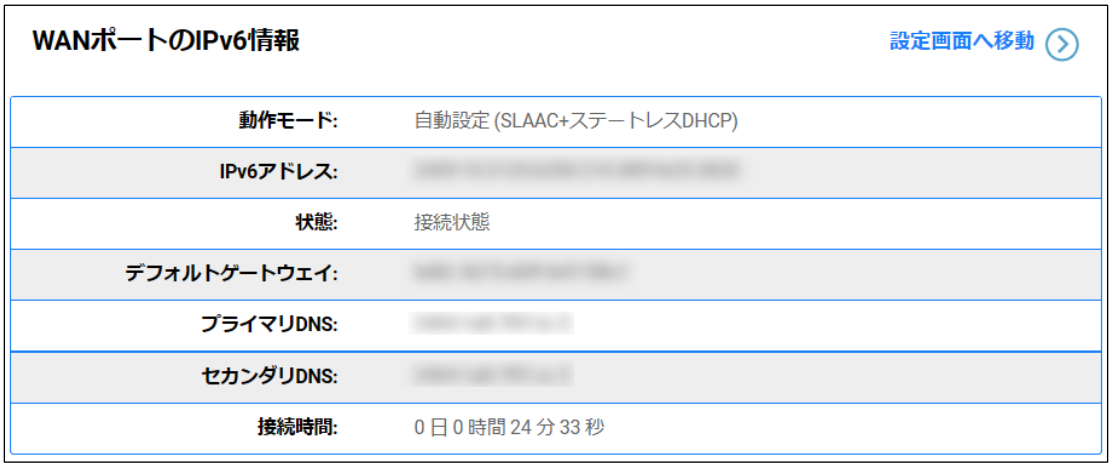
設定画面へ移動	ポート設定画面へ移動します。
●/●	緑はリンクアップ状態、赤はリンクダウン状態である事を表します。
インターフェース	インターフェース名を表示します。
リンク状態	リンク状態を表示します。
リンク速度	リンク速度を表示します。
デュプレックス	通信方式を表示します。

4-5.WAN ポートの情報

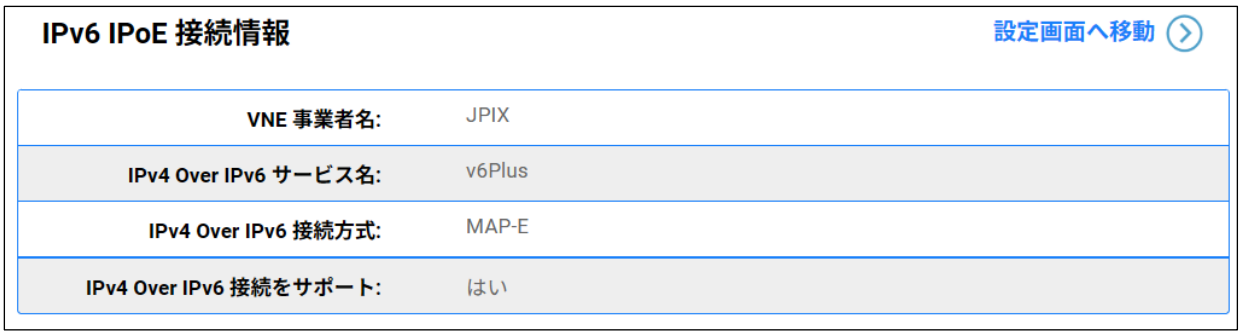
「WAN ポートの情報」をクリックすると、WAN ポートの情報が表示されます。

設定画面へ移動	WAN ポート設定画面へ移動します。
状態	WAN ポートの接続状態を表示します
動作モード	WAN ポートの動作モードを表示します。 DHCP クライアント:「**DHCP**」で設定されています。 IP アドレス固定:「**Static**」で設定されています。 PPPoE (動的 IP):「**PPPoE(Multi PPPoE) IP アドレス自動取得**」で設定されています。 PPPoE (静的 IP):「**PPPoE(Multi PPPoE) IP アドレス固定**」で設定されています。 PPPoE (アンナンバード):「**PPPoE Unnumbered**」で設定されています。 L2TP (動的 IP):「**L2TP IP アドレス自動取得**」で設定されています。 L2TP (静的 IP):「**L2TP IP アドレス固定**」で設定されています。 PPTP (動的 IP):「**PPTP IP アドレス自動取得**」で設定されています。 PPTP (静的 IP):「**PPTP IP アドレス固定**」で設定されています。 IPv4OverIPv6Auto:「**IPv4 Over IPv6 Auto**」で設定されています。 IPv4OverIPv6Transix:「**IPv4 Over IPv6 Transix Service(DS-Lite)**」で設定されています。 IPv4OverIPv6v6Plus:「**IPv4 Over IPv6 v6Plus(MAP-E)**」で設定されています。 IPv4OverIPv6v6Option:「**IPv4 Over IPv6 IPv6Option(MAP-E)**」で設定されています。

IP アドレス	WAN ポートの IPv4 アドレスが表示されます。
サブネットマスク	WAN ポートのサブネットマスクが表示されます。
MAC アドレス	WAN ポートの MAC アドレスが表示されます。
デフォルトゲートウェイ	WAN 側のデフォルトゲートウェイが表示されます。
プライマリ DNS～ フォース DNS	WAN 側の DNS サーバーIP アドレスが表示されます。
接続時間	WAN ポートの接続時間が表示されます。
ボタン	[Renew]:WAN 側 IP アドレスを取得します。 [Release]:WAN 側 IP アドレスを開放します。 [Connect]:「PPPoE(Multi PPPoE)」設定時に回線を接続します。 [Disconnect]:「PPPoE(Multi PPPoE)」設定時に回線を切断します。



設定画面へ移動	WAN ポート設定画面へ移動します。
動作モード	WAN ポートの動作モードを表示します。
IPv6 アドレス	WAN ポートの IPv6 アドレスが表示されます。
サブネットマスク	WAN ポートのサブネットマスクが表示されます。
MAC アドレス	WAN ポートの MAC アドレスが表示されます。
デフォルトゲートウェイ	WAN 側のデフォルトゲートウェイが表示されます。
プライマリ DNS～ フォース DNS	WAN 側の DNS サーバーIP アドレスが表示されます。
接続時間	WAN ポートの接続時間が表示されます。



設定画面へ移動	WAN ポート設定画面へ移動します。
VNE 事業者名	VNE 事業者名が表示されます。
IPv4 Over IPv6 サービス名	IPv4 Over IPv6 のサービス名を表示します。
IPv4 Over IPv6 接続方式	IPv4 Over IPv6 の接続方式を表示します。
IPv4 Over IPv6 接続をサポート	IPv4 Over IPv6 接続サポートか否かを表示します。

4-6.LAN ポート接続機器情報

「LAN ポート接続機器情報」をクリックすると、LAN ポート接続機器情報が表示されます。

設定画面へ移動	IP アドレス統計情報画面へ移動します。
登録名	デバイス名が表示されます。
IPv4 アドレス	デバイスの IPv4 アドレスが表示されます。
IPv6 アドレス	デバイスの IPv6 アドレスが表示されます。
MAC アドレス	デバイスの MAC アドレスが表示されます。

5.PPPoE クライアントで接続する（フレッツ光や eo 光等）

PPPoE によるユーザー認証が必要なプロバイダへ接続するために必要な設定について説明します。

確 認	**設定を行う前にプロバイダに接続するための認証 ID、パスワードの情報をお手元にご用意下さい。**
	MSS CLAMP は常に有効になっています。無効には変更できません。

■プロバイダから IP アドレスを自動取得する場合

→「5-1.PPPoE クライアント接続 IP アドレス自動取得」を参照して下さい。

■プロバイダから取得した IP アドレスを WAN ポートに固定する場合

→「5-2.PPPoE クライアント接続 IP アドレス固定」を参照して下さい。

■プロバイダから取得した複数の固定 IP アドレスを LAN 内で使用する場合

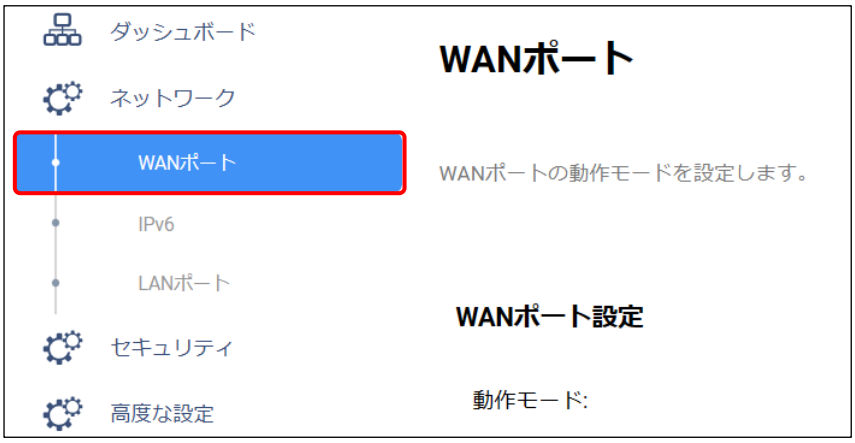
→「5-3.PPPoE クライアント接続 アンナンバード接続」を参照して下さい。

■複数のプロバイダへ接続する場合

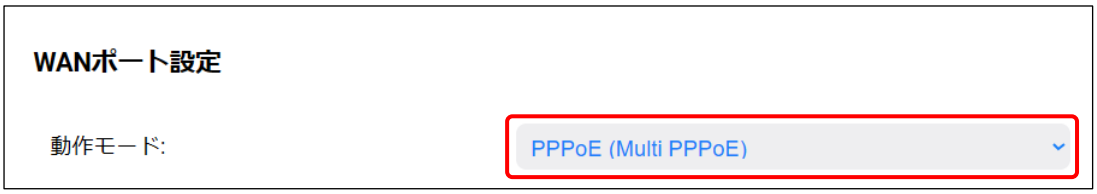
→「5-4.PPPoE クライアント接続 マルチセッション接続」を参照して下さい。

5-1.PPPoE クライアント接続 IP アドレス自動取得

①「ネットワーク」から「WAN ポート」をクリックして下さい。



②「動作モード」で「PPPoE（Multi PPPoE）」を選択して下さい。



③「PPPoE セッション 1」のアドレスモードで「IP アドレス自動取得」を選択して下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

④プロバイダの資料を参照し、接続 ID、パスワードを入力して下さい。

PPPoEセッション1

アドレスモード:	IPアドレス自動取得
ユーザー名:	*****@example1.ne.jp
パスワード:	••••••

確 認	ユーザー名とパスワードを入力する際、半角大文字と小文字を間違えないように注意して下さい。 ユーザー名とパスワードを間違えると接続できません。
	ユーザー名、パスワードは最大 60 文字(半角英数字)まで入力可能です。

⑤以下、必要に応じて設定して下さい。

回線接続方法:	常時接続
サービス名:	(オプション)
WAN側から取得したDNS情報を使用する:	ON
静的DNSサーバーを指定する:	OFF
MTU値:	1454
WANポートMACアドレスを設定する:	OFF
PPPoEセッション1をデフォルトゲートウェイに設定する:	ON
メトリック:	1

■回線接続方法

・常時接続

設定保存が完了した時点で PPPoE 接続を行い、常時接続状態になります。
回線切断された場合、NetGenesis は再接続動作を繰り返します。

・自動接続

LAN 内から WAN 側(インターネット)宛ての通信を NetGenesis が受け取ると、自動的に回線接続を行います。
回線切断の方法は、「ダッシュボード」画面の「WAN ポートの情報」欄の[Disconnect]ボタンでの回線切断と、無通信時間による自動切断の 2 種類があります。「無通信時間」には 1～999(分)を設定して下さい。

回線接続方法:	自動接続
無通信時間:	5 (分) (LANゲートウェイ機能が停止します)

・手動接続

「ダッシュボード」の「WAN ポートの情報」欄の[Connect]ボタンを押さないと回線接続されません。
回線切断の方法は、「ダッシュボード」の「WAN ポートの情報」欄の[Disconnect]ボタンを押さないと切断されません。

■サービス名

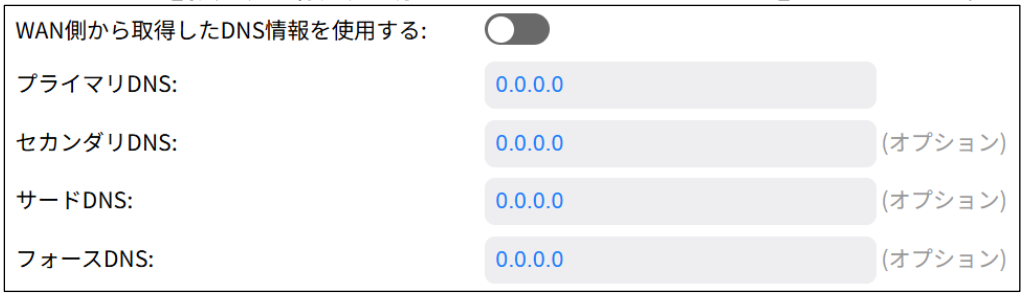
必要に応じてサービス名を入力して下さい。

確 認	プロバイダから特に指定が無い場合は、必ず空欄にして下さい。 不要な設定をすると接続できない場合がありますのでご注意下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

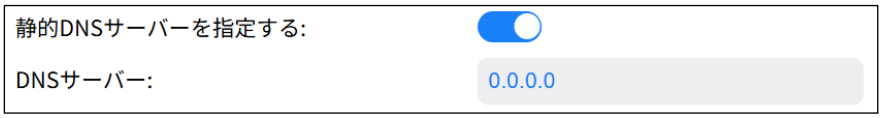
■**WAN 側から取得した DNS 情報を使用する**

有効にした場合、プロバイダから DNS サーバー情報を自動取得し、その情報を使用します。
DNS サーバーを指定する場合、無効にして DNS サーバーIP アドレスを入力して下さい。



■**静的 DNS サーバーを指定する**

有効にした場合、静的な DNS サーバーを設定する事ができます。
WAN 側から取得した DNS 情報と共に静的な DNS 情報を使用する場合に設定して下さい。

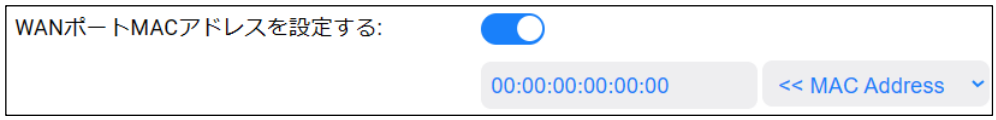


■**MTU 値**

MTU（Maximum Transmission Unit）とは「1 回の送信で送ることができる最大データサイズ」です。
工場出荷値は「1454」（単位：bytes）です。
設定変更の必要がある場合を除き、「1454」のままお使い下さい。

■**WAN ポート MAC アドレスを設定する**

有効にすると、LAN に接続されたデバイスの MAC アドレスがリストから選択する事ができます。



選択した MAC アドレスを WAN ポートの MAC アドレスとして接続します。
設定変更の必要がある場合を除き、「無効」のままお使い下さい。

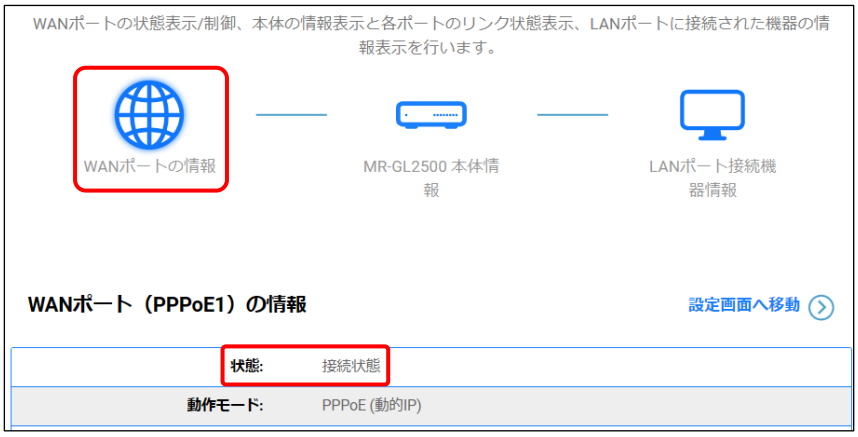
■**PPPoE セッション 1 をデフォルトゲートウェイに設定する、メトリック**

PPPoE セッション 1 のみを使用する場合は有効にして、メトリック「1」のままご利用下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンを押して下さい。

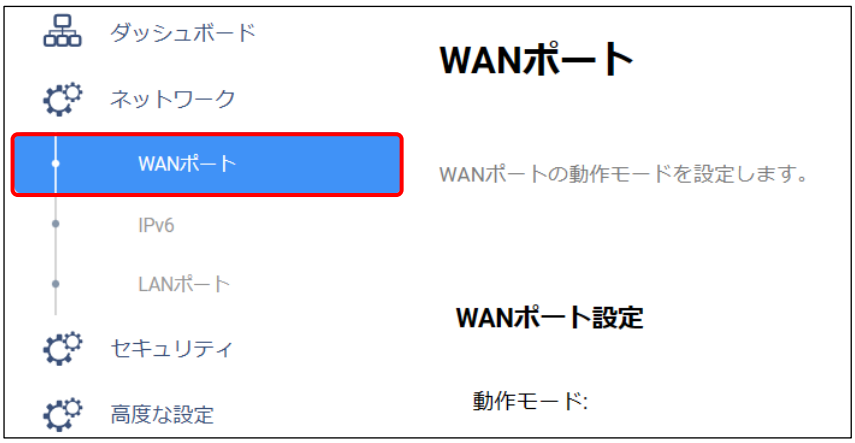
以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

ダッシュボード画面を開き、「WAN ポートの情報」をクリックして、状態が接続状態になっている事を確認して下さい。

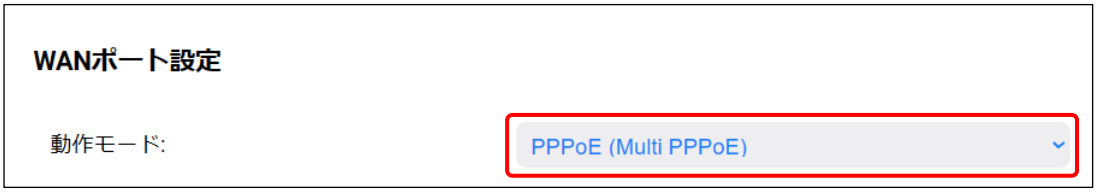


5-2.PPPoE クライアント接続 IP アドレス固定

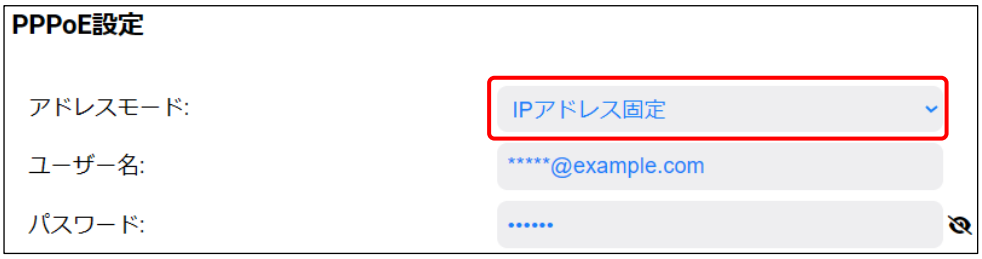
①「ネットワーク」から「WAN ポート」をクリックして下さい。



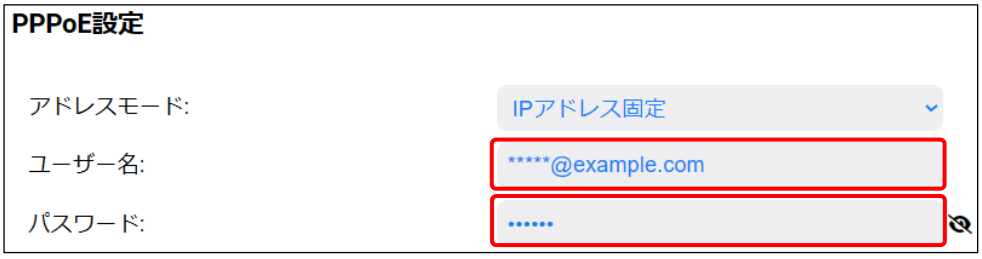
②「動作モード」で「PPPoE（Multi PPPoE）」を選択して下さい。



③「PPPoE 設定」のアドレスモードで「IP アドレス固定」を選択して下さい。



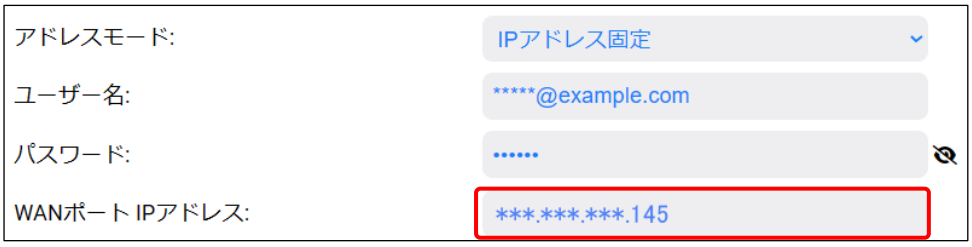
④プロバイダの資料を参照し、接続 ID、パスワードを入力して下さい。



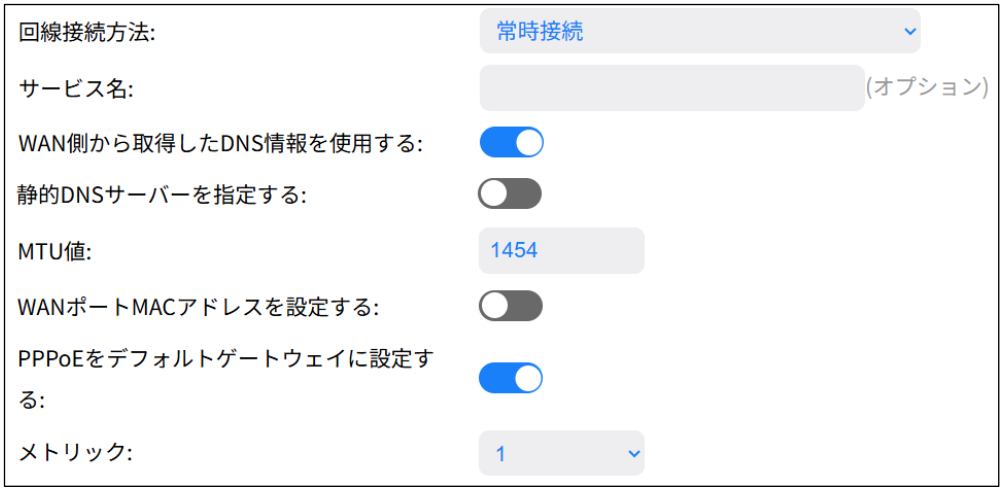
確 認	ユーザー名とパスワードを入力する際、半角大文字と小文字を間違えないように注意して下さい。 ユーザー名とパスワードを間違えると接続できません。
	ユーザー名、パスワードは最大 60 文字（半角英数字）まで入力可能です。

〈次ページへ進んで下さい〉

⑤「WAN ポート IP アドレス」欄にプロバイダから取得した IP アドレスを入力して下さい。



⑥以下、必要に応じて設定して下さい。



■回線接続方法

・常時接続

設定保存が完了した時点で PPPoE 接続を行い、常時接続状態になります。
回線切断された場合、NetGenesis は再接続動作を繰り返します。

・自動接続

LAN 内から WAN 側（インターネット）宛ての通信を NetGenesis が受け取ると、自動的に回線接続を行います。
回線切断の方法は、「ダッシュボード」画面の「WAN ポートの情報」欄の[Disconnect]ボタンでの回線切断と、無通信時間による自動切断の 2 種類があります。「無通信時間」には 1～999（分）を設定して下さい。

・手動接続

「ダッシュボード」の「WAN ポートの情報」欄の[Connect]ボタンを押さないと回線接続されません。
回線切断の方法は、「ダッシュボード」の「WAN ポートの情報」欄の[Disconnect]ボタンを押さないと切断されません。

■サービス名

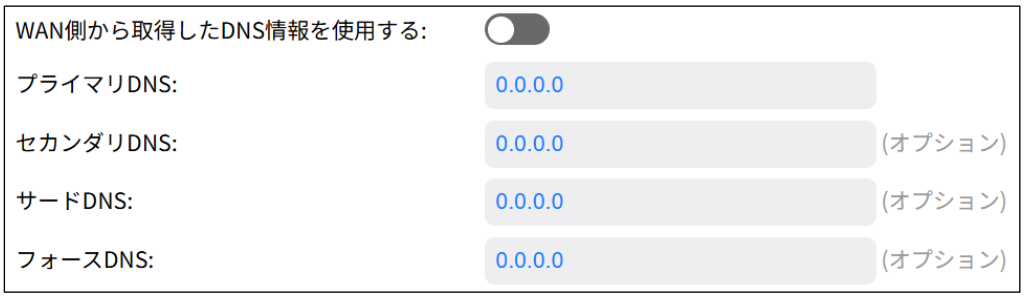
必要に応じてサービス名を入力して下さい。

確 認	プロバイダから特に指定が無い場合は、必ず空欄にして下さい。 不要な設定をすると接続できない場合がありますのでご注意下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

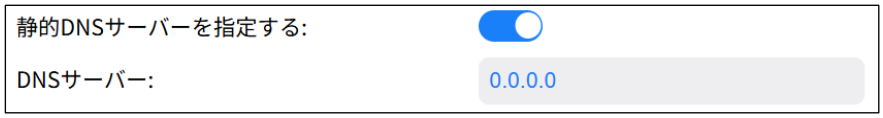
■**WAN 側から取得した DNS 情報を使用する**

有効にした場合、プロバイダから DNS サーバー情報を自動取得し、その情報を使用します。
DNS サーバーを指定する場合、無効にして DNS サーバーIP アドレスを入力して下さい。



■**静的 DNS サーバーを指定する**

有効にした場合、静的な DNS サーバーを設定する事ができます。
WAN 側から取得した DNS 情報と共に静的な DNS 情報を使用する場合に設定して下さい。

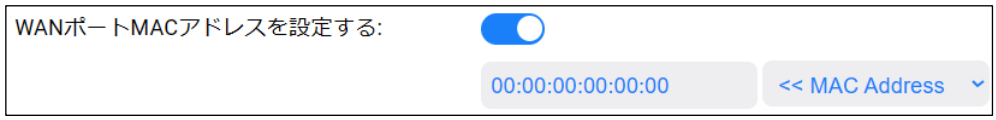


■**MTU 値**

MTU（Maximum Transmission Unit）とは「1 回の送信で送ることができる最大データサイズ」です。
工場出荷値は「1454」（単位：bytes）です。
設定変更の必要がある場合を除き、「1454」のままお使い下さい。

■**WAN ポート MAC アドレスを設定する**

有効にすると、LAN に接続されたデバイスの MAC アドレスがリストから選択する事ができます。



選択した MAC アドレスを WAN ポートの MAC アドレスとして接続します。
設定変更の必要がある場合を除き、「無効」のままお使い下さい。

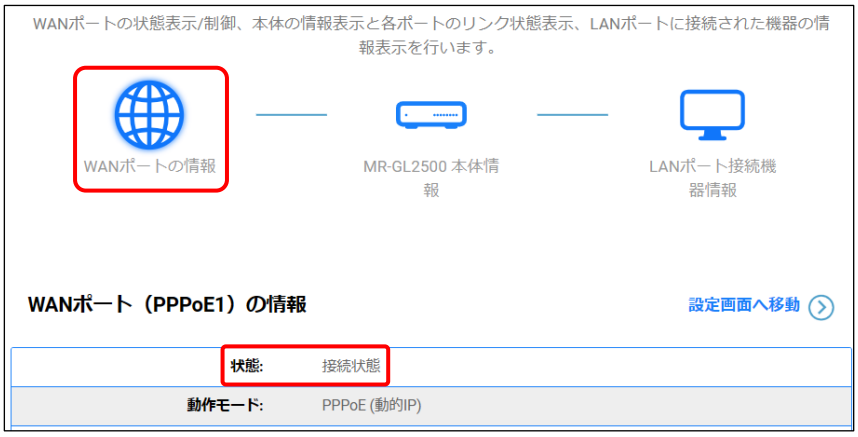
■**PPPoE をデフォルトゲートウェイに設定する、メトリック:**

PPPoE ポートを使用する場合は有効にして、メトリック「1」のままご利用下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンを押して下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

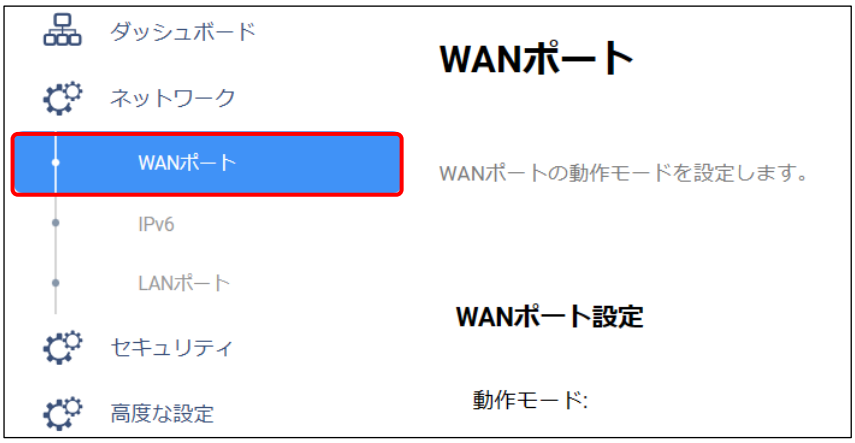
ダッシュボード画面を開き、「WAN ポートの情報」をクリックして、状態が接続状態になっている事を確認して下さい。



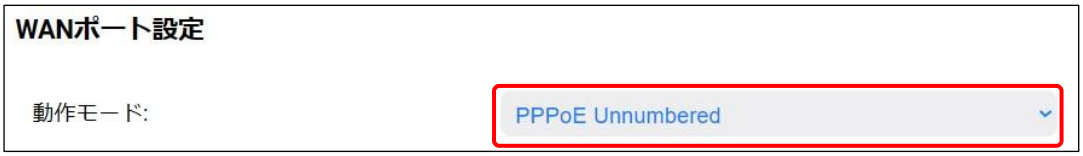
5-3.PPPoE クライアント接続 アンナンバード接続

確 認	あらかじめプロバイダから付与された IP アドレスのうち、NetGenesis に割り当てる IP アドレスを決めて下さい。 NetGenesis には、ネットワークアドレス、ブロードキャストアドレス（取得した IP アドレス範囲の先頭と最後の IP アドレス）以外の使用可能な IP アドレスのうち 1 つを割り当てて下さい。

①「ネットワーク」から「WAN ポート」をクリックして下さい。



②「動作モード」で「PPPoE Unnumbered」を選択して下さい。

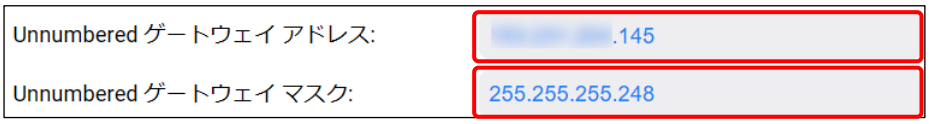


③プロバイダの資料を参照し、接続 ID、パスワードを入力して下さい。

確 認	ユーザー名とパスワードを入力する際、半角大文字と小文字を間違えないように注意して下さい。 ユーザー名とパスワードを間違えると接続できません。
	ユーザー名、パスワードは最大 60 文字（半角英数字）まで入力可能です。

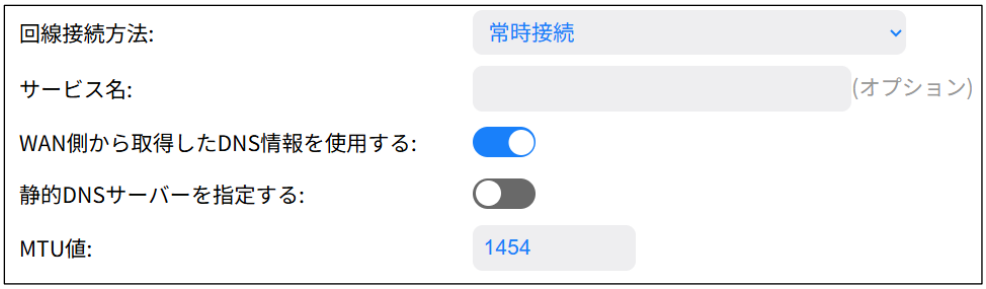
④「Unnumbered ゲートウェイ アドレス」にプロバイダから取得した IP アドレスの中から、NetGenesis に割り当てる IP アドレスを入力して下さい。

「Unnumbered ゲートウェイ マスク」にプロバイダから指定されたサブネットマスクを設定して下さい。



〈次ページへ進んで下さい〉

⑤以下、必要に応じて設定して下さい。



■**回線接続方法**

「常時接続」固定です。

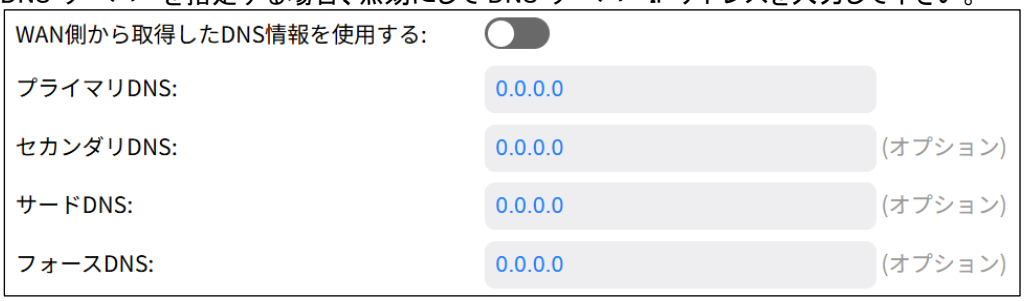
■**サービス名**

必要に応じてサービス名を入力して下さい。

確認	プロバイダから特に指定が無い場合は、必ず空欄にして下さい。 不要な設定をすると接続できない場合がありますのでご注意下さい。

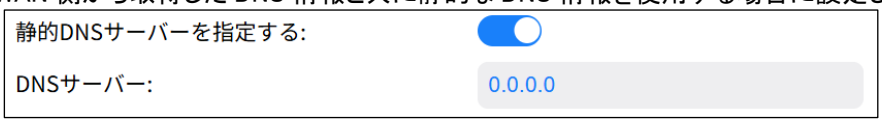
■**WAN 側から取得した DNS 情報を使用する**

有効にした場合、プロバイダから DNS サーバー情報を自動取得し、その情報を使用します。
DNS サーバーを指定する場合、無効にして DNS サーバーIP アドレスを入力して下さい。



■**静的 DNS サーバーを指定する**

有効にした場合、静的な DNS サーバーを設定する事ができます。
WAN 側から取得した DNS 情報と共に静的な DNS 情報を使用する場合に設定して下さい。



■**MTU 値**

MTU（Maximum Transmission Unit）とは「1 回の送信で送ることができる最大データサイズ」です。
工場出荷値は「1454」（単位：bytes）です。
設定変更の必要がある場合を除き、「1454」のままお使い下さい。

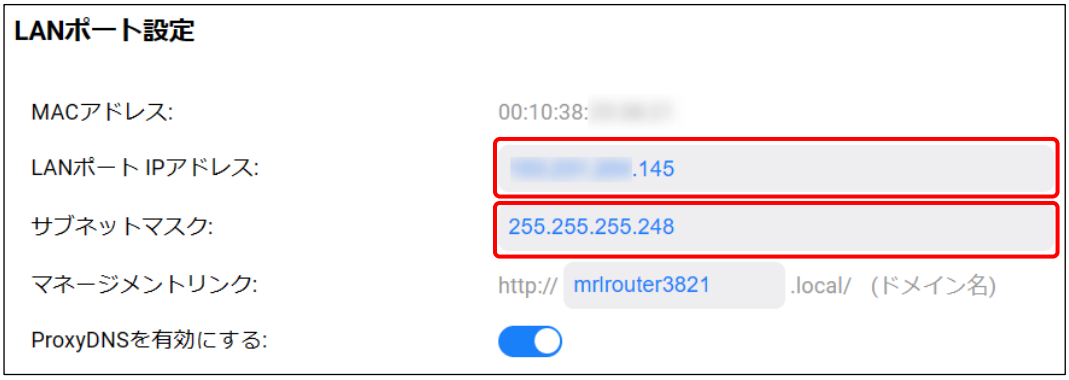
⑥設定が終わりましたら、［設定保存］ボタンを押して下さい。

⑦以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

〈次ページへ進んで下さい〉

⑧「ネットワーク」から「LAN ポート」をクリックして下さい。

⑨「IP アドレス」にプロバイダから取得した IP アドレスの中から、NetGenesis に割り当てる IP アドレスを入力して下さい。
「サブネットマスク」にプロバイダから指定されたサブネットマスクを設定して下さい。



⑩DHCP サーバー設定の「機能を有効にする」を無効にして下さい。

確認	本マニュアルでは DHCP サーバー機能を無効にする前提で説明していますが、有効にする事も可能です。 その場合、「付与 IP アドレスの範囲」の設定変更が必要になります。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンを押して下さい。

以下のメッセージが表示されます。

メッセージが消えたあと「接続が中断されました」など、WWWブラウザでエラーが表示されます。

パソコンにプロバイダから付与された IP アドレスを固定設定して下さい。

WWW ブラウザのアドレス入力欄に、手順⑨で設定した IP アドレスを入力して設定画面にログインしなおして下さい。

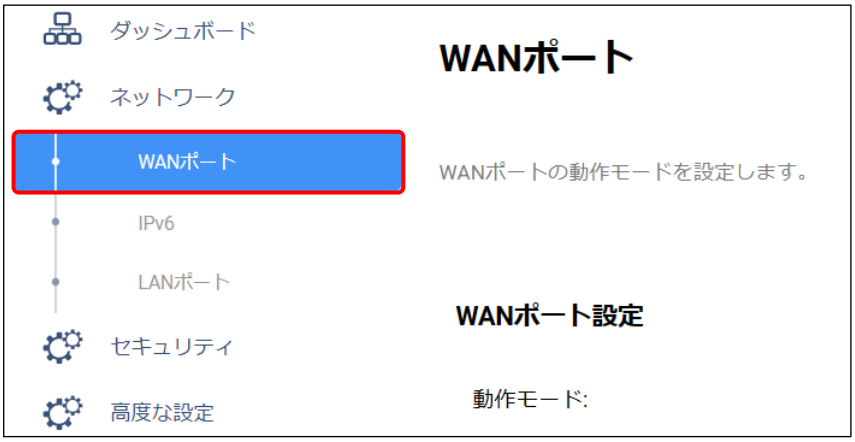
〈次ページへ進んで下さい〉

ダッシュボード画面を開き、「WAN ポートの情報」をクリックして、状態が接続状態になっている事を確認して下さい。

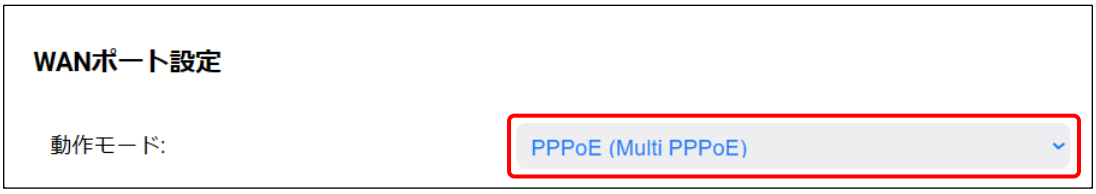
確 認	本項目では、PPPoE セッション 1 と PPPoE セッション 2 を同時に接続する設定例を用いて説明しています。 PPPoE セッション 3 と PPPoE セッション 4 を接続する場合は、PPPoE セッション 2 の設定（手順⑥～⑧）と同じ手順で設定を行って下さい。

5-4-1.PPPoE マルチセッション接続設定

①「ネットワーク」から「WAN ポート」をクリックして下さい。



②「動作モード」で「PPPoE（Multi PPPoE）」を選択して下さい。

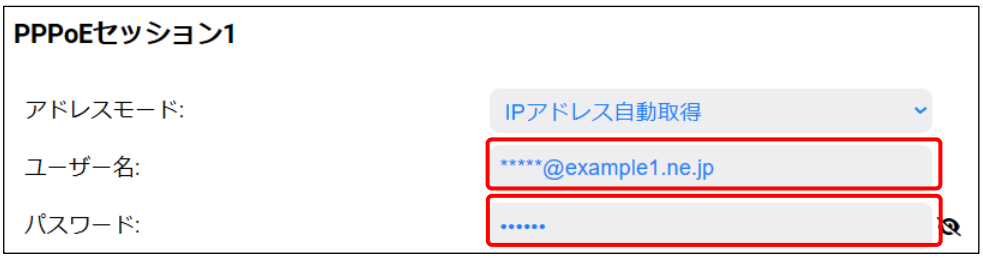


③「PPPoE セッション 1」のアドレスモードで「IP アドレス自動取得」を選択して下さい。

確 認	PPPoE マルチセッション接続は、アドレスモードで「IP アドレス自動取得」を選択したときのみ設定可能です。

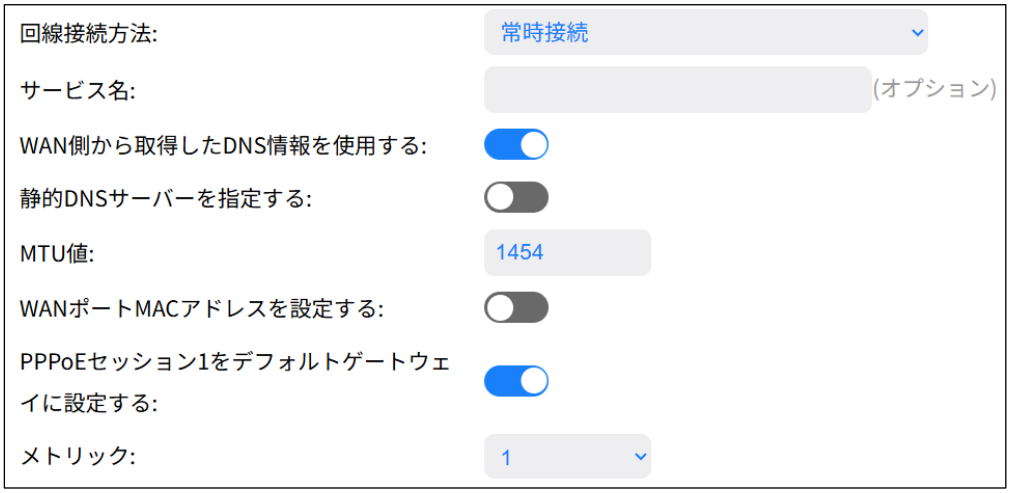
〈次ページへ進んで下さい〉

④プロバイダの資料を参照し、接続 ID、パスワードを入力して下さい。



確 認	ユーザー名とパスワードを入力する際、半角大文字と小文字を間違えないように注意して下さい。 ユーザー名とパスワードを間違えると接続できません。
	ユーザー名、パスワードは最大 60 文字(半角英数字)まで入力可能です。

⑤以下、必要に応じて設定して下さい。



■回線接続方法

・常時接続

設定保存が完了した時点で PPPoE 接続を行い、常時接続状態になります。
回線切断された場合、NetGenesis は再接続動作を繰り返します。

・自動接続

LAN 内から WAN 側(インターネット)宛ての通信を NetGenesis が受け取ると、自動的に回線接続を行います。
回線切断の方法は、「ダッシュボード」画面の「WAN ポートの情報」欄の[Disconnect]ボタンでの回線切断と、無通信時間による自動切断の 2 種類があります。「無通信時間」には 1～999(分)を設定して下さい。

・手動接続

「ダッシュボード」の「WAN ポートの情報」欄の[Connect]ボタンを押さないと回線接続されません。
回線切断の方法は、「ダッシュボード」の「WAN ポートの情報」欄の[Disconnect]ボタンを押さないと切断されません。

■サービス名

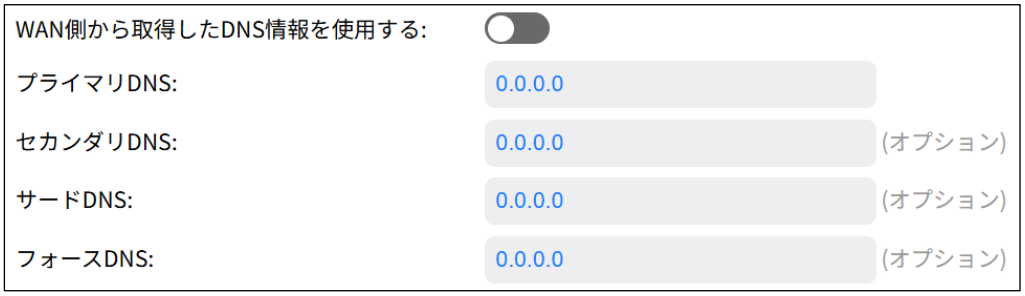
必要に応じてサービス名を入力して下さい。

確 認	プロバイダから特に指定が無い場合は、必ず空欄にして下さい。 不要な設定をすると接続できない場合がありますのでご注意下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

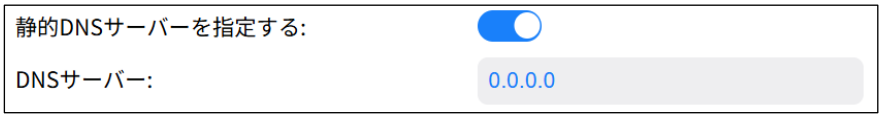
■**WAN 側から取得した DNS 情報を使用する**

有効にした場合、プロバイダから DNS サーバー情報を自動取得し、その情報を使用します。
DNS サーバーを指定する場合、無効にして DNS サーバーIP アドレスを入力して下さい。



■**静的 DNS サーバーを指定する**

有効にした場合、静的な DNS サーバーを設定する事ができます。
WAN 側から取得した DNS 情報と共に静的な DNS 情報を使用する場合に設定して下さい。

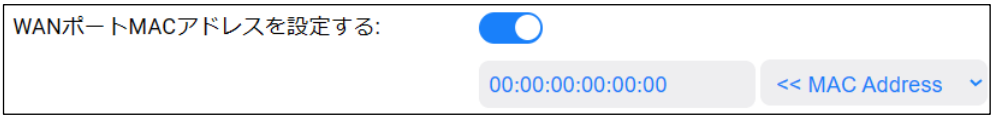


■**MTU 値**

MTU（Maximum Transmission Unit）とは「1 回の送信で送ることができる最大データサイズ」です。
工場出荷値は「1454」（単位：bytes）です。
設定変更の必要がある場合を除き、「1454」のままお使い下さい。

■**WAN ポート MAC アドレスを設定する**

有効にすると、LAN に接続されたデバイスの MAC アドレスがリストから選択する事ができます。



選択した MAC アドレスを WAN ポートの MAC アドレスとして接続します。
設定変更の必要がある場合を除き、「無効」のままお使い下さい。

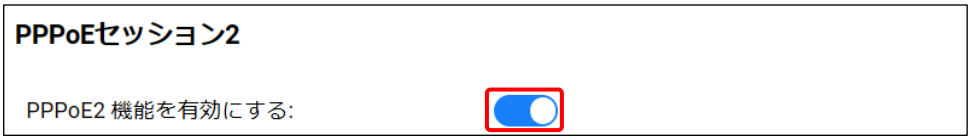
■**PPPoE セッション 1 をデフォルトゲートウェイに設定する**

PPPoE セッション 1 をデフォルトゲートウェイに設定する場合、有効にして下さい。

■**メトリック**

メトリック（ルーティングの優先順位）を設定して下さい。
PPPoE セッション 1 を優先する場合、メトリックで「1」を選択して下さい。

⑥「PPPoE2 機能を有効にする」を有効にして下さい。



⑦プロバイダの資料を参照し、PPPoE セッション 2 の接続 ID、パスワードを入力して下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

⑧以下、必要に応じて設定して下さい。

回線接続方法:	常時接続
サービス名:	(オプション)
WAN側から取得したDNS情報を使用する:	ON
MTU値:	1454
PPPoEセッション2をデフォルトゲートウェイに設定する:	ON
メトリック:	2

■回線接続方法

・常時接続

設定保存が完了した時点で PPPoE 接続を行い、常時接続状態になります。
回線切断された場合、NetGenesis は再接続動作を繰り返します。

・手動接続

「ダッシュボード」の「WAN ポートの情報」欄の[Connect]ボタンを押さないと回線接続されません。
回線切断の方法は、「ダッシュボード」の「WAN ポートの情報」欄の[Disconnect]ボタンを押さないと切断されません。

■サービス名

必要に応じてサービス名を入力して下さい。

確 認	プロバイダから特に指定が無い場合は、必ず空欄にして下さい。 不要な設定をすると接続できない場合がありますのでご注意下さい。

■WAN 側から取得した DNS 情報を使用する

有効にした場合、プロバイダから DNS サーバー情報を自動取得し、その情報を使用します。
DNS サーバーを指定する場合、無効にして DNS サーバーIP アドレスを入力して下さい。

WAN側から取得したDNS情報を使用する:	OFF	
プライマリDNS:	0.0.0.0	
セカンダリDNS:	0.0.0.0	(オプション)
サードDNS:	0.0.0.0	(オプション)
フォースDNS:	0.0.0.0	(オプション)

■MTU 値

MTU(Maximum Transmission Unit)とは「1 回の送信で送ることができる最大データサイズ」です。
工場出荷値は「1454」(単位:bytes)です。
設定変更の必要がある場合を除き、「1454」のままお使い下さい。

■PPPoE セッション 2 をデフォルトゲートウェイに設定する

PPPoE セッション 2 をデフォルトゲートウェイに設定する場合、有効にして下さい。

■メトリック

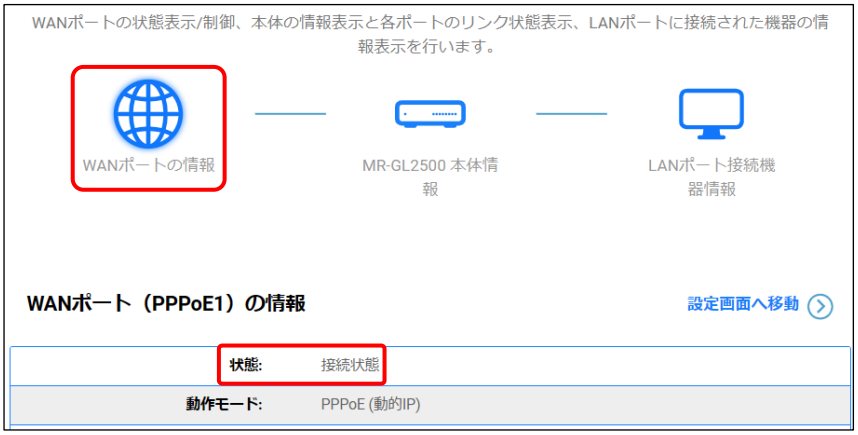
メトリック(ルーティングの優先順位)を設定して下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンを押して下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

ダッシュボード画面を開き、「WAN ポートの情報」をクリックして、状態が接続状態になっている事を確認して下さい。



宛先 IP アドレス（ネットワークアドレス）により通信を振り分ける場合、「5-4-2.スタティックルーティング設定」（次ページ）へ進んで下さい。

5-4-2.スタティックルーティング設定

宛先 IP アドレス(ネットワークアドレス)により通信を振り分けるスタティックルーティング設定について説明します。

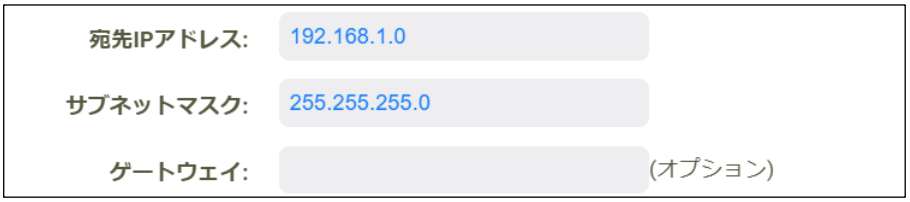
確 認	本項目では、ネットワークアドレス「192.168.1.0、255.255.255.0」宛の通信を、PPPoE セッション 2 へ振り分ける例を元に説明します。

①「高度な設定」から「ルーティング」をクリックして下さい。

②「IPv4 スタティックルーティング設定」の[追加]ボタンをクリックして下さい。「登録追加」画面が表示されます。

③「登録名」に判別しやすい名前を半角英数字で入力して下さい。

④「宛先 IP アドレス」に送信先の IP アドレス(ネットワークアドレス)とサブネットマスクを入力して下さい。
ゲートウェイは空欄にして下さい。

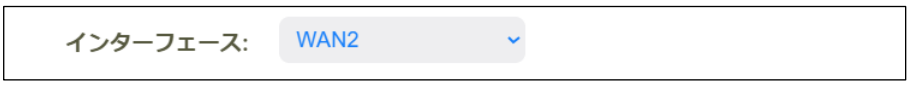


〈次のページへ進んで下さい〉

⑤メトリックに「1」を入力して下さい。

⑥インターフェースで通信を振り分ける PPPoE セッションを選択して下さい。

本設定例では、PPPoE セッション 2 へ振り分けますので、「WAN2」を選択して下さい。



WAN	PPPoE セッション 1 へルーティングします。
WAN2	PPPoE セッション 2 へルーティングします。
WAN3	PPPoE セッション 3 へルーティングします。
WAN4	PPPoE セッション 4 へルーティングします。

⑦設定が終わりましたら、[OK]ボタンをクリックして下さい。

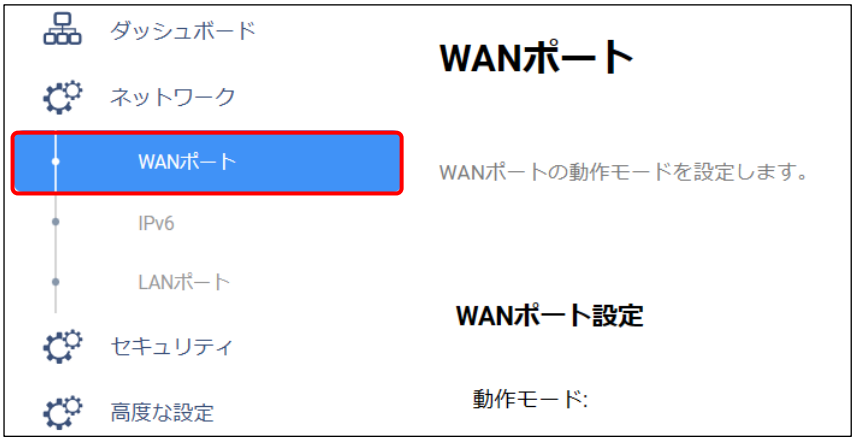
⑧PPPoE セッション 2 へのルーティング設定が追加されます。

以上でルーティング設定は完了です。

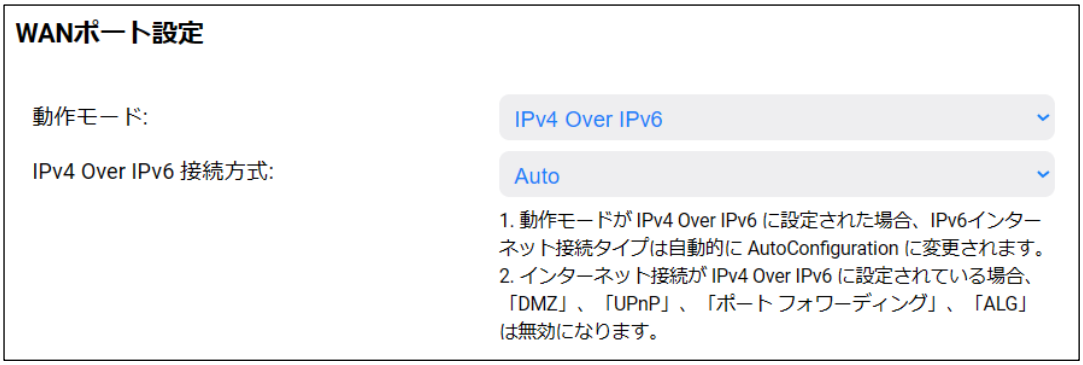
6.IPv4 Over IPv6 で接続する(DS-Lite、MAP-E 等)

IPv4 Over IPv6 で接続する方法について説明します。

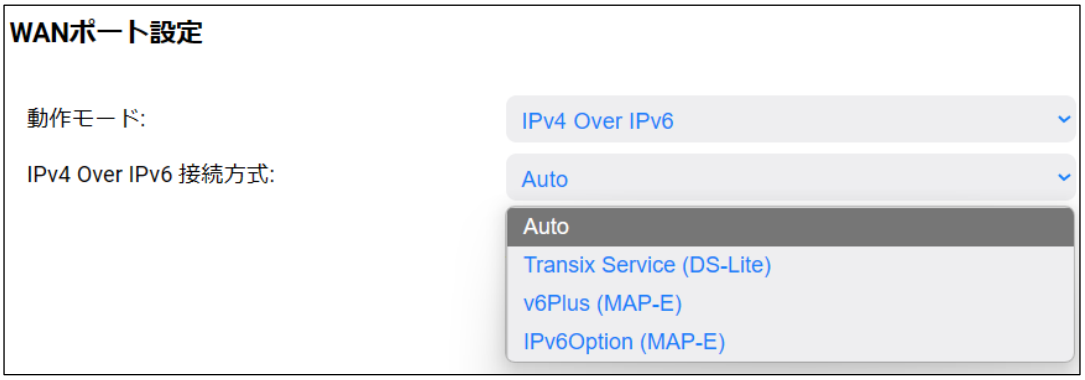
①「ネットワーク」から「WAN ポート」をクリックして下さい。



②「動作モード」で「IPv4 Over IPv6」を選択して下さい。



③「IPv4 Over IPv6 接続方式」を選択して下さい。



Auto	WAN 側の回線を自動判別して接続します。
Transix Service (DS-Lite)	インターネットマルチフィード株式会社が提供する「transix」(DS-Lite 方式)で IPv4 over IPv6 通信を行います。
v6Plus (MAP-E)	株式会社 JPIX が提供する「v6 プラス」(MAP-E 方式)で IPv4 over IPv6 通信を行います。
IPv6Option (MAP-E)	ビッグローブ株式会社が提供する「IPv6 オプション」(MAP-E 方式)で IPv4 over IPv6 通信を行います。

〈次ページへ進んで下さい〉

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンを押して下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

ダッシュボード画面を開き、「WAN ポートの情報」をクリックして、状態が接続状態になっている事を確認して下さい。

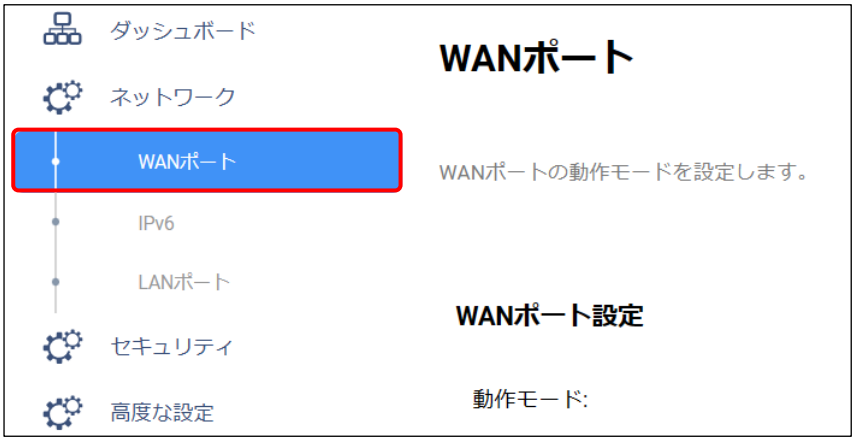
確 認	動作モードを「IPv4 over IPv6」に設定した場合、IPv6 設定の動作モード設定は自動的に「AutoConfiguration」が設定されます。このため IPv6 設定は不要になります。
	WAN ポートで IPv4 over IPv6 回線を他の回線に繋ぎ替えた場合 （例えば、Transix 回線 から v6 プラス回線に繋ぎ替えた場合 等）は 本体の電源を OFF/ON して再起動して下さい。
	動作モードを「IPv4 over IPv6」に設定した場合、下記の機能は使用できません。 ・ポートフォワーディング ・DMZ ・UPnP ・WAN 側からの Ping に応答する ・WAN 側からのリモート設定 ・MR-IDM 機能のリモート管理

7.DHCP クライアントで接続する（CATV や社内 LAN 等）

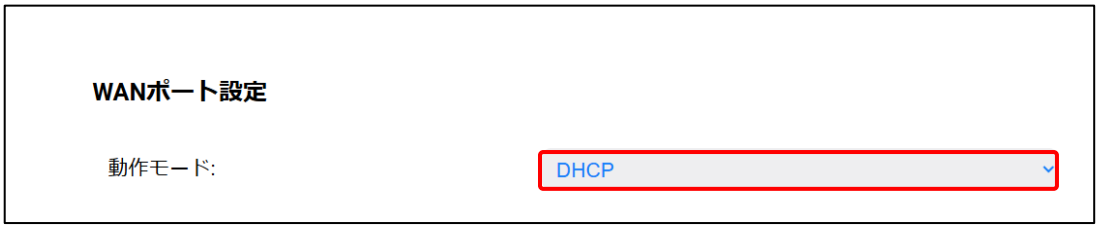
CATV 等、プロバイダ（の DHCP サーバー）から IP アドレスを自動取得する場合の設定について説明します。

確 認	NetGenesis は工場出荷値、WAN ポートの動作モードは DHCP クライアントで設定します。 設定をせずにケーブルを接続するだけでインターネットへ接続する事も可能です。

①「ネットワーク」から「WAN ポート」をクリックして下さい。



②「動作モード」で「DHCP」を選択して下さい。



③以下、必要に応じて設定して下さい。

■ホスト名

必要に応じて、半角英数字でホスト名を設定して下さい。

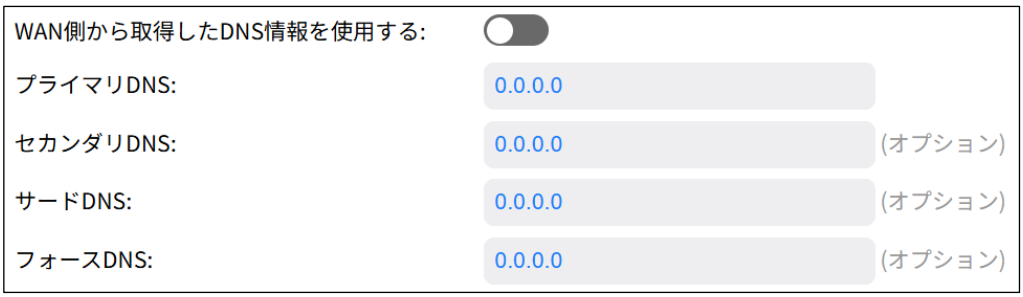
設定変更の必要がある場合を除き、「MR-GL2500」のままお使い下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

■WAN 側から取得した DNS 情報を使用する

有効にした場合、プロバイダから DNS サーバー情報を自動取得し、その情報を使用します。

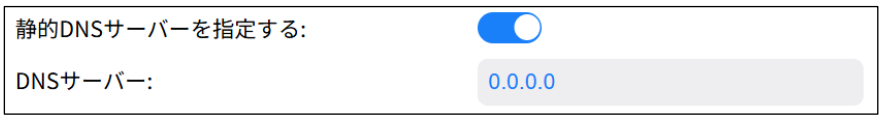
DNS サーバーを指定する場合、無効にして DNS サーバーIP アドレスを入力して下さい。



■静的 DNS サーバーを指定する

有効にすると、静的な DNS サーバーを設定する事ができます。

WAN 側から取得した DNS 情報と共に静的な DNS 情報を使用する場合に設定して下さい。



■MTU 値

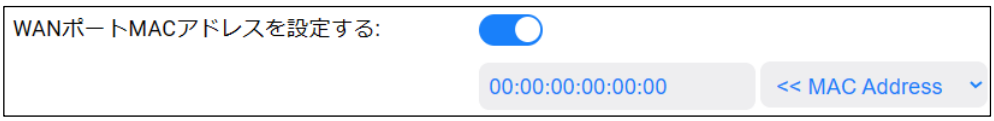
MTU(Maximum Transmission Unit)とは「1 回の送信で送ることができる最大データサイズ」です。

工場出荷値は「1500 バイト」です。

設定変更の必要がある場合を除き、「1500」のままお使い下さい。

■WAN ポート MAC アドレスを設定する

有効にすると、LAN に接続されたデバイスの MAC アドレスがリストから選択する事ができます。



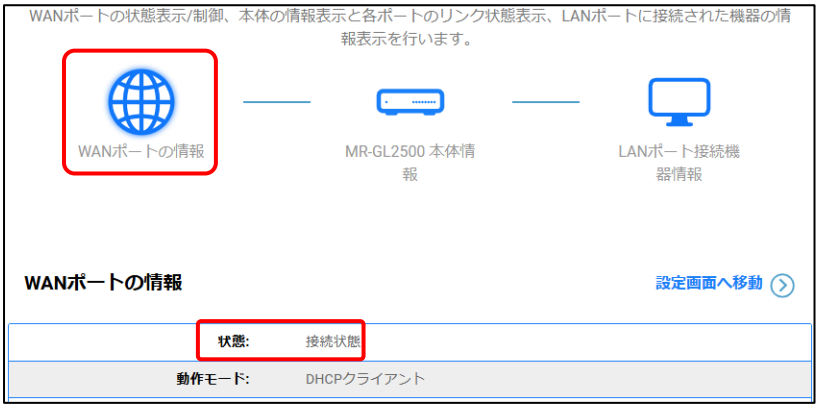
選択した MAC アドレスを WAN ポート MAC アドレスとして接続します。

設定変更の必要がある場合を除き、「無効」のままお使い下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンを押して下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

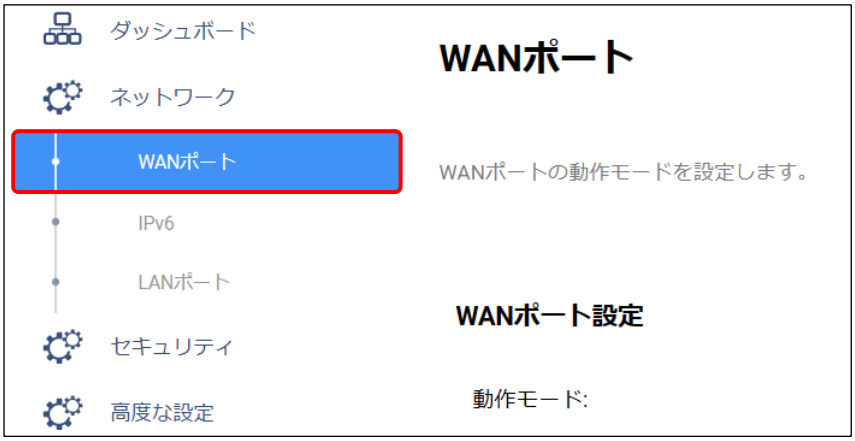
ダッシュボード画面を開き、「WAN ポートの情報」をクリックして、状態が接続状態になっている事を確認して下さい。



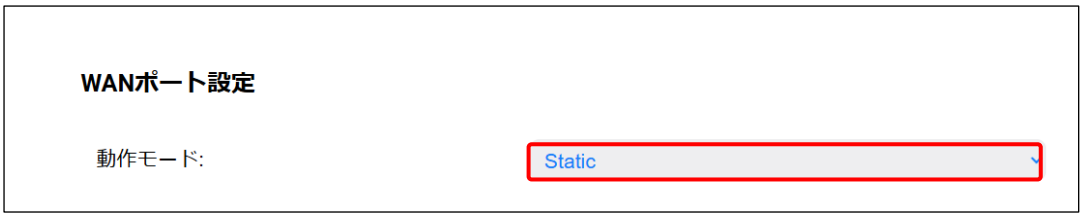
8.IP アドレス固定で接続する（CATV や社内 LAN 等）

静的な IP アドレスを固定する設定について説明します。

①「ネットワーク」から「WAN ポート」をクリックして下さい。



②「動作モード」で「Static」を選択して下さい。



③以下、必要に応じて設定して下さい。

■WAN ポート IP アドレス

NetGenesis の WAN ポートの IP アドレスを入力して下さい。

■WAN ポートサブネットマスク

NetGenesis の WAN ポートのサブネットマスクを入力して下さい。

■WAN ポートデフォルトゲートウェイ

NetGenesis の WAN ポートのデフォルトゲートウェイを入力して下さい。

■プライマリ DNS～フォース DNS

DNS サーバーIP アドレスを入力して下さい。

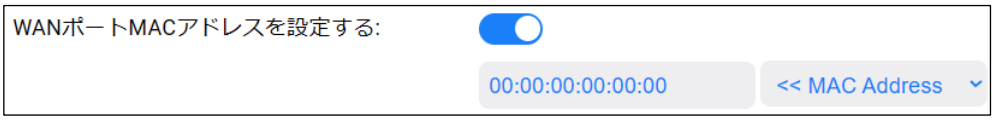
〈次ページへ進んで下さい〉

■MTU 値

MTU（Maximum Transmission Unit）とは「1 回の送信で送ることができる最大データサイズ」です。
工場出荷値は「1500 バイト」です。
設定変更の必要がある場合を除き、「1500」のままお使い下さい。

■WAN ポート MAC アドレスを設定する

有効にすると、LAN に接続されたデバイスの MAC アドレスがリストから選択する事ができます。

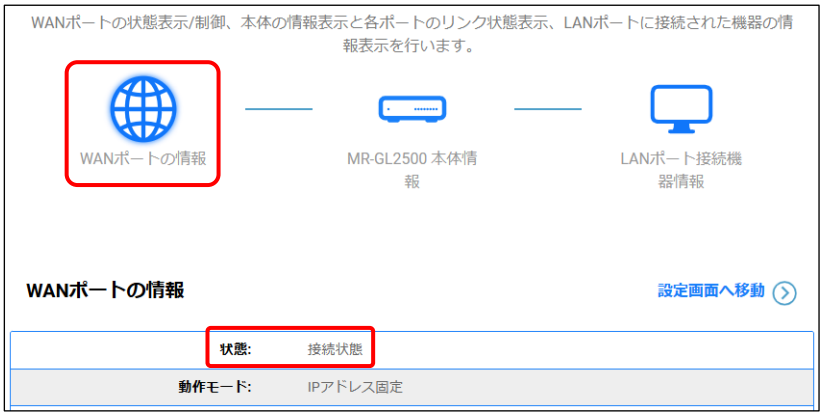


選択した MAC アドレスを WAN ポート MAC アドレスとして接続します。
設定変更の必要がある場合を除き、「無効」のままお使い下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンを押して下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

ダッシュボード画面を開き、「WAN ポートの情報」をクリックして、状態が接続状態になっている事を確認して下さい。



9.VPN 接続を行う

VPN サーバーへ接続するための設定について説明します。

9-1.L2TP 接続

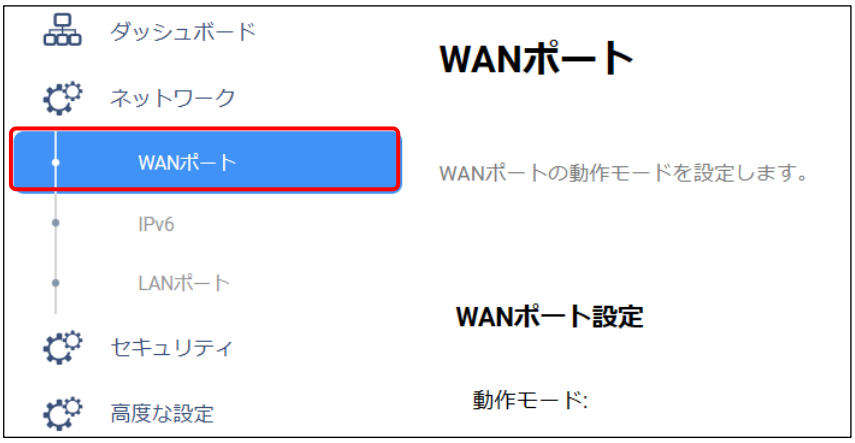
L2TP サーバーへ接続するための設定について説明します。

確 認	本機能は暗号化に対応していません。 閉域網での拠点間接続で使用することを想定した機能ですのでご注意下さい。

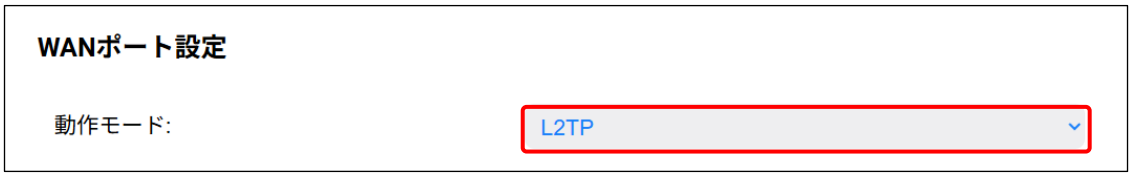
9-1-1. L2TP 接続 IP アドレス自動取得設定

L2TP 接続の際、NetGenesis の WAN ポート IP アドレスを DHCP クライアントから自動取得する場合の設定について説明します。

①「ネットワーク」から「WAN ポート」をクリックして下さい。



②「動作モード」で「L2TP」を選択して下さい。



③以下、各項目を設定して下さい。

■アドレスモード
「IP アドレス自動取得」を選択して下さい。WAN ポート IP アドレスを DHCP クライアントにより自動取得します。

■ユーザー名
L2TP サーバーへ接続するためのユーザー名を入力して下さい。

■パスワード
L2TP サーバーへ接続するためのパスワードを入力して下さい。

■L2TP サーバーIP アドレス
L2TP サーバーの IP アドレスを入力して下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

■WAN 側から取得した DNS 情報を使用する

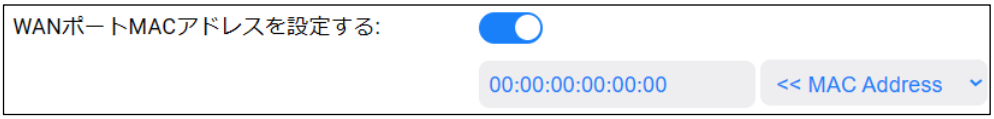
有効にした場合、プロバイダから DNS サーバー情報を自動取得し、その情報を使用します。
DNS サーバーを指定する場合、無効にして DNS サーバーIP アドレスを入力して下さい。

■MTU 値

MTU（Maximum Transmission Unit）とは「1 回の送信で送ることができる最大データサイズ」です。
工場出荷値は「1400」（単位：bytes）です。
設定変更の必要がある場合を除き、「1400」のままお使い下さい。

■WAN ポート MAC アドレスを設定する

有効にすると、LAN に接続されたデバイスの MAC アドレスがリストから選択する事ができます。



選択した MAC アドレスを WAN ポートの MAC アドレスとして接続します。
設定変更の必要がある場合を除き、「無効」のままお使い下さい。

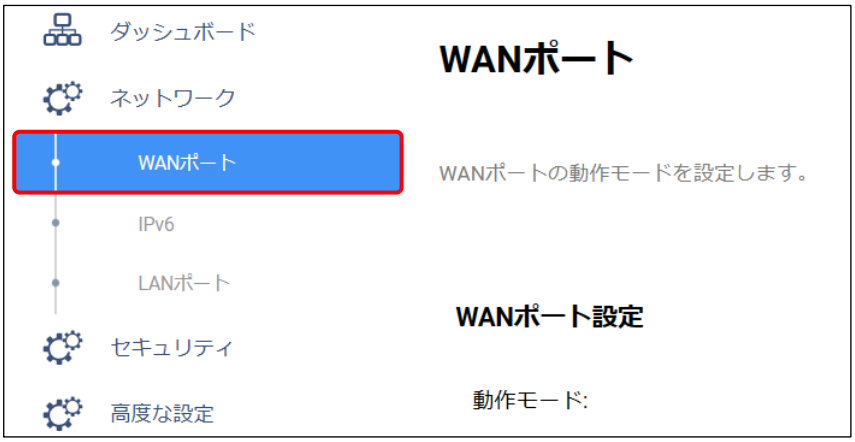
④設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンを押して下さい。

⑤以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

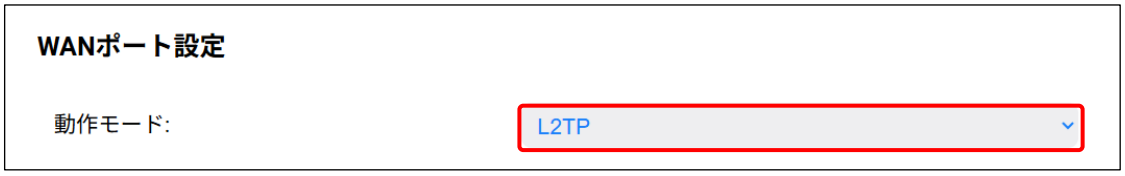
9-1-2. L2TP 接続 IP アドレス固定設定

L2TP 接続の際、NetGenesis の WAN ポート IP アドレスを固定 IP アドレスにする場合の設定について説明します。

①「ネットワーク」から「WAN ポート」をクリックして下さい。



②「動作モード」で「L2TP」を選択して下さい。



③以下、各項目を設定して下さい。

■**アドレスモード**
「IP アドレス固定」を選択して下さい。WAN ポート IP アドレスを静的に設定します。

■**ユーザー名**
L2TP サーバーへ接続するためのユーザー名を入力して下さい。

■**パスワード**
L2TP サーバーへ接続するためのパスワードを入力して下さい。

■**L2TP サーバーIP アドレス**
L2TP サーバーの IP アドレスを入力して下さい。

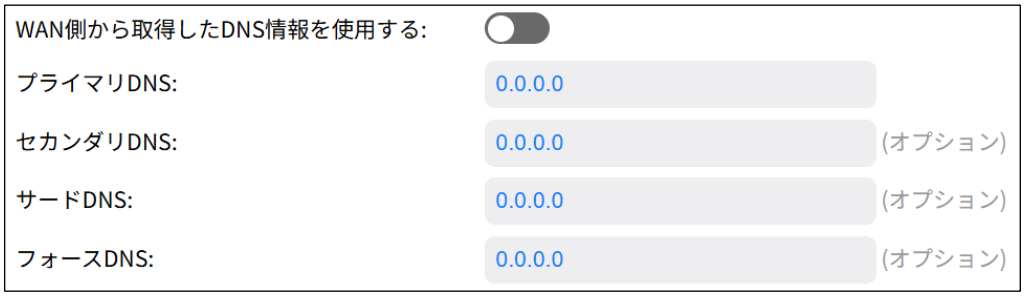
〈次ページへ進んで下さい〉

■WAN ポート IP アドレス
NetGenesis の WAN ポートの IP アドレスを入力して下さい。

■WAN ポート サブネットマスク
NetGenesis の WAN ポートのサブネットマスクを入力して下さい。

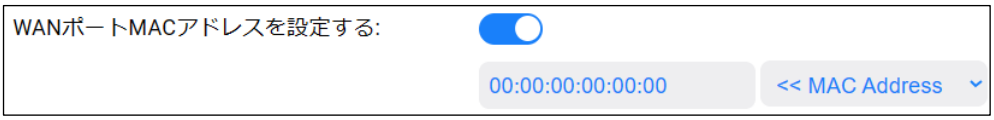
■WAN ポート デフォルトゲートウェイ
NetGenesis の WAN ポートのデフォルトゲートウェイを入力して下さい。

■WAN 側から取得した DNS 情報を使用する
有効にした場合、プロバイダから DNS サーバー情報を自動取得し、その情報を使用します。
DNS サーバーを指定する場合、無効にして DNS サーバーIP アドレスを入力して下さい。



■MTU 値
MTU(Maximum Transmission Unit)とは「1 回の送信で送ることができる最大データサイズ」です。
工場出荷値は「1400」(単位:bytes)です。
設定変更の必要がある場合を除き、「1400」のままお使い下さい。

■WAN ポート MAC アドレスを設定する
有効にすると、LAN に接続されたデバイスの MAC アドレスがリストから選択する事ができます。



選択した MAC アドレスを WAN ポートの MAC アドレスとして接続します。
設定変更の必要がある場合を除き、「無効」のままお使い下さい。

④設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンを押して下さい。

⑤以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

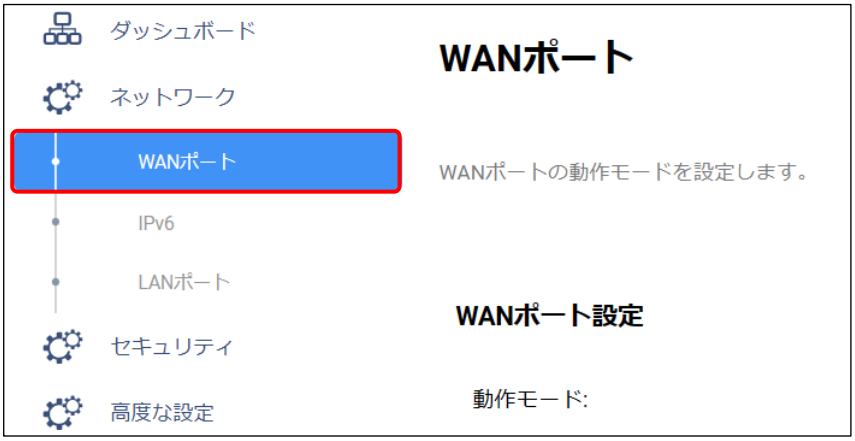
9-2.PPTP 接続

PPTP サーバーへ接続するための設定について説明します。

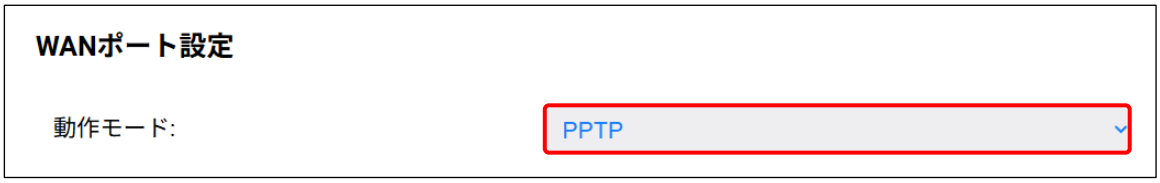
9-2-1. PPTP 接続 IP アドレス自動取得設定

PPTP 接続の際、NetGenesis の WAN ポート IP アドレスを DHCP クライアントから自動取得する場合の設定について説明します。

①「ネットワーク」から「WAN ポート」をクリックして下さい。



②「動作モード」で「PPTP」を選択して下さい。



③以下、各項目を設定して下さい。

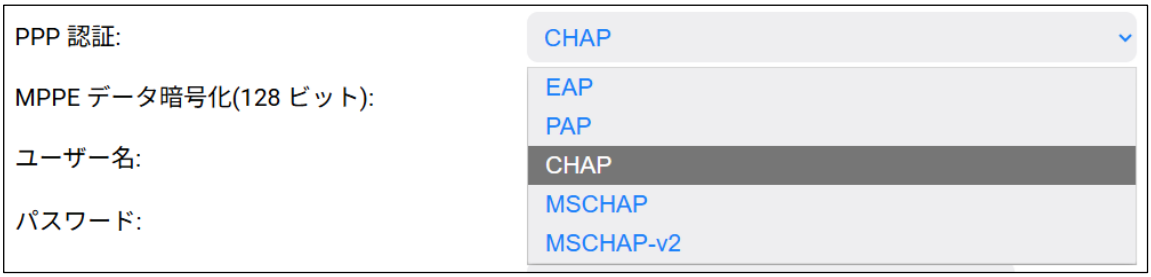
■**アドレスモード**

「IP アドレス自動取得」を選択して下さい。WAN ポート IP アドレスを DHCP クライアントにより自動取得します。

〈次ページへ進んで下さい〉

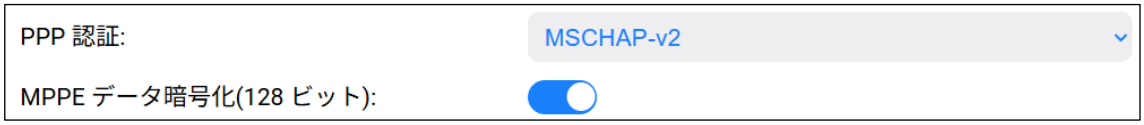
■PPP 認証

接続する PPTP サーバーの設定に合わせて、PPP 認証の方式を 5 種類の選択肢から選んで下さい。



■MPPE データ暗号化(128 ビット)

「MPPE データ暗号化(128 ビット)」を有効にすると、「PPP 認証」は自動的に「MSCHAP-v2」が設定されます。
また、「PPP 認証」で「MSCHAP-v2」を選択すると、本設定は自動的に有効に設定されます。



■ユーザー名

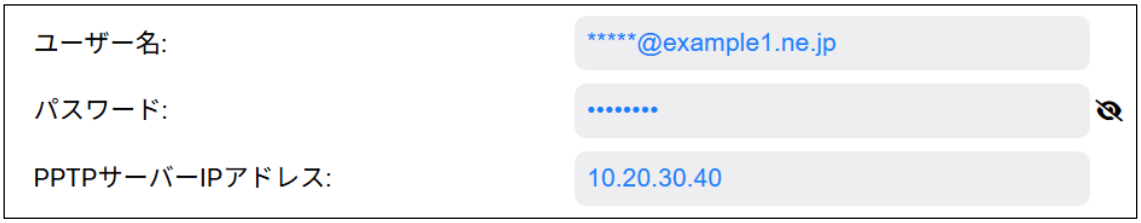
PPTP サーバーへ接続するためのユーザー名を入力して下さい。

■パスワード

PPTP サーバーへ接続するためのパスワードを入力して下さい。

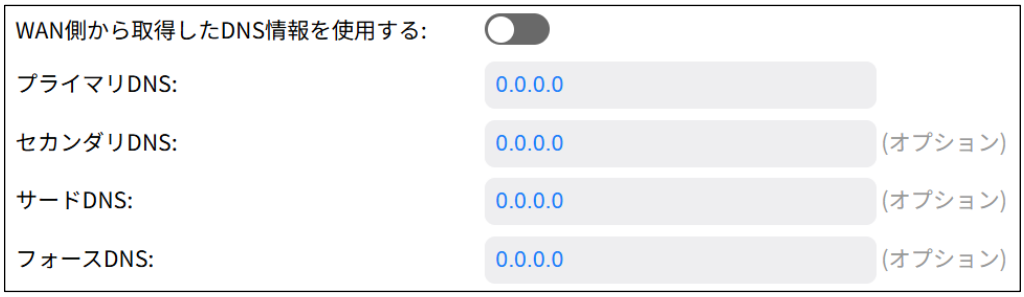
■PPTP サーバーIP アドレス

PPTP サーバーの IP アドレスを入力して下さい。



■WAN 側から取得した DNS 情報を使用する

有効にした場合、プロバイダから DNS サーバー情報を自動取得し、その情報を使用します。
DNS サーバーを指定する場合、無効にして DNS サーバーIP アドレスを入力して下さい。



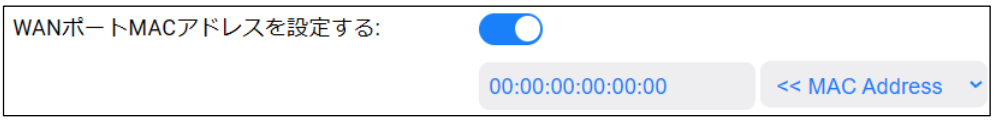
■MTU 値

MTU(Maximum Transmission Unit)とは「1 回の送信で送ることができる最大データサイズ」です。
工場出荷値は「1400」(単位:bytes)です。
設定変更の必要がある場合を除き、「1400」のままお使い下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

■WAN ポート MAC アドレスを設定する

有効にすると、LAN に接続されたデバイスの MAC アドレスがリストから選択する事ができます。



選択した MAC アドレスを WAN ポートの MAC アドレスとして接続します。

設定変更の必要がある場合を除き、「無効」のままお使い下さい。

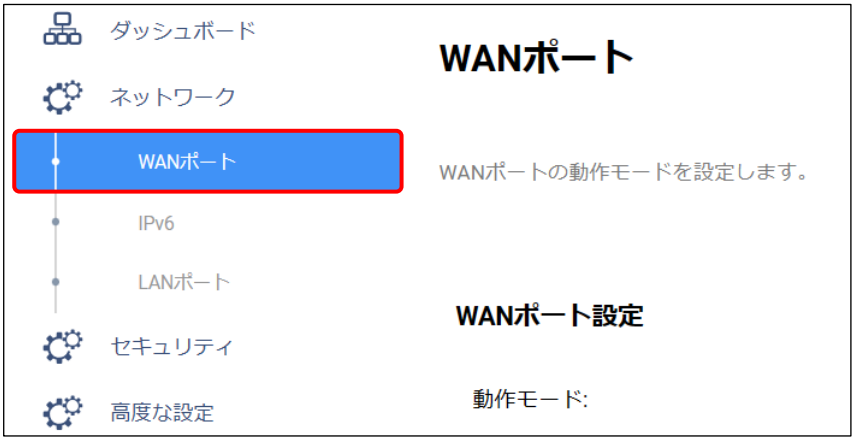
④設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンを押して下さい。

⑤以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

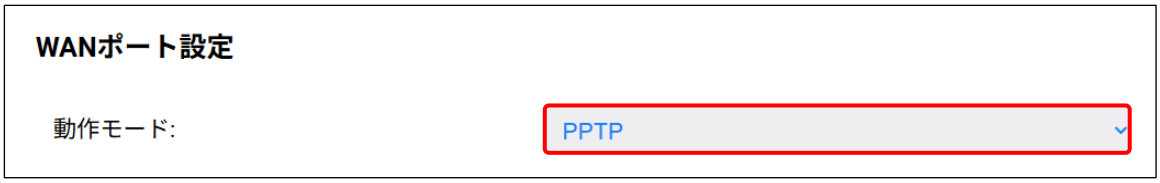
9-2-2. PPTP 接続 IP アドレス固定設定

PPTP 接続の際、NetGenesis の WAN ポート IP アドレスを固定 IP アドレスにする場合の設定について説明します。

①「ネットワーク」から「WAN ポート」をクリックして下さい。



②「動作モード」で「L2TP」を選択して下さい。



③以下、各項目を設定して下さい。

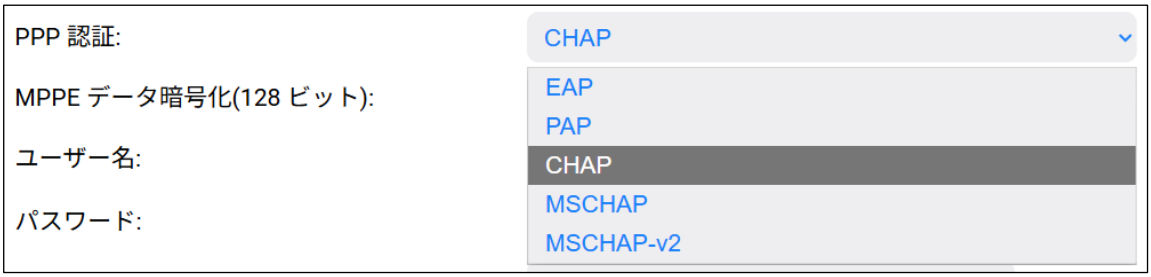
■**アドレスモード**

「IP アドレス固定」を選択して下さい。WAN ポート IP アドレスを静的に設定します。

〈次ページへ進んで下さい〉

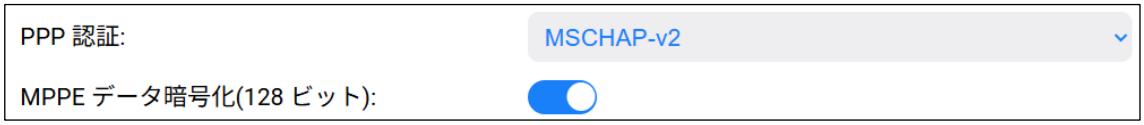
■**PPP 認証**

接続する PPTP サーバーの設定に合わせて、PPP 認証の方式を 5 種類の選択肢から選んで下さい。



■**MPPE データ暗号化(128 ビット)**

「MPPE データ暗号化(128 ビット)」を有効にすると、「PPP 認証」は自動的に「MSCHAP-v2」が設定されます。
また、「PPP 認証」で「MSCHAP-v2」を選択すると、本設定は自動的に有効に設定されます。



■**ユーザー名**

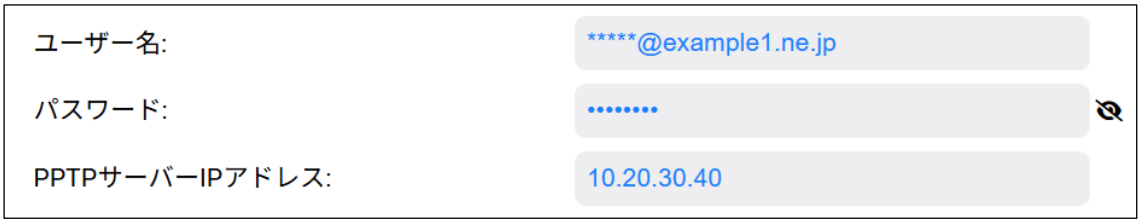
PPTP サーバーへ接続するためのユーザー名を入力して下さい。

■**パスワード**

PPTP サーバーへ接続するためのパスワードを入力して下さい。

■**PPTP サーバーIP アドレス**

PPTP サーバーの IP アドレスを入力して下さい。



■**WAN ポート IP アドレス**

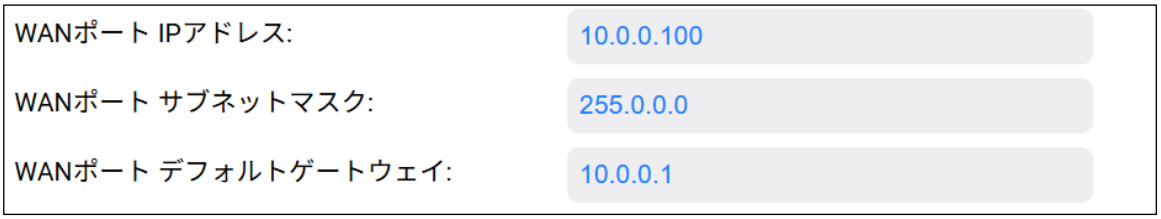
NetGenesis の WAN ポートの IP アドレスを入力して下さい。

■**WAN ポート サブネットマスク**

NetGenesis の WAN ポートのサブネットマスクを入力して下さい。

■**WAN ポート デフォルトゲートウェイ**

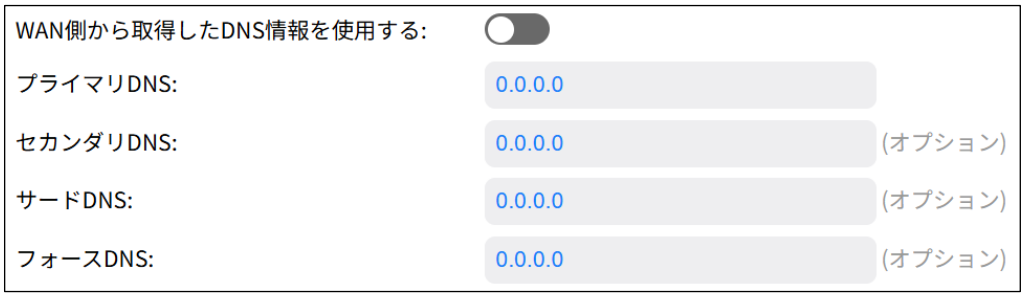
NetGenesis の WAN ポートのデフォルトゲートウェイを入力して下さい。



〈次ページへ進んで下さい〉

■WAN 側から取得した DNS 情報を使用する

有効にした場合、プロバイダから DNS サーバー情報を自動取得し、その情報を使用します。
DNS サーバーを指定する場合、無効にして DNS サーバーIP アドレスを入力して下さい。

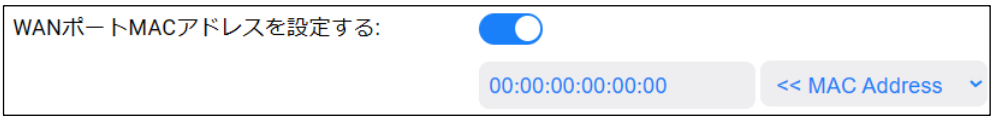


■MTU 値

MTU（Maximum Transmission Unit）とは「1 回の送信で送ることができる最大データサイズ」です。
工場出荷値は「1400」（単位：bytes）です。
設定変更の必要がある場合を除き、「1400」のままお使い下さい。

■WAN ポート MAC アドレスを設定する

有効にすると、LAN に接続されたデバイスの MAC アドレスがリストから選択する事ができます。



選択した MAC アドレスを WAN ポートの MAC アドレスとして接続します。
設定変更の必要がある場合を除き、「無効」のままお使い下さい。

④設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンを押して下さい。

⑤以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

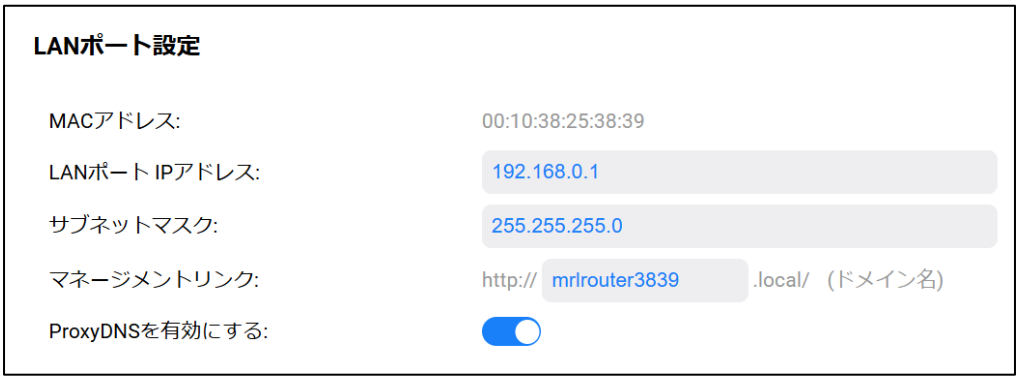
10.LAN 設定

LAN 設定について説明します。

10-1.LAN ポート設定

①「ネットワーク」から「LAN ポート」をクリックして下さい。

②「LAN ポート」画面が表示され、「LAN ポート設定」項目が表示されます。



■MAC アドレス

NetGenesis の LAN 側の MAC アドレスが固定で表示されます。

■LAN ポート IP アドレス

NetGenesis の LAN 側 IP アドレスを設定します。

工場出荷状態では「192.168.0.1」が設定されています。

確 認	LAN ポート IP アドレスを変更する場合、他の機器と IP アドレスが衝突しないように注意して下さい。
	LAN ポート IP アドレスを変更した場合は、必ず DHCP サーバー設定も変更して下さい。 変更方法については「10-2.DHCP サーバー設定」(54 ページ)を参照して下さい。

■サブネットマスク

NetGenesis のサブネットマスクを設定します。

工場出荷状態では「255.255.255.0」が設定されています。

■マネージメントリンク

接続固有の DNS サフィックスを設定することができます。(mDNS で使用されます)

■ProxyDNS を有効にする

有効にすると、ProxyDNS(DNS の代理応答)が有効になります。

〈次のページへ進んで下さい〉

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

設定保存

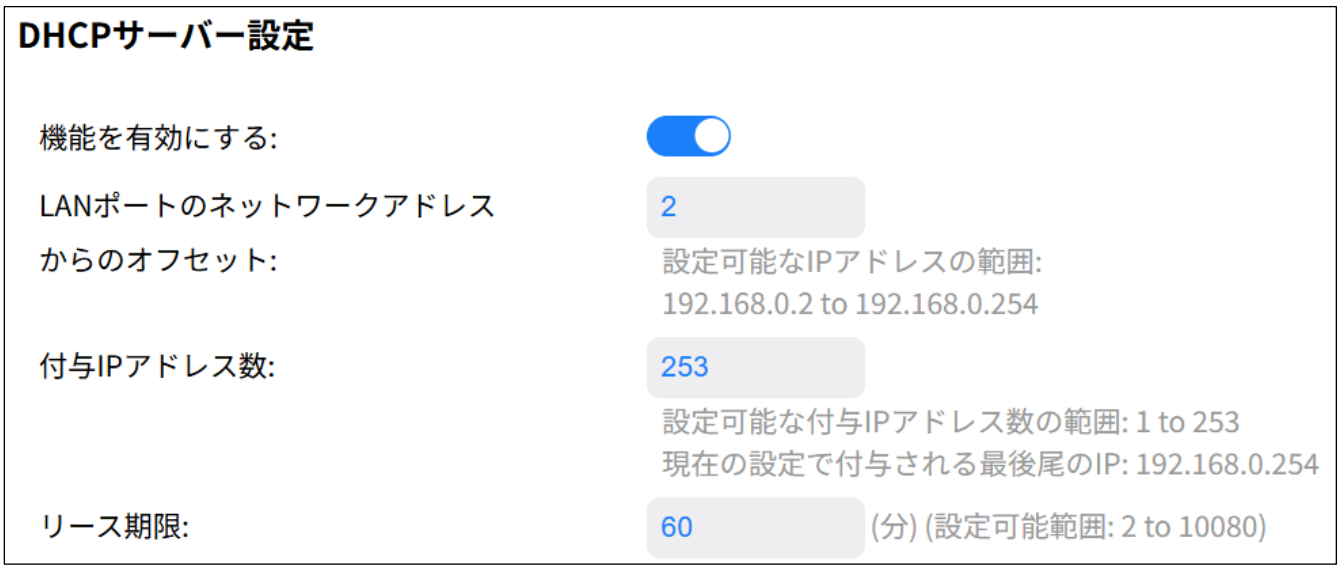
以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

確 認	NetGenesis の LAN ポート IP アドレスを変更して設定更新・再起動した場合、再起動直後に NetGenesis の設定画面が表示されなくなります。 ブラウザの URL 入力欄に変更後の IP アドレスを入力して設定画面に再ログインして下さい。

10-2.DHCP サーバー設定

① 「ネットワーク」から「LAN ポート」をクリックして下さい。

② 「LAN ポート」画面が表示され、「DHCP サーバー設定」項目が表示されます。



■**機能を有効にする**

有効にすると、DHCP サーバー機能が有効になります。

■**LAN ポートのネットワークアドレスからのオフセット**

付与する先頭 IP アドレスの設定として LAN ポートのネットワークアドレスからのオフセット値を設定します。

詳しくは次ページの設定例を参照して下さい。

■**付与 IP アドレス数**

付与する IP アドレスの数を設定します。

確 認	最大 253 個まで付与することができます。

〈次のページへ進んで下さい〉

◇**設定例 1** ： LAN ポート IP アドレス 192.168.0.1/24 時に 192.168.0.200～192.168.0.250 までを付与する

LAN ポートのネットワークアドレスからのオフセット ： 200

付与 IP アドレス数 ： 51

※ 192.168.0.1/24 のネットワークアドレスは 192.168.0.0 なので、200 を足すと 192.168.0.200 となり 192.168.0.200 から 192.168.0.250 までは 51 個となる。

◇**設定例 2** ： LAN ポート IP アドレス 192.168.0.209/28 時に 192.168.0.216～192.168.0.221 までを付与する

LAN ポートのネットワークアドレスからのオフセット ： 8

付与 IP アドレス数 ： 6

※ 192.168.0.209/28 のネットワークアドレスは 192.168.0.208 なので、8 を足すと 192.168.0.216 となり 192.168.0.216 から 192.168.0.221 までは 6 個となる。

■リース期限

付与する IP アドレスのリース期限（時間）を設定することができます。

工場出荷状態では「60 分」が設定されています。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

10-3.固定 IP アドレス設定

「ネットワーク」から「LAN ポート」をクリックすると、「固定 IP アドレス設定」が表示されます。

No.	No.が表示されます。
機能を有効にする	登録情報の有効/無効が表示されます。
MAC アドレス	固定 IP アドレスを設定する MAC アドレスが表示されます。
予約済み IP アドレス	意図する MAC アドレスに設定する IP アドレスが表示されます。
登録名	登録名が表示されます。
編集	意図する登録情報を編集することができます。
削除	意図する登録情報を削除することができます。

10-3-1.固定 IP アドレスの登録

以下の手順で固定 IP アドレス設定の登録を行って下さい。

①[追加]ボタンをクリックして下さい。「登録追加」画面が表示されます。

②登録する情報を有効にする場合は「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。一時的に無効な状態で登録したい場合は OFF にして下さい。下図は ON の状態を示します。

③「登録名」に登録情報を認識するための任意の名前を入力して下さい。

確 認	登録名は最大 32 文字(半角英数字)まで入力可能です。空欄は禁止となります。

④「MAC アドレス」に IP アドレスを固定付与する機器の MAC アドレスを入力して下さい。

「機器名称」をクリックすると、LAN ポートに接続している機器のホスト名がリストアップされます。

意図したホスト名を選んでクリックすると、その機器の MAC アドレスが「MAC アドレス」に入力されます。

〈次のページへ進んで下さい〉

⑤「IP アドレス」に固定付与する IP アドレスを入力して下さい。

⑥設定が終わりましたら[OK]ボタンをクリックして下さい。

⑦[OK]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

確 認	最大 32 エントリまで登録することができます。

10-3-2.固定 IP アドレスの編集

以下の手順で固定 IP アドレス設定の編集を行って下さい。

①意図する登録情報の編集アイコンをクリックして下さい。

②「登録編集」画面が表示されます。本画面では各設定値を編集(変更)することが可能です。

編集した設定を適用せずにキャンセルしたい場合は、右上の「⊗」をクリックして下さい。

③編集が終わりましたら[OK]ボタンをクリックして下さい。

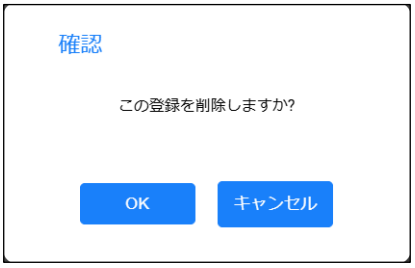
④[OK]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば編集完了です。

10-3-3.固定 IP アドレスの削除

以下の手順で固定 IP アドレス設定の削除を行って下さい。

①意図する登録情報の削除アイコンをクリックして下さい。

②「確認」画面が表示されますので、削除する場合は[OK]ボタンを、キャンセルする場合は[キャンセル]ボタンをクリックして下さい。



③[OK]ボタンをクリックして下さい。

④[OK]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば削除完了です。

以上で固定 IP アドレスの設定は完了です。

10-4.DHCP サーバーIP アドレス割り当て情報リスト

①「ネットワーク」から「LAN ポート」をクリックして下さい。

②「LAN ポート」画面が表示され、「DHCP サーバーIP アドレス割り当て情報リスト」が表示されます。

No.	No.が表示されます。
クライアント名	クライアント名が表示されます。
MAC アドレス	NetGenesis から IP アドレスが割り振られている MAC アドレスが表示されます。
IP アドレス	NetGenesis から割り振られた IP アドレスが表示されます。
リース時間	割り振られた IP アドレスのリース時間が表示されます。

DHCP サーバーの機能が有効、パソコンのネットワークアダプタと NetGenesis の LAN1～LAN5 のいずれかのポートが正しく LAN ケーブルで接続されている時、[最新の情報に更新]ボタンをクリックして下さい。

「DHCP サーバーIP アドレス割り当て情報リスト」のリストに登録されていることを確認して下さい。

11.セキュリティ設定

11-1.ファイアウォール

「セキュリティ」から「ファイアウォール」をクリックすると、ファイアウォールの設定が表示されます。

ファイアウォールには 2 つの機能があります。

■**LAN 側からの Ping に応答する**

有効にすると、LAN ポートに接続した機器から本機の LAN ポート IP アドレス宛への ping に本機が応答します。
工場出荷値では有効に設定されています。

■**WAN 側からの Ping に応答する**

有効にすると、LAN ポートに接続した機器 及び WAN ポート側の機器から本機の WAN ポート IP アドレス宛への ping に本機が応答します。工場出荷値では無効に設定されています。
WAN ポートの動作モードを「**IPv4 Over IPv6**」に設定した場合、本機能は無効になります。

11-2.ポートフォワーディング

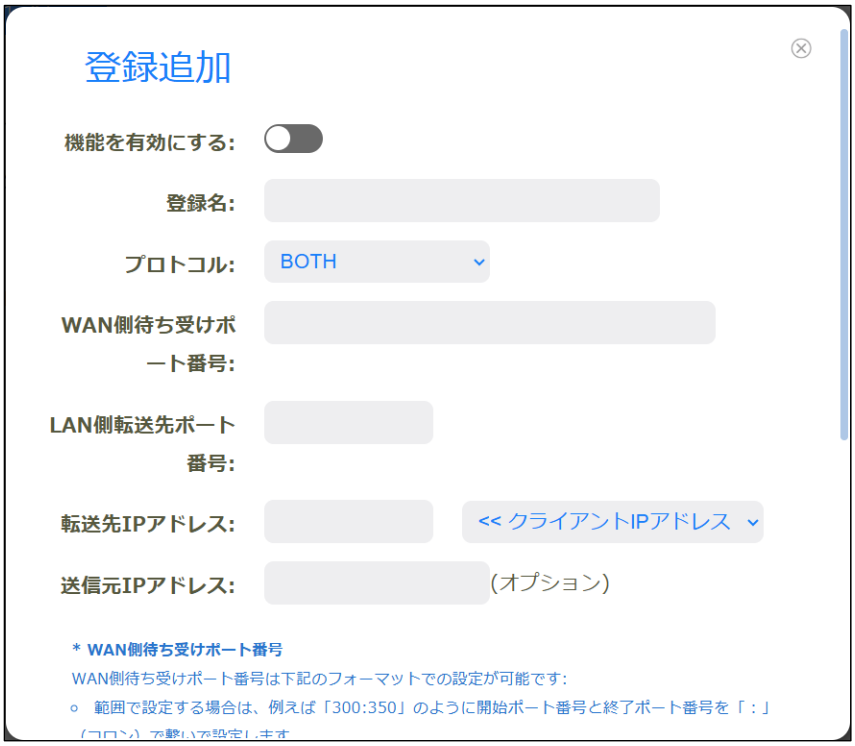
確 認	ポートフォワーディングの設定を行うには、あらかじめ「プロトコルの種類」「ポート番号」「転送先のローカル IP アドレス」の情報が必要となります。
	WAN ポートの動作モードを「**IPv4 Over IPv6**」に設定した場合、本機能は無効になります。
	PPPoE マルチセッション接続時は **セッション 1** のみ に適用となります。セッション 2～4 は対応しません。

「セキュリティ」から「ポートフォワーディング」をクリックすると、ポートフォワーディングの設定が表示されます。

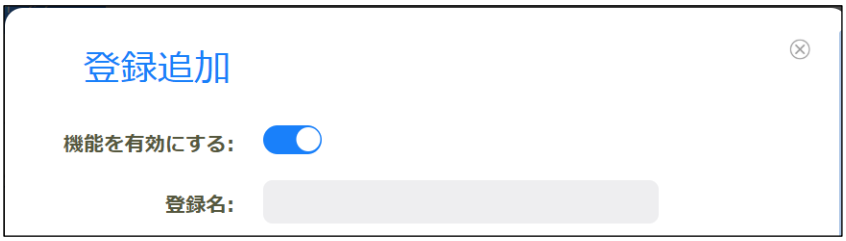
11-2-1 ポートフォワーディング情報の登録

以下の手順でポートフォワーディング情報の登録を行って下さい。

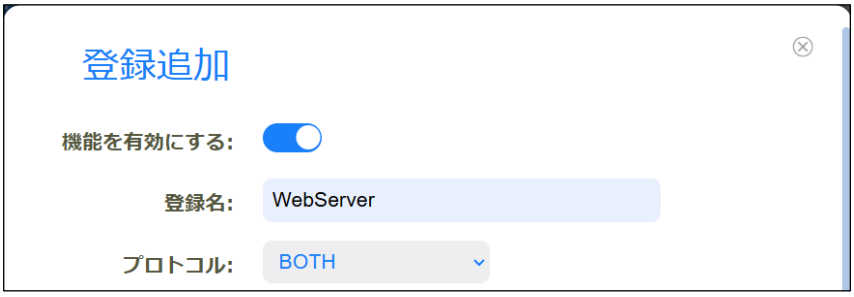
① [追加]ボタンをクリックして下さい。「登録追加」画面が表示されます。



② 登録する情報を有効にする場合は「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。一時的に無効な状態で登録したい場合は OFF にして下さい。下図は ON の状態を示します。



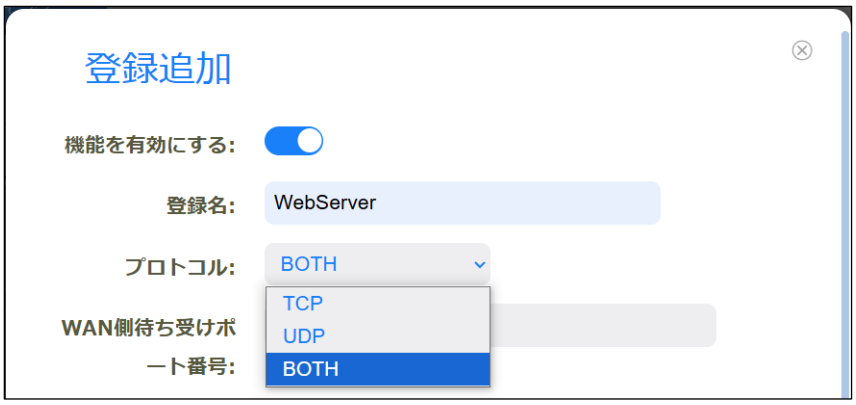
③「登録名」に登録情報を認識するための任意の名前を入力して下さい。



確 認	登録名は最大 32 文字(半角英数字)まで入力可能です。 空欄は禁止となります。

〈次のページへ進んで下さい〉

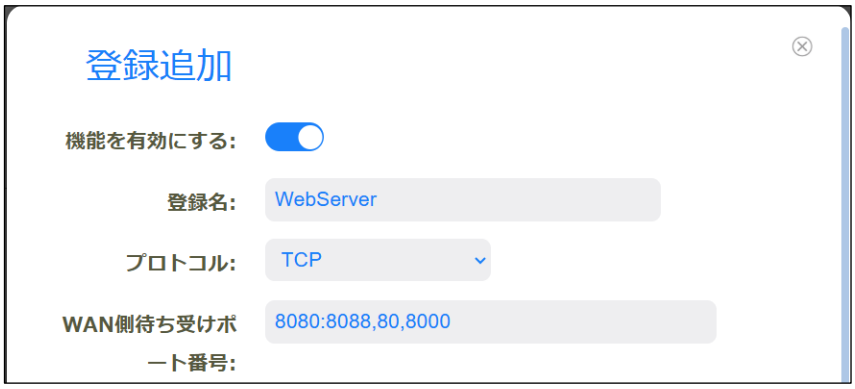
④ 対象とする「プロトコル」を選択して下さい。



TCP	TCP プロトコルを対象とします。
UDP	UDP プロトコルを対象とします。
BOTH	TCP プロトコルと UDP プロトコルを対象とします。

⑤「WAN 側待ち受けポート番号」にプロトコルのポート番号を半角英数字で入力して下さい。
ポート番号を範囲で設定する場合は、開始ポート番号と終了ポート番号を「:」(コロン)で繋いで設定します。
単一ポート番号を複数設定する場合は、ポート番号を「,」で繋いで設定します。
範囲でのポート番号設定と単一ポート番号設定とを組み合わせた設定も可能です。

例: 80 を 1 つだけ設定する場合 → 80
例: 8080～8088 を範囲指定する場合 → 8080:8088
例: 8080 と 8888 の 2 つを設定する場合 → 8080,8888
例: 8080～8088 の範囲と 80 と 8000 を設定する場合 → 8080:8088,80,8000



〈次のページへ進んで下さい〉

⑥「LAN 側転送先ポート番号」にプロトコルのポート番号を半角英数字で入力して下さい。

ポート番号を範囲で設定する場合は、開始ポート番号と終了ポート番号を「:」(コロン)で繋いで設定します。

例: 8080 を 1 つだけ設定する場合 → 8080

例: 8080～8088 を範囲指定する場合 → 8080:8088

確認	「WAN 側待ち受けポート番号」を範囲指定した場合、「LAN 側転送先ポート番号」もそれに合わせて範囲指定して下さい。 「WAN 側待ち受けポート番号」を複数設定した場合、「LAN 側転送先ポート番号」は単一のポート番号を設定して下さい。

⑦「転送先 IP アドレス」に LAN 内の転送先のローカル IP アドレスを入力して下さい。

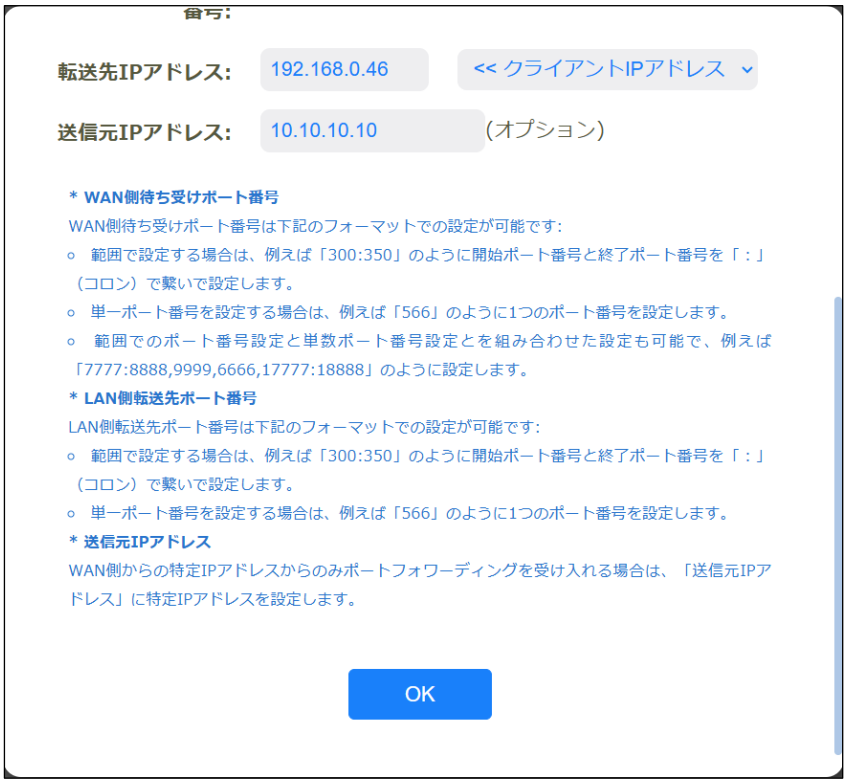
「クライアント IP アドレス」をクリックすると、LAN ポートに接続している機器の IP アドレスがリストアップされます。

意図した IP アドレスを選んでクリックするとその IP アドレスが「転送先 IP アドレス」に入力されます。

〈次のページへ進んで下さい〉

⑧「送信元 IP アドレス」は WAN 側からの特定 IP アドレスからのみポートフォワーディングを受け入れる場合に設定します。必要に応じて送信元 IP アドレスを入力して下さい。不要の場合は空欄のままにして下さい。

⑨ [OK]ボタンをクリックして下さい。



〈次のページへ進んで下さい〉

⑩ 登録した設定を動作させるために「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。下図は ON の状態を示します。

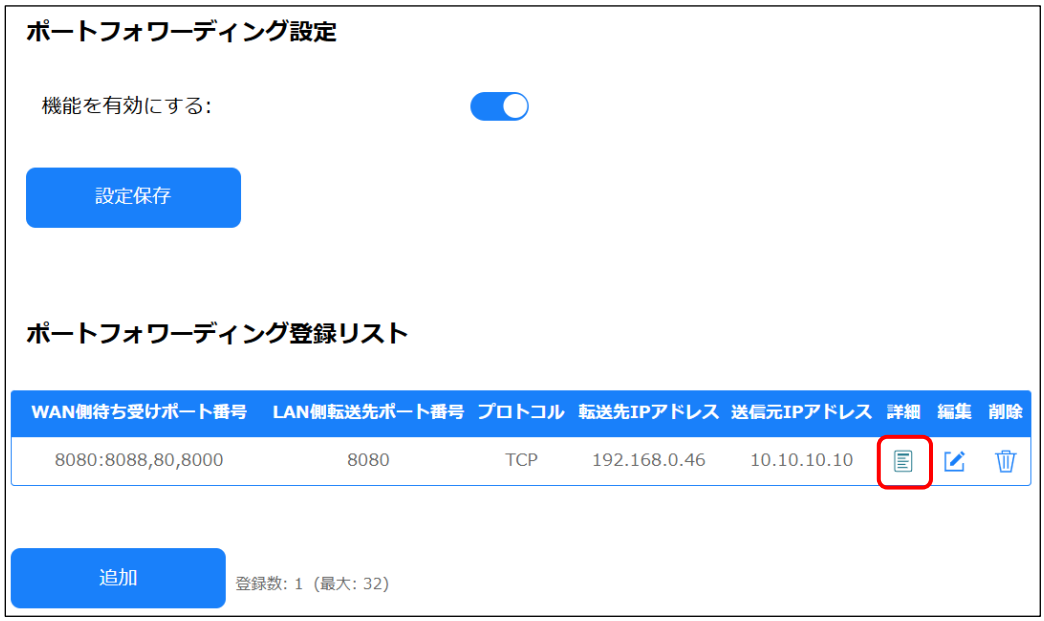
⑪ 設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンを押して下さい。以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

確認	「管理」の「アクセス制御」の設定で WAN ポート側からの HTTP 設定を有効にし、かつポートフォワーディングで HTTP を LAN 内の PC へ転送するよう設定(両設定がバッティング)した場合、ポートフォワーディングが優先されます。また、DMZ ホストとバッティングした場合もポートフォワーディングが優先されます。

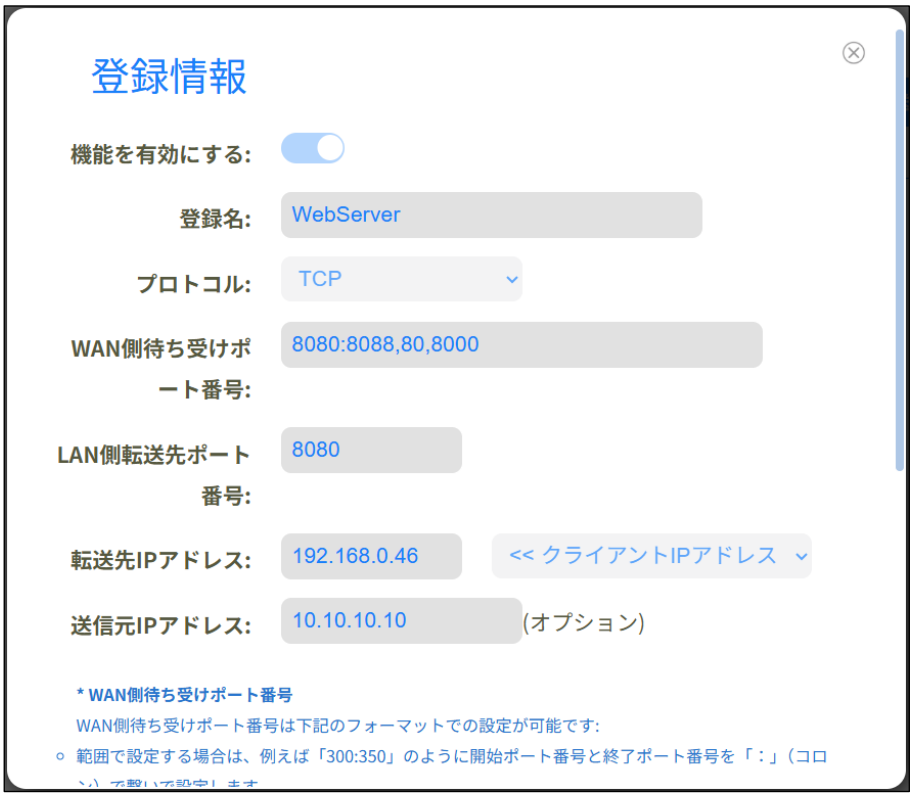
11-2-2 ポートフォワーディング情報の確認

以下の手順でポートフォワーディング情報の確認を行って下さい

① 意図する登録情報の詳細アイコンをクリックして下さい。

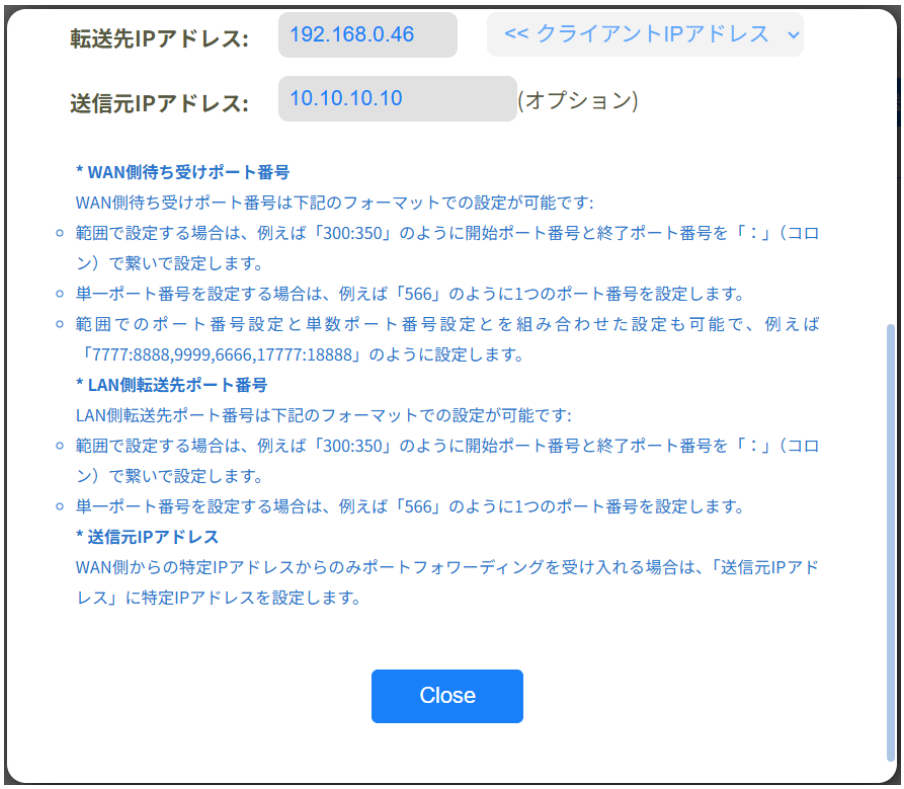


② 「登録情報」画面が表示されます。本画面では各設定値を確認(閲覧)することだけが可能です。



〈次のページへ進んで下さい〉

③ 確認が終わりましたら[Close]ボタンをクリックして下さい。



11-2-3 ポートフォワーディング情報の編集

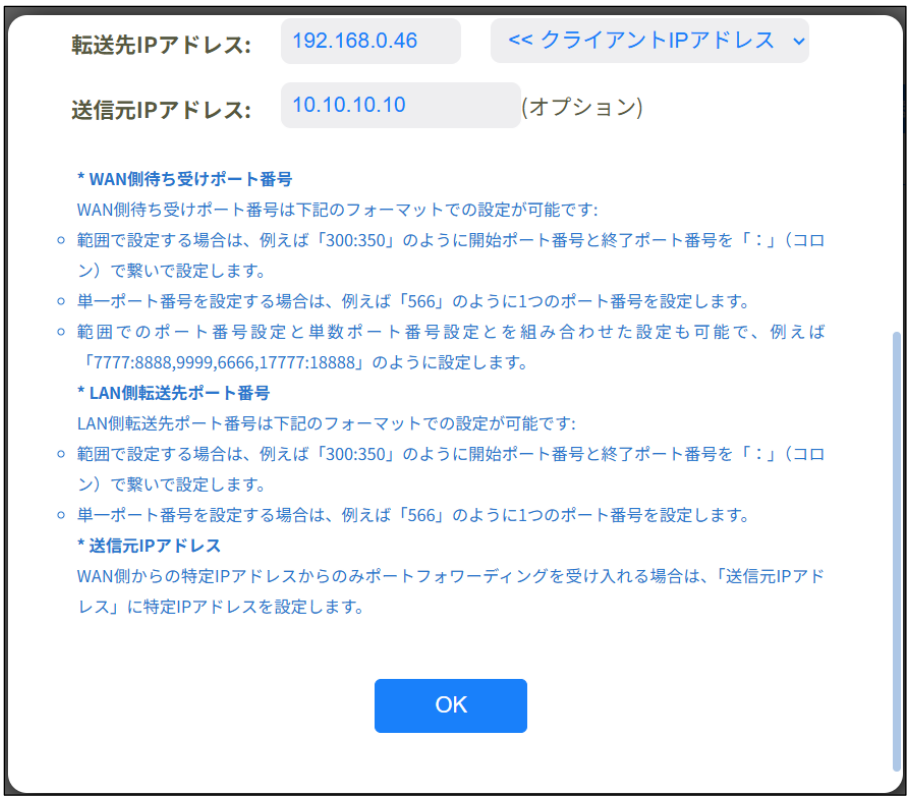
以下の手順でポートフォワーディング情報の編集を行って下さい

① 意図する登録情報の編集アイコンをクリックして下さい。

② 「登録編集」画面が表示されます。本画面では各設定値を編集(変更)することが可能です。
編集した設定を適用せずにキャンセルしたい場合は、右上の「⊗」をクリックして下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

③　編集が終わりましたら[OK]ボタンをクリックして下さい。



④ [OK]ボタンをクリックすると以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば編集完了です。

11-2-4 ポートフォワーディング情報の削除

以下の手順でポートフォワーディング情報の削除を行って下さい

① 意図する登録情報の削除アイコンをクリックして下さい。

② 「確認」画面が表示されますので、削除する場合は[確認]ボタンを、キャンセルする場合は「キャンセルする」ボタンをクリックして下さい。

③ [確認]ボタンをクリックすると以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば削除完了です。

以上でポートフォワーディングの設定は完了です。

11-3.IP フィルタリング

確 認	IP フィルタリングの設定を行うには、TCP/IP プロトコルの知識が必要です。 **誤った設定を行うと、NetGenesis が正常に動作しなくなる原因となりますので、注意して下さい。**
	IPv6 フィルタリングを行う場合は、[IPv6 フィルタリング]ボタンをクリックして下さい。 IPv6 フィルタリング画面に切り替わります。
	PPPoE マルチセッション接続時は **セッション 1** のみ に適用となります。セッション 2～4 は対応しません。

「セキュリティ」から「IP フィルタリング」をクリックすると、IP フィルタリングの設定が表示されます。

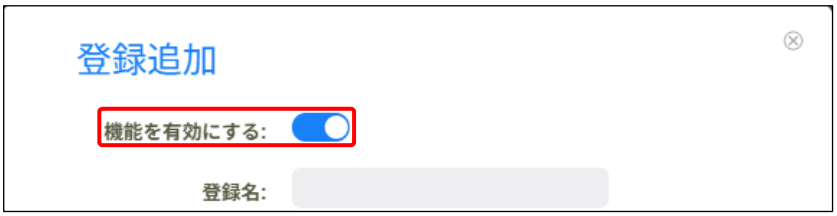
〈次のページへ進んで下さい〉

11-3-1.IP フィルタリング情報の登録

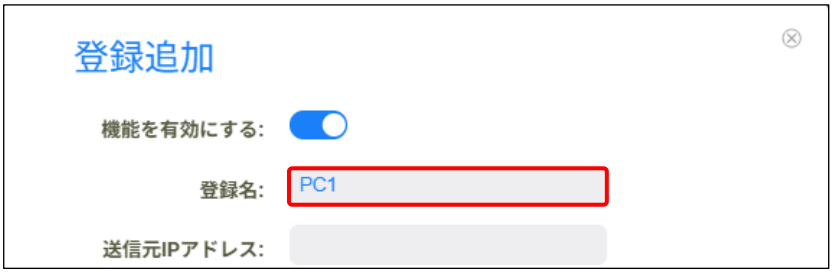
以下の手順で IP フィルタリング情報の登録を行って下さい。

①[追加]ボタンをクリックして下さい。「登録追加」画面が表示されます。

②登録する情報を有効にする場合は「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。一時的に無効な状態で登録したい場合は OFF にして下さい。



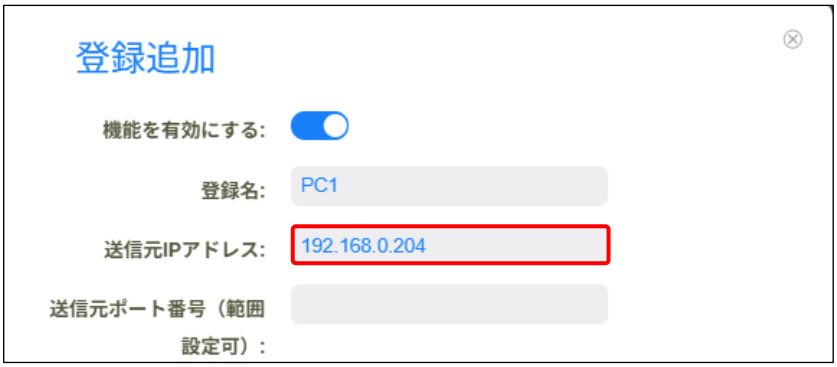
③「登録名」に登録情報を認識するための任意の名前を入力して下さい。



確 認	登録名は最大 32 文字(半角英数字)まで入力可能です。空欄は禁止となります。

〈次のページへ進んで下さい〉

④「送信元 IP アドレス」にフィルタリング対象とする送信元の IP アドレスを入力して下さい。



⑤「送信元ポート番号」にプロトコルのポート番号を半角英数字で入力して下さい。

ポート番号を範囲で設定する場合は、開始ポート番号と終了ポート番号を「:」（コロン）で繋いで設定します。

例: 80 を 1 つだけ設定する場合 → 80

例: 8080～8088 を範囲指定する場合 → 8080:8088

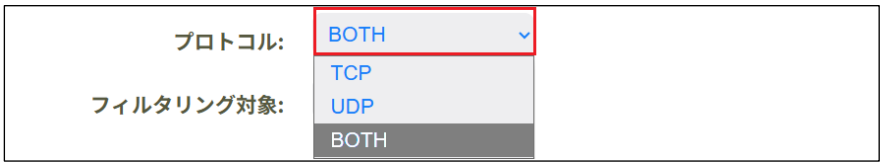
⑥「宛先 IP アドレス」にフィルタリング対象とする宛先の IP アドレスを入力して下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

⑦「宛先ポート番号」にプロトコルのポート番号を半角英数字で入力して下さい。
ポート番号を範囲で設定する場合は、開始ポート番号と終了ポート番号を「:」(コロン)で繋いで設定します。

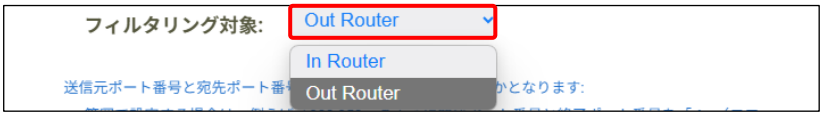
例: 8080 を 1 つだけ設定する場合 → 8080
例: 8080～8088 を範囲指定する場合 →

⑧対象とする「プロトコル」を選択して下さい。



TCP	TCP プロトコルを対象とします。
UDP	UDP プロトコルを対象とします。
BOTH	TCP プロトコルと UDP プロトコルを対象とします。

⑨対象とする「フィルタリング対象」を選択して下さい。



In Router	NetGenesis に向けた通信を対象とします。
Out Router	NetGenesis から出ていく通信を対象とします。

⑩設定が終わりましたら[OK]ボタンをクリックして下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

⑪登録した設定を動作させるために「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。下図は ON の状態を示します。

⑫対象とする「フィルタリング　モード」を選択して下さい。

許可リスト	指定したデバイスからのネットワークへのアクセスを許可するように許可リストを設定します。
拒否リスト	指定したデバイスからのネットワークへのアクセスをブロックするように拒否リストを設定します。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

設定保存

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

確認	IP フィルタリングを誤って設定画面にログインできなくなった場合、リセットスイッチを使用して設定を初期化して下さい。 リセットスイッチの操作方法については、「**1-4.各部の名称**」(5 ページ)を参照して下さい。

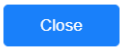
11-3-2.IP フィルタリング情報の確認

以下の手順で IP フィルタリング情報の確認を行って下さい。

② 意図する登録情報の詳細アイコンをクリックして下さい。

②「登録情報」画面が表示されます。本画面では各設定値を確認(閲覧)することだけが可能です。

③確認が終わりましたら[Close]ボタンをクリックして下さい。「登録情報」画面が閉じられれば確認完了です。



11-3-3.IP フィルタリング情報の編集

以下の手順で IP フィルタリング情報の編集を行って下さい。

② 意図する登録情報の編集アイコンをクリックして下さい。

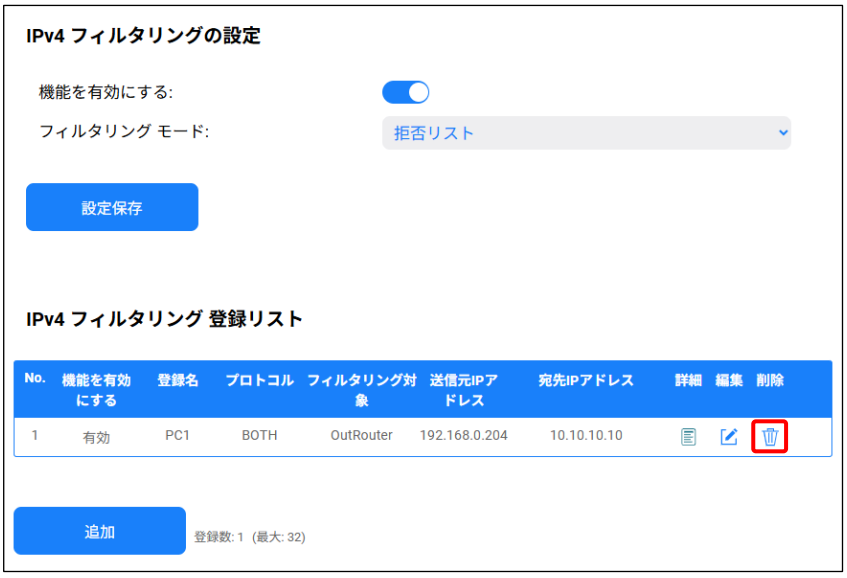
②「登録編集」画面が表示されます。本画面では各設定値を編集（変更）することが可能です。
編集した設定を適用せずにキャンセルしたい場合は、右上の「⊗」をクリックして下さい。

③ 編集が終わりましたら[OK]ボタンをクリックして下さい。メッセージが消えれば編集完了です。

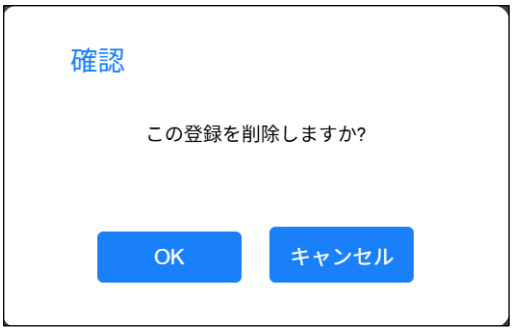
11-3-4.IP フィルタリング情報の削除

以下の手順で IP フィルタリング情報の削除を行って下さい。

①意図する登録情報の削除アイコンをクリックして下さい。



②「確認」画面が表示されますので、削除する場合は[OK]ボタンを、キャンセルする場合は[キャンセル]ボタンをクリックして下さい。



③[OK]ボタンをクリックして下さい。メッセージが消えれば削除完了です。

以上で IP フィルタリングの設定は完了です。

11-4.MAC フィルタリング

確 認	NetGenesis に接続した各機器の MAC アドレスにより、ネットワークへのアクセスを制御します。
	MAC アドレスの調べ方については、各機器、各 OS のマニュアル等を参照して下さい。

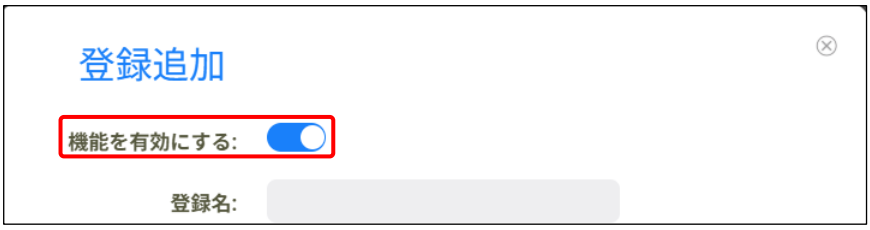
「セキュリティ」から「MAC フィルタリング」をクリックすると、MAC フィルタリングの設定が表示されます。

11-4-1.MAC フィルタリング情報の登録

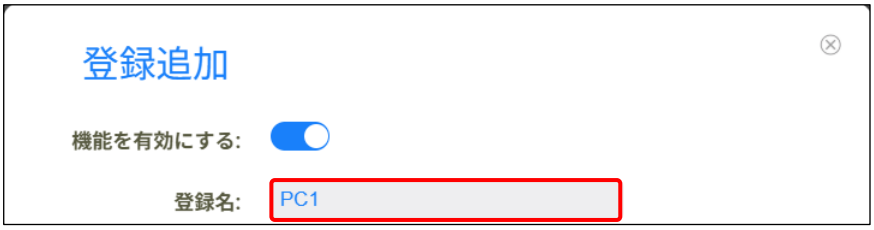
以下の手順で MAC フィルタリング情報の登録を行って下さい。

①[追加]ボタンをクリックして下さい。「登録追加」画面が表示されます。

②登録する情報を有効にする場合は「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。一時的に無効な状態で登録したい場合は OFF にして下さい。

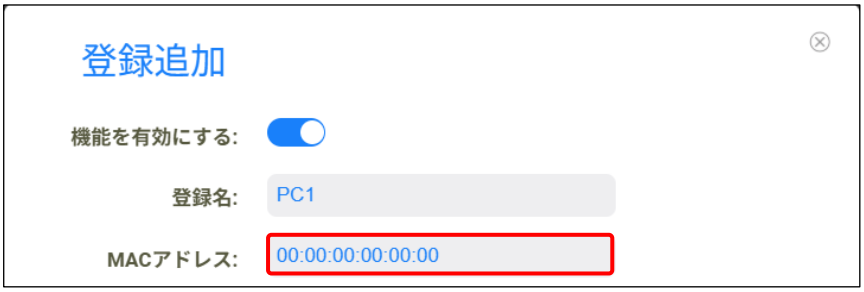


③「登録名」に登録情報を認識するための任意の名前を入力して下さい。



確 認	登録名は最大 32 文字(半角英数字)まで入力可能です。空欄は禁止となります。

④「MAC アドレス」にフィルタリング対象とする MAC アドレスを入力して下さい。



確 認	オクテット同士を「:」(コロン)で繋いで設定して下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

⑤設定が終わりましたら[OK]ボタンをクリックして下さい。

⑥登録した設定を動作させるために「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。下図は ON の状態を示します。

⑦対象とする「フィルタリング モード」を選択して下さい。

許可リスト	指定した MAC アドレスからのネットワークへのアクセスを許可するように許可リストを設定します。
拒否リスト	指定した MAC アドレスからのネットワークへのアクセスをブロックするように拒否リストを設定します。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

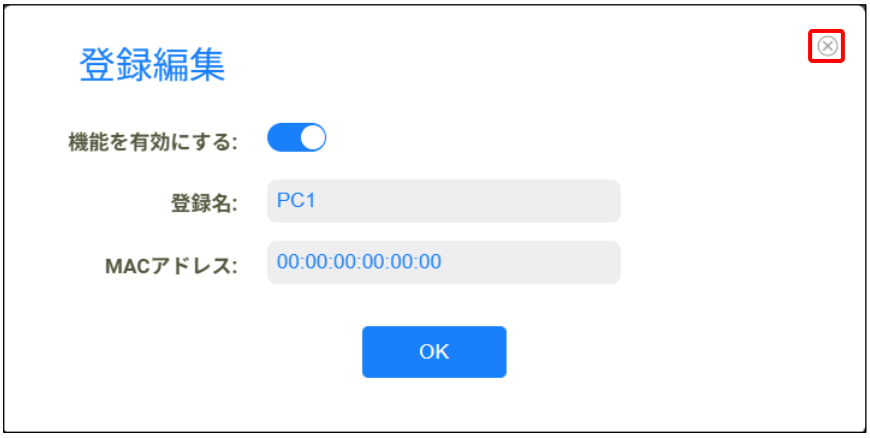
11-4-2.MAC フィルタリング情報の編集

以下の手順で MAC フィルタリング情報の編集を行って下さい。

①意図する登録情報の編集アイコンをクリックして下さい。

②「登録編集」画面が表示されます。本画面では各設定値を編集（変更）することが可能です。

編集した設定を適用せずにキャンセルしたい場合は、右上の「⊗」をクリックして下さい。



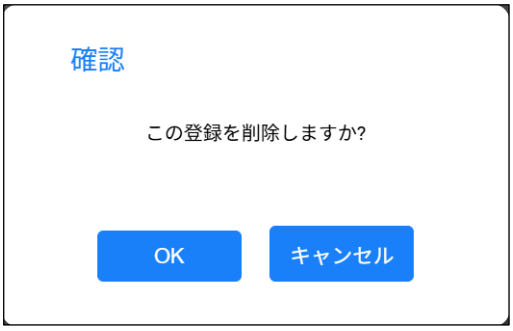
③編集が終わりましたら[OK]ボタンをクリックして下さい。メッセージが消えれば編集完了です。

11-4-3.MAC フィルタリング情報の削除

以下の手順で MAC フィルタリング情報の削除を行って下さい。

①意図する登録情報の削除アイコンをクリックして下さい。

②「確認」画面が表示されますので、削除する場合は[OK]ボタンを、キャンセルする場合は[キャンセル]ボタンをクリックして下さい。



③[OK]ボタンをクリックして下さい。メッセージが消えれば削除完了です。

以上で、MAC フィルタリングの設定は完了です。

11-5.URL フィルタリング

確 認	URL フィルタリングは、LAN→WAN 方向の通信に適用されます。

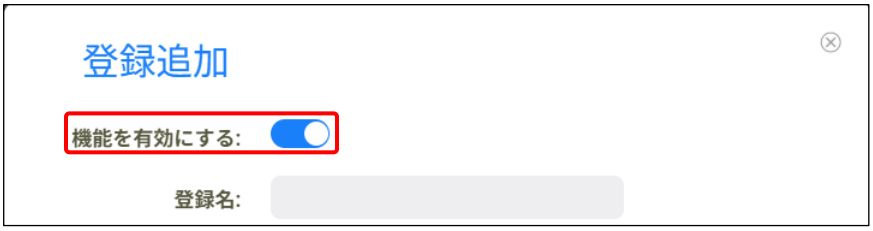
「セキュリティ」から「URL フィルタリング」をクリックすると、URL フィルタリングの設定が表示されます。

11-5-1.URL フィルタリング情報の登録

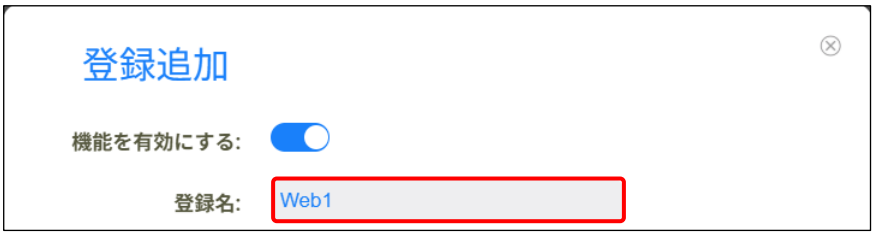
以下の手順で URL フィルタリング情報の登録を行って下さい。

①[追加]ボタンをクリックして下さい。「登録追加」画面が表示されます。

②登録する情報を有効にする場合は「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。一時的に無効な状態で登録したい場合は OFF にして下さい。



③「登録名」に登録情報を認識するための任意の名前を入力して下さい。



確 認	登録名は最大 32 文字(半角英数字)まで入力可能です。空欄は禁止となります。

④「URL/ドメイン名」にフィルタリング対象とするドメイン名を入力して下さい。

確 認	ドメイン名は最大 64 文字(半角英数字)まで入力可能です。空欄及び「.」(ドット)以外の記号の入力、IP アドレスでの指定は禁止となります。

〈次のページへ進んで下さい〉

⑤設定が終わりましたら[OK]ボタンをクリックして下さい。

⑥登録した設定を動作させるために「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。下図は ON の状態を示します。

⑦対象とする「フィルタリングモード」を選択して下さい。

許可リスト	指定した URL への Web アクセスを許可するように許可リストを設定します。
拒否リスト	指定した URL への Web アクセスをブロックするように拒否リストを設定します。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

確 認	「セキュリティ」の「MAC フィルタリング」設定で機能を有効にした場合と「URL フィルタリング」設定で機能を有効にした場合とでバッティングするよう設定した場合、「MAC フィルタリング」設定が優先されます。

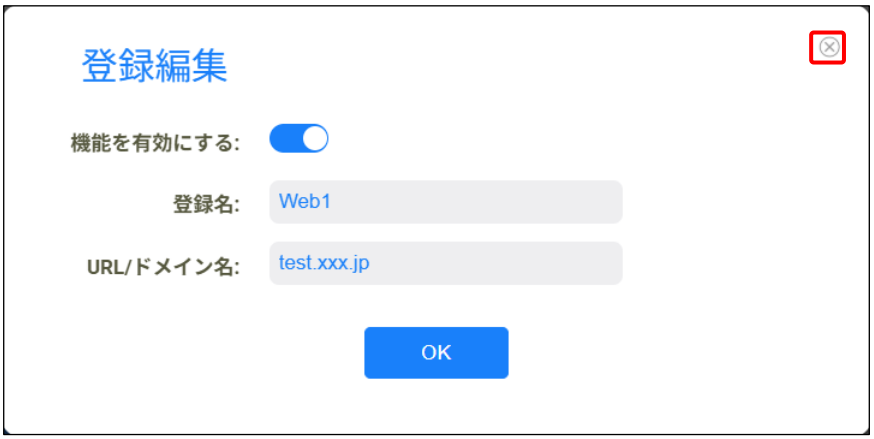
11-5-2.URL フィルタリング情報の編集

以下の手順で URL フィルタリング情報の編集を行って下さい。

①意図する登録情報の編集アイコンをクリックして下さい。

②「登録編集」画面が表示されます。本画面では各設定値を編集（変更）することが可能です。

編集した設定を適用せずにキャンセルしたい場合は、右上の「⊗」をクリックして下さい。



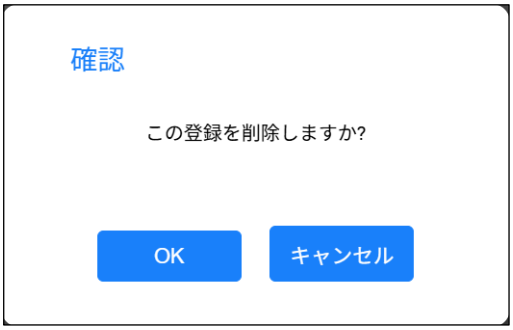
④　編集が終わりましたら[OK]ボタンをクリックして下さい。メッセージが消えれば編集完了です。

11-5-3.URL フィルタリング情報の削除

以下の手順で URL フィルタリング情報の削除を行って下さい。

①意図する登録情報の削除アイコンをクリックして下さい。

②「確認」画面が表示されますので、削除する場合は[OK]ボタンを、キャンセルする場合は[キャンセル]ボタンをクリックして下さい。



③[OK]ボタンをクリックして下さい。メッセージが消えれば削除完了です。

以上で、URL フィルタリングの設定は完了です。

11-6.ALG

確 認	WAN ポートの動作モードを「**IPv4 Over IPv6**」に設定した場合、本機能は無効になります。

「セキュリティ」から「ALG」をクリックすると、ALG の設定が表示されます。

ALG（アプリケーション層ゲートウェイ）を使って特定のプロトコルを通信ポリシーにより管理することが可能です。

■PPTP パススルー

有効にすると PPTP パススルーを有効にします。

工場出荷値では無効に設定されています。

有効/無効の設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

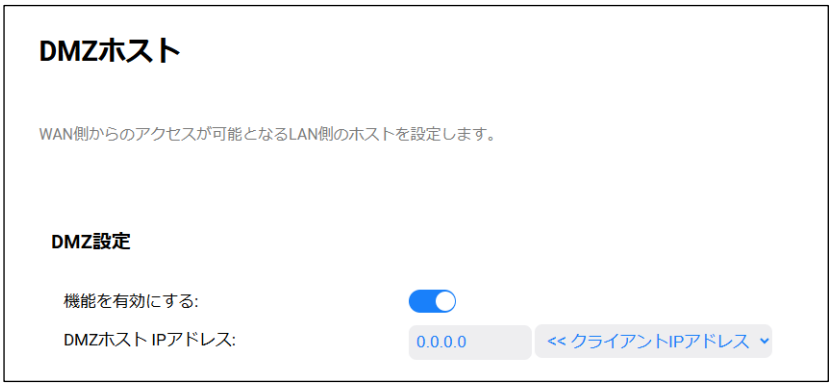
以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

11-7.DMZ ホスト

確 認	WAN ポートの動作モードを「**IPv4 Over IPv6**」に設定した場合、本機能は無効になります。

①「セキュリティ」から「DMZ ホスト」をクリックして下さい。

②「DMZ ホスト」画面が表示されます。



■機能を有効にする

有効にすると、WAN 側 IP アドレス宛ての全ての通信を、設定された LAN 側ホストの IP アドレスに転送します。

■DMZ ホスト IP アドレス

転送先の LAN 側ホストの IP アドレスを入力して下さい。

確 認	転送先のホストの IP アドレスは、固定設定することを推奨します。

〈次のページへ進んで下さい〉

PPPoE マルチセッション接続の場合は PPPoE セッション毎に設定が可能です。
例えば、PPPoE セッション 1～4 を有効にした場合は下図のようになりますので必要に応じて設定して下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

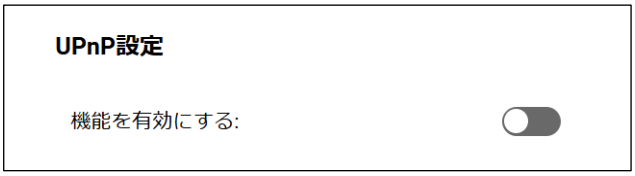
確 認	DMZ ホスト機能を使用する場合、転送先に設定したパソコン・IP アドレスは、セキュリティが低下しますので注意して下さい。
	「管理」の「アクセス制御」の設定で WAN ポート側からの HTTP 設定を有効にした場合、WAN 側からの HTTP（TCP ポート番号：80）へのアクセスは DMZ ホストへ転送されません。（HTTP 設定が優先されます） また、ポートフォワーディングとバッティングした場合もポートフォワーディングが優先されます。

確 認	PPPoE マルチセッション接続時は **セッション 1** のみ に適用となります。セッション 2～4 は対応しません。
	WAN ポートの動作モードを「**IPv4 Over IPv6**」に設定した場合、本機能は無効になります。

11-8-1.UPnP 設定

①「セキュリティ」から「UPnP」をクリックして下さい。

②「UPnP」画面が表示され、「UPnP 設定」項目が表示されます。



■**機能を有効にする**

有効にすると、UPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）機能が有効になります。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

11-8-2.UPnP ポートマッピングリスト

② 「セキュリティ」から「UPnP」をクリックして下さい。

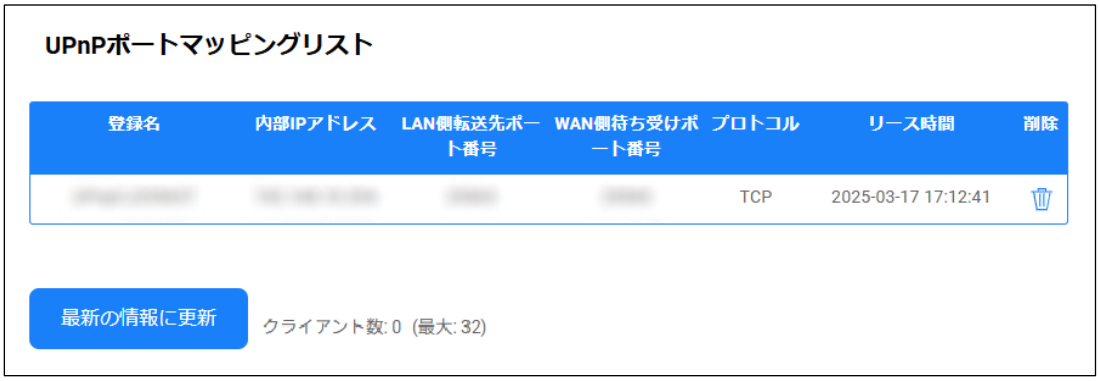
②「UPnP」画面が表示され、「UPnP ポートマッピングリスト」項目が表示されます。

登録名	UPnP 対応ソフトウェアで登録した登録名が表示されます。
内部 IP アドレス	UPnP 対応ソフトウェアで登録した IP アドレスが表示されます。
LAN 側転送先ポート番号	UPnP 対応ソフトウェアで登録した LAN 側転送先ポート番号が表示されます。
WAN 側待ち受けポート番号	UPnP 対応ソフトウェアで登録した WAN 側待ち受けポート番号が表示されます。
プロトコル	UPnP 対応ソフトウェアで登録したプロトコルが表示されます。
リース時間	登録した設定内容のリース時間が表示されます。
削除	意図する登録情報を削除することができます。

UPnP の機能が有効、UPnP 対応ソフトウェアが動作している時、[最新の情報に更新]ボタンをクリックして下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

「UPnP ポートマッピングリスト」のリストに登録されていることを確認して下さい。



確 認	最大 32 エントリまで登録する事ができます。

11-9.EasyDNS

確 認	EasyDNS 機能を使用する場合、各パソコンの DNS 設定に必ず NetGenesis の LAN ポート IP アドレスを設定して下さい。（「10-1.LAN ポート設定」(52 ページ)の「ProxyDNS を有効にする」を有効にして下さい。）
	登録可能なホスト情報数は、最大 32 個です。

「セキュリティ」から「EasyDNS」をクリックすると、EasyDNS の設定が表示されます。

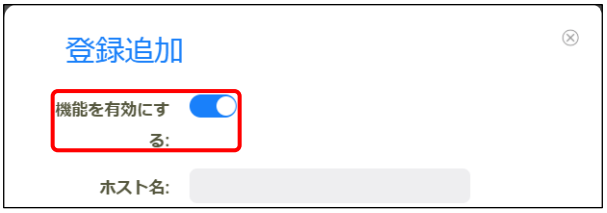
No.	No.が表示されます。
機能を有効にする	登録情報の有効/無効が表示されます。
ホスト名	登録したホスト名が表示されます。
IP アドレス	登録した IP アドレスが表示されます。
編集	意図する登録情報を編集することができます。
削除	意図する登録情報を削除することができます。

11-9-1.EasyDNS のエントリの登録

以下の手順で EasyDNS のエントリの登録を行って下さい

①[追加]ボタンをクリックして下さい。「登録追加」画面が表示されます。

②登録する情報を有効にする場合は「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。一時的に無効な状態で登録したい場合は OFF にして下さい。下図は ON の状態を表します。



③「ホスト名」に登録するホスト(パソコンやサーバー等に付けるニックネーム)を入力して下さい。

確 認	ホスト名は最大 32 文字(半角英数字)まで入力可能です。空欄は禁止となります。
	ホスト名は半角大文字・小文字を区別しません。
	「.」(ドット)を含まないホスト名を登録する場合、Windows パソコンからは「ホスト名」+「.」(ドット)で名前解決を行う必要があります。 Windows では「.」(ドット)を含まないホスト(ドメイン)名に対しては名前解決が発生しませんので注意して下さい。

④「IP アドレス」に登録するホスト(パソコンやサーバー等)の IP アドレスを入力して下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

「クライアント IP アドレス」をクリックすると、LAN ポートに接続している機器の IP アドレスがリストアップされます。
意図した IP アドレスを選んでクリックすると、その IP アドレスが「IP アドレス」に入力されます。

⑤設定が終わりましたら、[OK]ボタンをクリックして下さい。

⑥[OK]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。

⑦登録した設定を動作させるために「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。下図は ON の状態を示します。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

確 認	「ネットワーク」の「LAN ポート」設定で「マネージメントリンク」のドメイン名を「EasyDNS」で登録したホスト名とバッティングするよう設定した場合、マネージメントリンクが優先されます。

11-9-2.EasyDNS のエントリの編集

以下の手順で EasyDNS のエントリの編集を行って下さい。

①意図する登録情報の編集アイコンをクリックして下さい。

②「登録編集」画面が表示されます。本画面では各設定値を編集(変更)することが可能です。
編集した設定を適用せずキャンセルしたい場合は、右上の「⊗」をクリックして下さい。

③編集が終わりましたら[OK]ボタンをクリックして下さい。

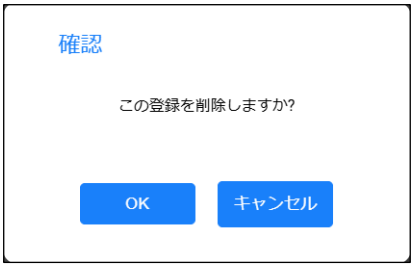
④[OK]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば編集完了です。

11-9-3.EasyDNS のエントリの削除

以下の手順で EasyDNS のエントリの削除を行って下さい。

①意図する登録情報の削除アイコンをクリックして下さい。

②「確認」画面が表示されますので、削除する場合は[OK]ボタンを、キャンセルする場合は[キャンセル]ボタンをクリックして下さい。



③[OK]ボタンをクリックして下さい。

④[OK]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば削除完了です。

以上で EasyDNS の設定は完了です。

12.高度な設定

高度な設定について説明します。

12-1.ルーティング

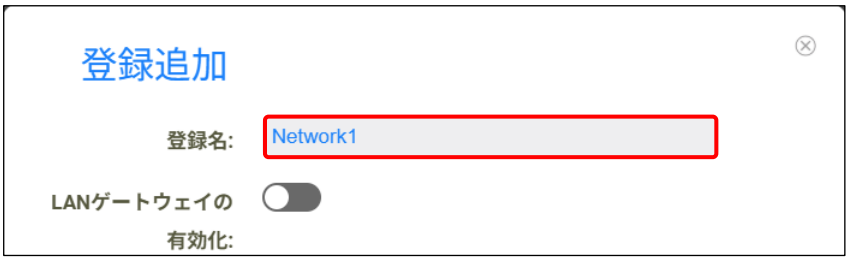
「高度な設定」から「ルーティング」をクリックすると、IPv4 ルーティングの設定が表示されます。

12-1-1. IPv4 スタティックルーティングの登録

以下の手順で IPv4 スタティックルーティング情報の登録を行って下さい。

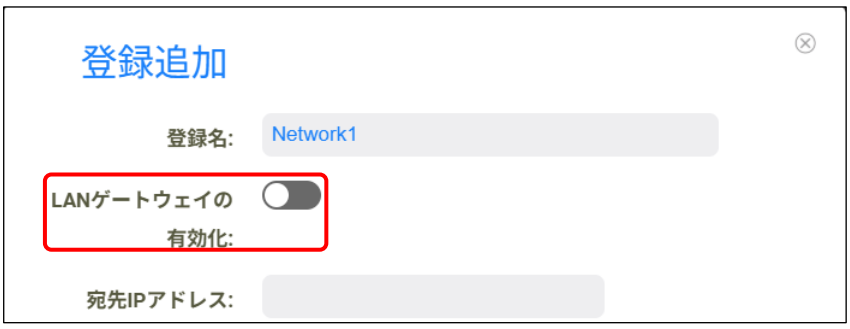
①[追加]ボタンをクリックして下さい。「登録追加」画面が表示されます。

②「登録名」に登録情報を認識するための任意の名前を入力して下さい。



確 認	登録名は最大 32 文字(半角英数字)まで入力可能です。空欄は禁止となります。

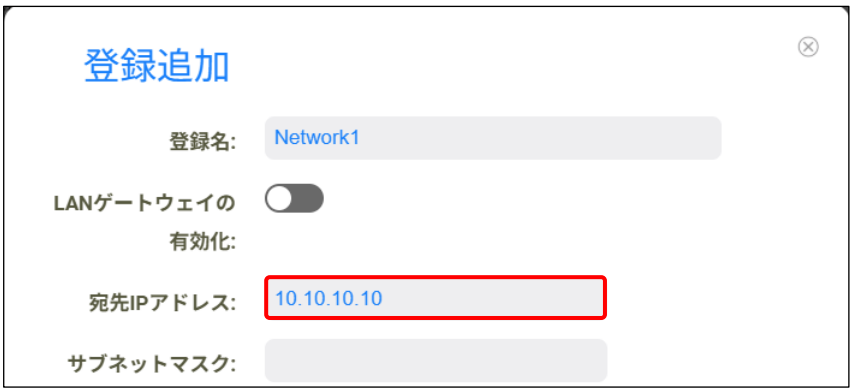
③LAN ゲートウェイを有効化する場合は、「LAN ゲートウェイの有効化」を ON にして下さい。



確 認	有効にした場合、ゲートウェイとメトリックのみ設定できるようになります。
	有効にした場合、メトリックは「17～100」の範囲で設定することができます。

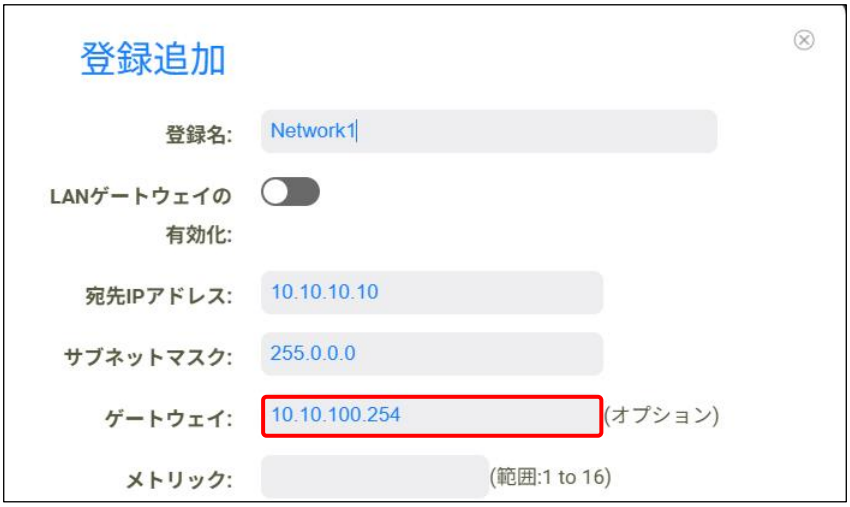
〈次のページへ進んで下さい〉

④「宛先 IP アドレス」にルーティング対象とする宛先の IP アドレスまたはネットワークアドレスを入力して下さい。



⑤「サブネットマスク」にルーティング対象とするサブネットマスクを入力して下さい。

⑥「ゲートウェイ」にルーティング対象とするゲートウェイを入力して下さい。



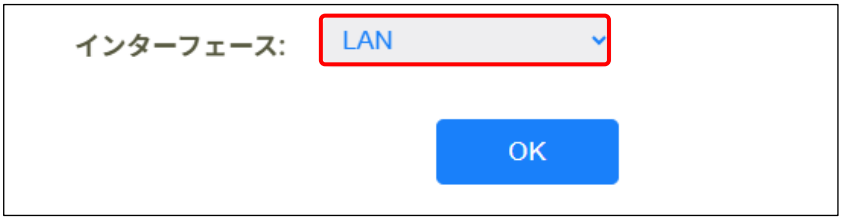
確認	PPPoE 通信へルーティングを行う場合は、ゲートウェイを空欄で設定して下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

⑦「メトリック」を入力して下さい。

確 認	「1～16」の範囲で設定することができます。

⑧対象とする「インターフェース」を選択して下さい



LAN	LAN へルーティングします。
WAN	WAN へルーティングします。 WAN ポート設定が PPPoE（Multi PPPoE）の場合は、PPPoE セッション 1 へルーティングします。
WAN2	PPPoE セッション 2 へルーティングします。
WAN3	PPPoE セッション 3 へルーティングします。
WAN4	PPPoE セッション 4 へルーティングします。

⑨設定が終わりましたら、[OK]ボタンをクリックして下さい。メッセージが消えれば設定完了です。

確 認	最大 32 エントリまで登録することができます。

12-1-2. IPv4 スタティックルーティングの編集

以下の手順で IPv4 スタティックルーティング情報の編集を行って下さい。

①意図する登録情報の編集アイコンをクリックして下さい。

②「登録編集」画面が表示されます。本画面では各設定値を編集（変更）することが可能です。
編集した設定を適用せずキャンセルしたい場合は、右上の「⊗」をクリックして下さい。

③ 編集が終わりましたら[OK]ボタンをクリックして下さい。メッセージが消えれば編集完了です。

12-1-3. IPv4 スタティックルーティングの削除

以下の手順で IPv4 スタティックルーティング情報の削除を行って下さい。

①意図する登録情報の削除アイコンをクリックして下さい。

②「確認」画面が表示されますので、削除する場合は[OK]ボタンを、キャンセルする場合は[キャンセル]ボタンをクリックして下さい。

③[OK]ボタンをクリックして下さい。メッセージが消えれば削除完了です。

12-2.ダイナミック DNS

確 認	本機能は外部のダイナミック DNS サービスを利用します。そのため、サービス提供元の仕様変更やサービス内容の変更により、利用できなくなる場合がありますのであらかじめご了承下さい。
	現在対応しているダイナミック DNS サービスは以下の 3 つです。「DynDNS」、「No-IP」、「MyDNS.JP」 他のダイナミック DNS サービスはご利用頂けませんのであらかじめご了承下さい。
	ダイナミック DNS 機能の設定を行う前に、各公式サイトにてアカウント登録とホスト名（ドメイン名）の取得を行って下さい。 **MyDNS.JP 公式サイト（日本語） http://www.mydns.jp/ Dynamic** **No-IP 公式サイト（英語） http://www.no-ip.com/** **DynDNS 公式サイト（英語） http://www.dyndns.com/**
	WAN ポートの IP アドレスがプライベート IP アドレスの場合、本機能は DDNS サーバーへの登録を行いません。
	1 つの DDNS プロバイダに対し DDNS クライアントとしての動作が可能なのは、 IPv4 で 1 つ、IPv6 で 1 つのアカウントとなります。

「高度な設定」から「ダイナミック DNS」をクリックすると、ダイナミック DNS の設定が表示されます。

「ダイナミック DNS 登録リスト」については下表のとおりです。

機能を有効にする	登録情報の有効/無効が表示されます。
ホスト名	登録したホスト名が表示されます。
インターフェース	対象のインターフェースが表示されます。
最終更新日時	最終更新日時が表示されます。
詳細	意図する登録情報の詳細を確認することができます。
編集	意図する登録情報を編集することができます。
削除	意図する登録情報を削除することができます。

12-2-1.ダイナミック DNS のエントリの登録

以下の手順でダイナミック DNS のエントリの登録を行って下さい。

①[追加]ボタンをクリックして下さい。「登録追加」画面が表示されます。

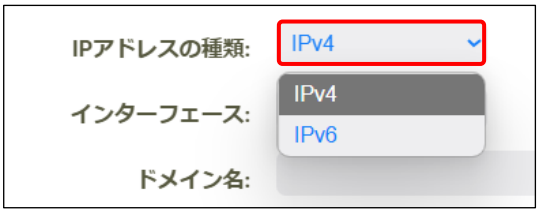
②登録する情報を有効にする場合は「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。一時的に無効な状態で登録したい場合は OFF にして下さい。下図は ON の状態を表します。

③「サービスプロバイダ」から利用する DDNS サービスを選択して下さい。

no-ip.com	No-IP のサービスを対象とします。
dyndns.org	DynDNS のサービスを対象とします。
mydns.jp	MyDNS のサービスを対象とします。

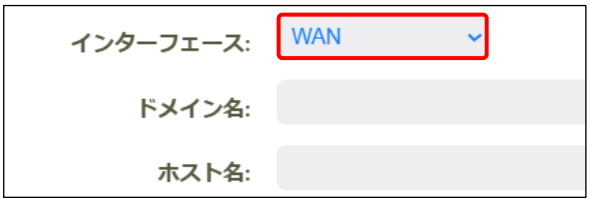
〈次のページへ進んで下さい〉

④「IP アドレスの種類」から対象とする IP を選択して下さい。



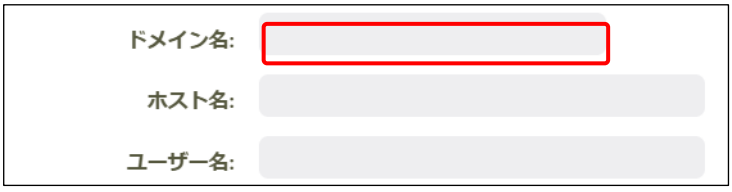
IPv4	IPv4 を対象とします。
IPv6	IPv6 を対象とします。

⑤「インターフェース」から対象とするインターフェースを選択して下さい。

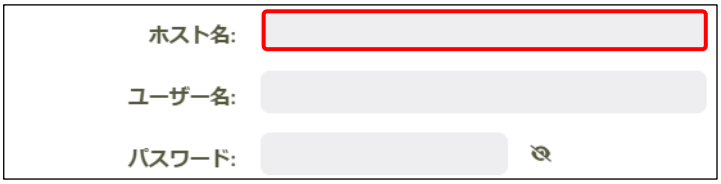


WAN	WAN を対象とします。 WAN ポート設定が PPPoE（Multi PPPoE）の場合は、PPPoE セッション 1 を対象とします。
WAN2	PPPoE セッション 2 を対象とします。
WAN3	PPPoE セッション 3 を対象とします。
WAN4	PPPoE セッション 4 を対象とします。
wan6	IPv6 を対象とします。

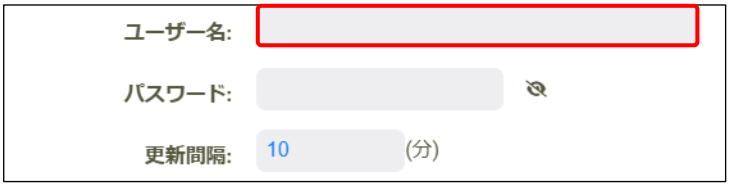
⑥「ドメイン名」に DDNS サービスで登録したドメイン名（または「ホスト名」と同じもの）を入力して下さい。



⑦「ホスト名」に DDNS サービスで登録したホスト名（または「ドメイン名」と同じもの）を入力して下さい。



⑧「ユーザー名」に DDNS サービスで登録したユーザー名を入力して下さい。



⑨「パスワード」に DDNS サービスで登録したパスワードを入力して下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

⑩「更新間隔」に DNS サーバーへの更新間隔を入力して下さい。

⑪設定が終わりましたら、[OK]ボタンをクリックして下さい。

⑫登録した設定を動作させるために「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。下図は ON の状態を示します。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

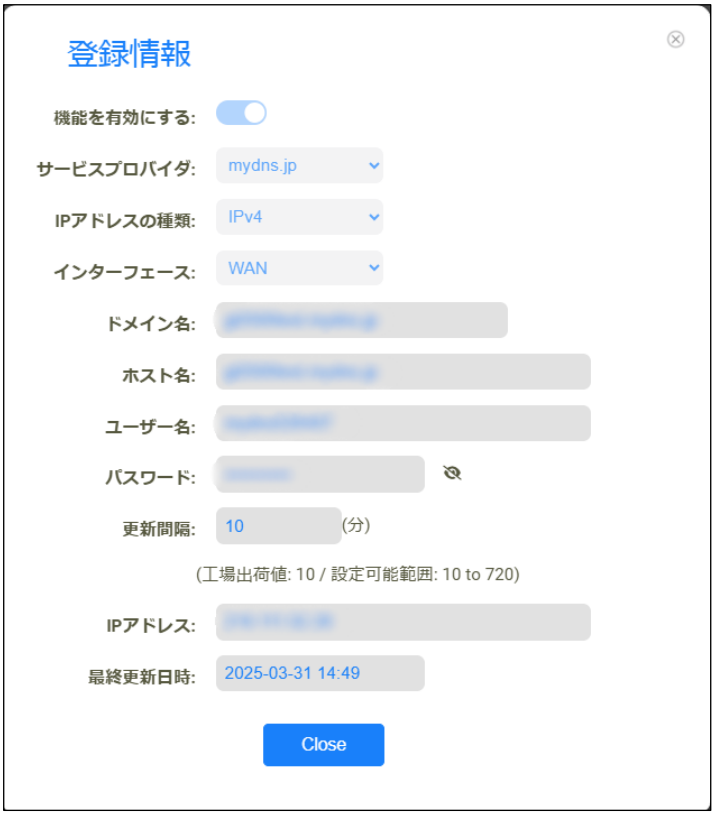
以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

12-2-2.ダイナミック DNS のエントリの確認

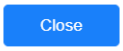
以下の手順でダイナミック DNS のエントリの確認を行って下さい。

①意図する登録情報の詳細アイコンをクリックして下さい。

②「登録情報」画面が表示されます。本画面では各設定値を確認(閲覧)することだけが可能です。



③確認が終わりましたら[Close]ボタンをクリックして下さい。「登録確認」画面が閉じられれば確認完了です。



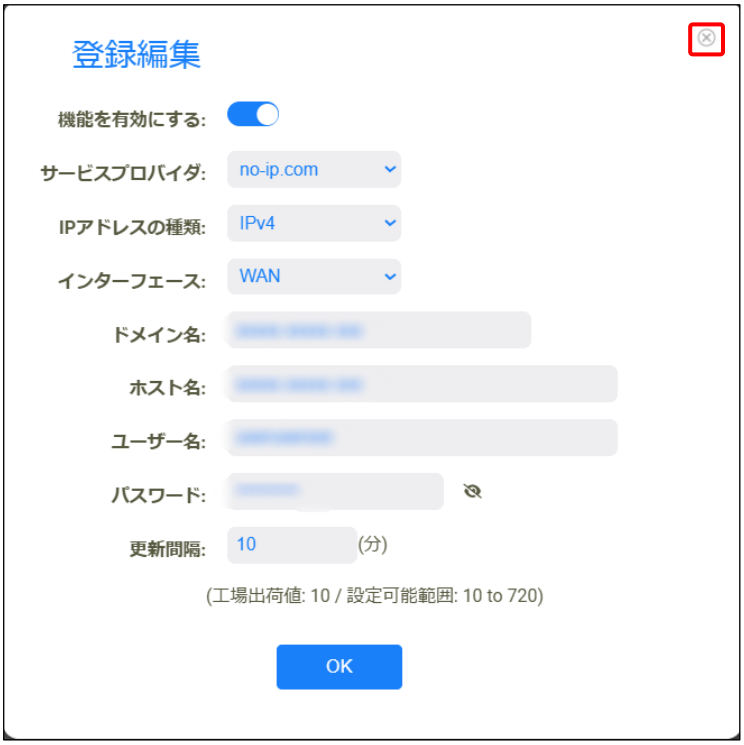
12-2-3.ダイナミック DNS のエントリの編集

以下の手順でダイナミック DNS のエントリの編集を行って下さい。

①意図する登録情報の編集アイコンをクリックして下さい。

②「登録編集」画面が表示されます。本画面では各設定値を編集（変更）することが可能です。

編集した設定を適用せずキャンセルしたい場合は、右上の「⊗」をクリックして下さい。



③編集が終わりましたら、[OK]ボタンをクリックして下さい。メッセージが消えれば編集完了です。

12-2-4.ダイナミック DNS のエントリの削除

以下の手順でダイナミック DNS のエントリの削除を行って下さい。

①意図する登録情報の削除アイコンをクリックして下さい。

②「確認」画面が表示されますので、削除する場合は[OK]ボタンを、キャンセルする場合は[キャンセル]ボタンをクリックして下さい。

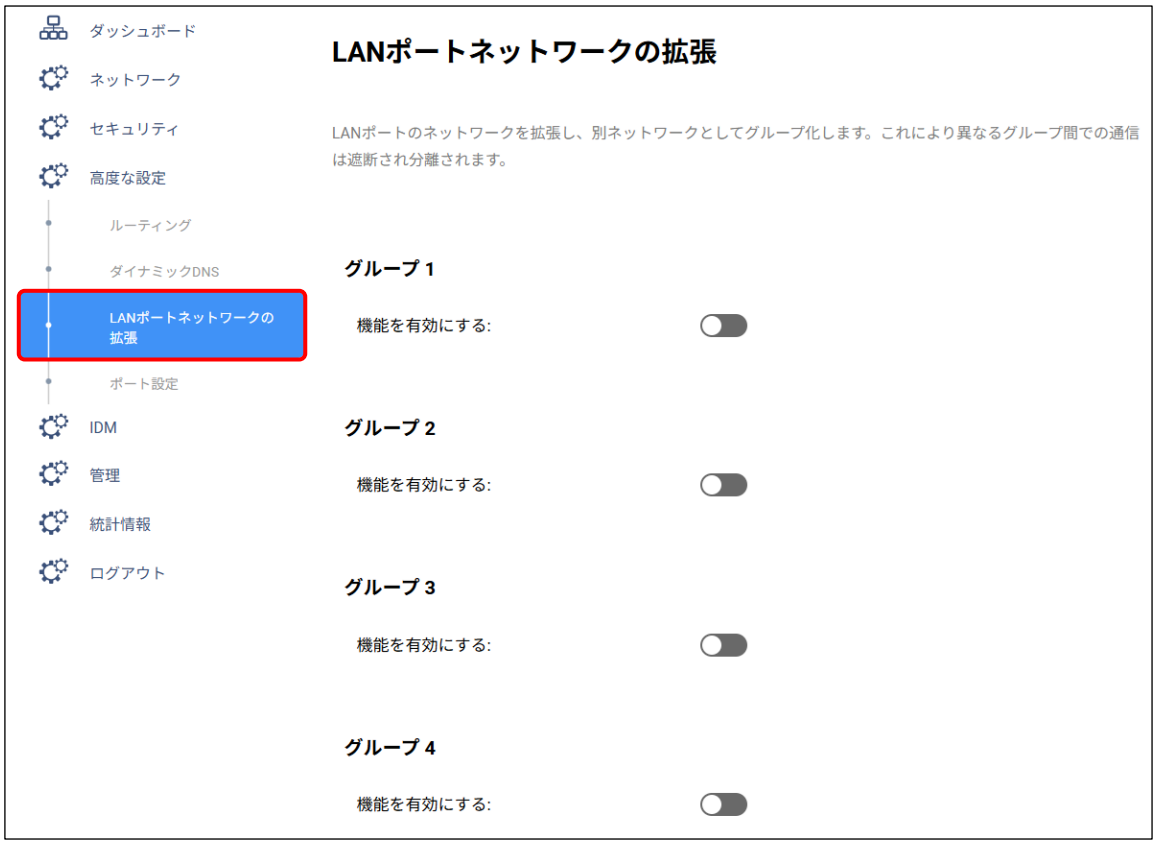
③[OK]ボタンをクリックして下さい。メッセージが消えれば削除完了です。

以上でダイナミック DNS の設定は完了です。

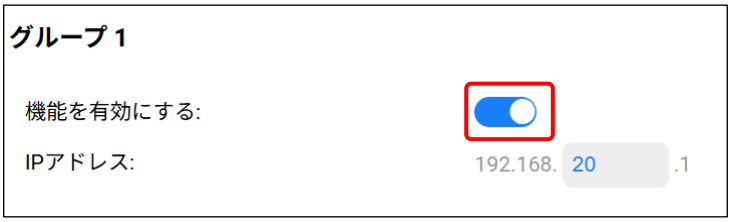
12-3.LAN ポートネットワークの拡張

本機能は、LAN ポート毎に別ネットワークを設定してグループ化する機能です。

①「高度な設定」から「LAN ポートネットワークの拡張」をクリックして下さい。



②使用するグループの「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。下図はグループ 1 の例です。



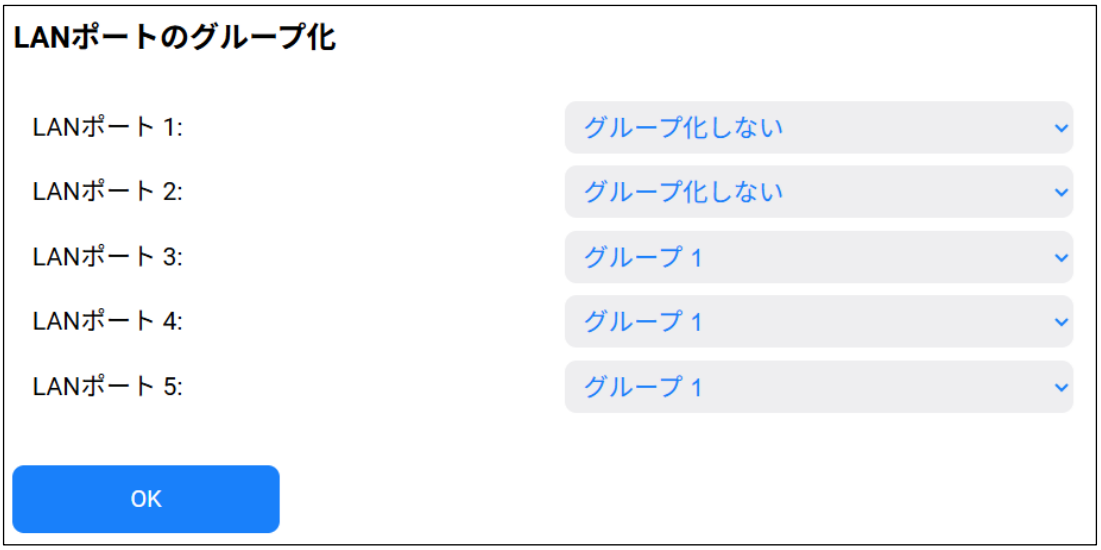
③「IP アドレス」にそのグループが使用する LAN ポート IP アドレスを入力して下さい。

④必要に応じてグループ 2～4 を設定して下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

⑤各 LAN ポートをグループ分けします。

下図の例では LAN3、4、5 がグループ 1 に属し、LAN1、2 はどのグループにも属さないという設定になります。



※ この場合、グループに属さない LAN1～2 は LAN ポートに設定した IP アドレスを使用します。
LAN ポートの設定が工場出荷値の場合、「192.168.0.1/24」が NetGenesis の LAN ポート IP アドレスとなり
LAN1～2 に接続した機器は DHCP サーバーから「192.168.0.2～254」が付与されます。

グループ 1 は②で設定した「192.168.20.1/24」が NetGenesis の LAN ポート IP アドレスとなり
LAN3～5 に接続した機器は DHCP サーバーから「192.168.20.2～254」が付与されます。

異なるグループ間での通信は不可となります。
例えば、LAN1 は LAN2 と通信可ですが、LAN3～5 とは通信不可となり、
LAN5 は LAN3、4 と通信可ですが、LAN1、2 とは通信不可となります。

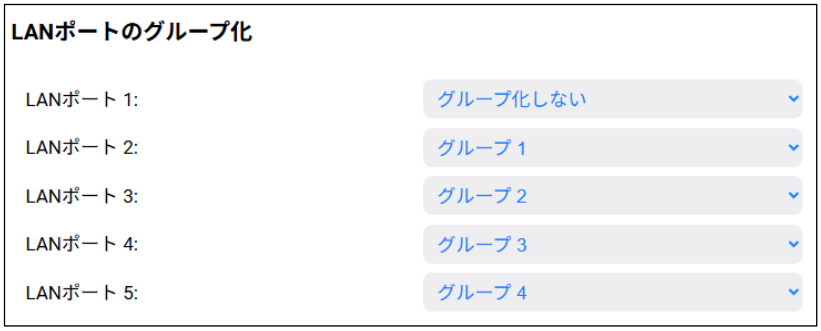
但し、異なるグループであっても NetGenesis の LAN ポート IP アドレスとは通信可となります。
つまり、LAN1～5 は NetGenesis の LAN ポート IP アドレスとして 192.168.0.1 とも 192.168.20.1 とも通信可となります。
(例えば、グループが異なっていても 192.168.0.1 宛でブラウザ設定が使えます)

⑥設定が終わりましたら、[OK]ボタンをクリックして下さい。メッセージが消えれば設定完了です。

次ページで構成例を挙げて説明します。

<次のページへ進んで下さい>

＜構成例 1＞ 全ポートにおいて異なるネットワーク構成とする。

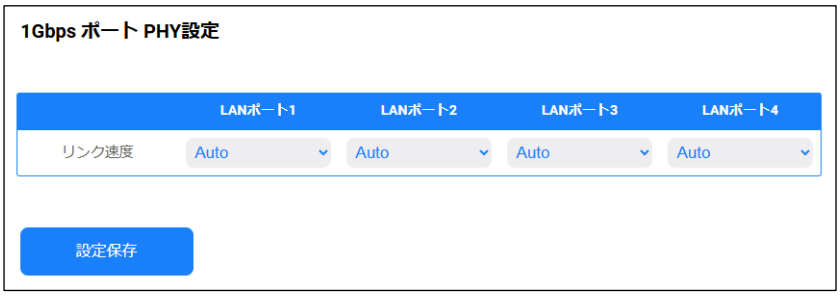


- LAN1 に接続した機器は 192.168.0.2～254 の IP を DHCP サーバーから付与される。
  192.168.0.1 が NetGenesis の LAN ポート IP となる。
  192.168.20.1、192.168.30.1、192.168.40.1、192.168.50.1 も NetGenesis の LAN ポート IP となる。
- LAN2 に接続した機器は 192.168.20.2～254 の IP を DHCP サーバーから付与される。
  192.168.20.1 が NetGenesis の LAN ポート IP となる。
  192.168.0.1、192.168.30.1、192.168.40.1、192.168.50.1 も NetGenesis の LAN ポート IP となる。
- LAN3 に接続した機器は 192.168.30.2～254 の IP を DHCP サーバーから付与される。
  192.168.30.1 が NetGenesis の LAN ポート IP となる。
  192.168.0.1、192.168.20.1、192.168.40.1、192.168.50.1 も NetGenesis の LAN ポート IP となる。
- LAN4 に接続した機器は 192.168.40.2～254 の IP を DHCP サーバーから付与される。
  192.168.40.1 が NetGenesis の LAN ポート IP となる。
  192.168.0.1、192.168.20.1、192.168.30.1、192.168.50.1 も NetGenesis の LAN ポート IP となる。
- LAN5 に接続した機器は 192.168.50.2～254 の IP を DHCP サーバーから付与される。
  192.168.50.1 が NetGenesis の LAN ポート IP となる。
  192.168.0.1、192.168.20.1、192.168.30.1、192.168.40.1 も NetGenesis の LAN ポート IP となる。
- 各 LAN ポートに接続した機器は NetGenesis の LAN ポート IP である 192.168.0.1、192.168.20.1、192.168.30.1、192.168.40.1、192.168.50.1 とは通信可だが、異なるグループの機器とは通信不可となる。

12-4.ポート設定

①「高度な設定」から「ポート設定」をクリックして下さい。

②「ポート設定」画面が表示され、各ポートの PHY 設定が表示されます。



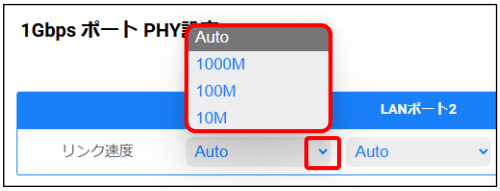
〈次のページへ進んで下さい〉

■リンク速度

NetGenesis の各ポート（LAN1～LAN5）と WAN ポートのリンク速度を、それぞれ個別に設定することが可能です。

工場出荷値は「Auto」です。

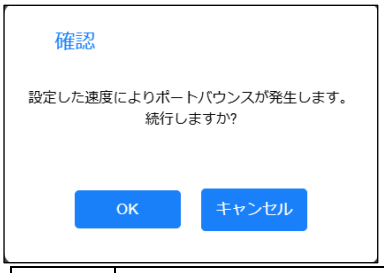
設定を変更する場合は、[V]をクリックしてリンク速度を選択して下さい。



確 認	変更する速度によっては、スループットが低下する場合があります。
	接続した機器によっては、リンク速度を変更するとリンクが確立できない場合があります。 その場合は、NetGenesis、接続した機器、共に[Auto]で設定して下さい。
	リンク速度設定は接続する機器側と合わせて設定して下さい。 リンク速度設定が合っていないと正しくリンクを確立できない場合があります。 通信できない、あるいはパケットロスやデータ再送等が発生する可能性があります。 （速度低下の原因になります。）

③設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

④「確認」画面が表示されるので、設定保存する場合は[OK]ボタンを、キャンセルする場合は[キャンセル]ボタンをクリックして下さい。



確 認	[OK]ボタンをクリックすると、ポートバウンスが発生しますので注意して下さい。

⑤[OK]ボタンをクリックして下さい。

⑥[OK]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

13.IDM

マイクロリサーチ デバイス管理サービス MRL-IDM を利用する場合の設定について説明します。

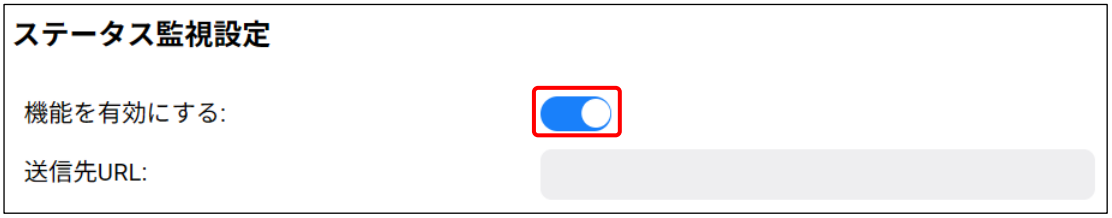
確 認	MRL-IDM を利用するためには、サービスの利用申し込みが必要です。
	WAN ポートの動作モードを「IPv4 Over IPv6」に設定した場合、リモート管理は動作しません。

13-1.ステータス監視

ステータス監視機能は、MRL-IDM への通知条件に達した際、ステータスを MRL-IDM に通知します。

①「IDM」から「ステータス監視」をクリックして下さい。

②ステータス監視の「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



③「送信先 URL」に MRL-IDM の「監視・アラート管理」内「ステータス監視 URL 設定」で発行した URL を入力(コピー・貼り付け)して下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

④「通知理由」の設定を行って下さい。

■**WAN 側接続状態**

WAN ポートが接続状態になった時に通知する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。

通知理由

WAN 側接続状態

機能を有効にする:

■**定期送信を行うタイミングを設定します**

定期的に通知する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして、送信間隔を設定して下さい。

定期送信を行うタイミングを設定します

機能を有効にする:

送信間隔: 60 (分)

(工場出荷値: 60 / 設定可能範囲: 1 to 1440)

■**送信スケジュールの詳細を指定します**

設定したスケジュールで送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして、送信する曜日と通知時間、揺らぎ時間を設定して下さい。

送信スケジュールの詳細を指定します

機能を有効にする:

送信スケジュール - 日曜:

送信スケジュール - 月曜:

送信スケジュール - 火曜:

送信スケジュール - 水曜:

送信スケジュール - 木曜:

送信スケジュール - 金曜:

送信スケジュール - 土曜:

通知時刻: 0 (時)

(工場出荷値: 0 / 設定可能範囲: 0 to 23)

揺らぎ時間: 59 (分)

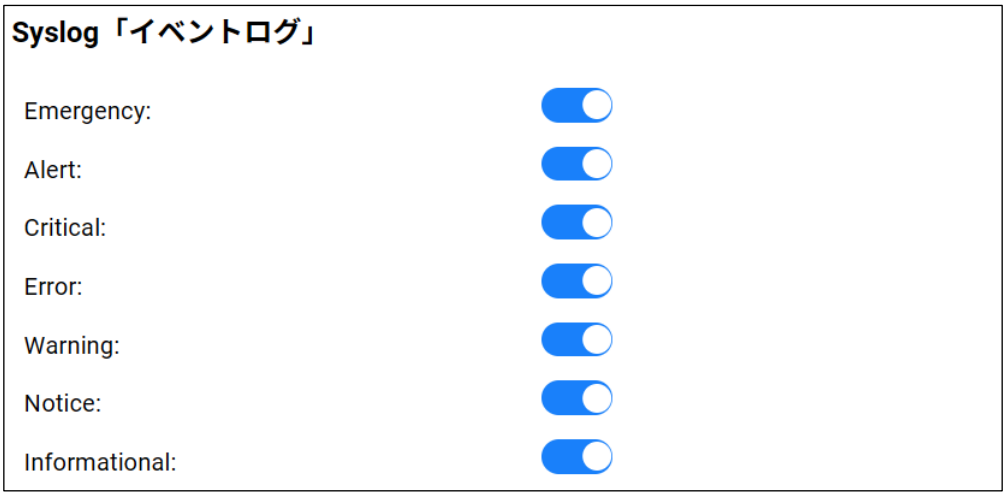
(工場出荷値: 59 / 設定可能範囲: 0 to 59)

サーバーへのアクセス集中を防ぐため、通知時刻から最大揺らぎ時間後に送信動作を行います

〈次のページへ進んで下さい〉

■Syslog「イベントログ」

イベントログ発生時に送信する場合、送信するログレベルを設定して下さい。



■ログイン「イベントログ」

ログイン「イベントログ」	設定画面へのログイン時に送信する場合、スイッチを ON にして下さい。
ログインエラー「イベントログ」	設定画面へのログインエラー時に送信する場合、スイッチを ON にして下さい。
連続回数	ログインエラーが何回連続で発生した場合に送信するか設定して下さい。

■メモリ使用率異常検知

メモリ使用率異常検知時に送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして、チェック間隔と異常使用率を設定して下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

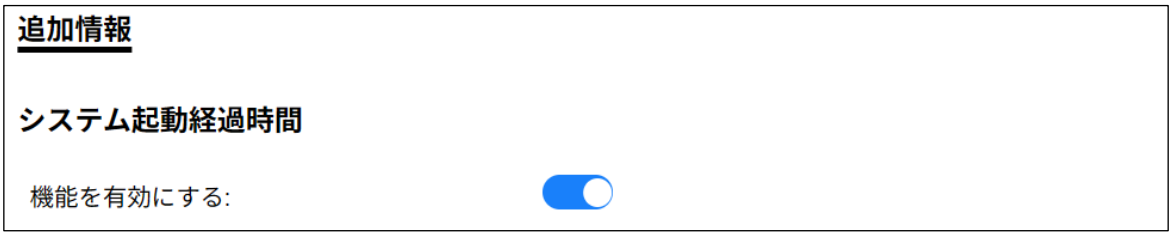
■物理ポートのリンク状態変更

物理ポートのリンク状態の変化により送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。

⑤「追加情報」の設定を行って下さい。

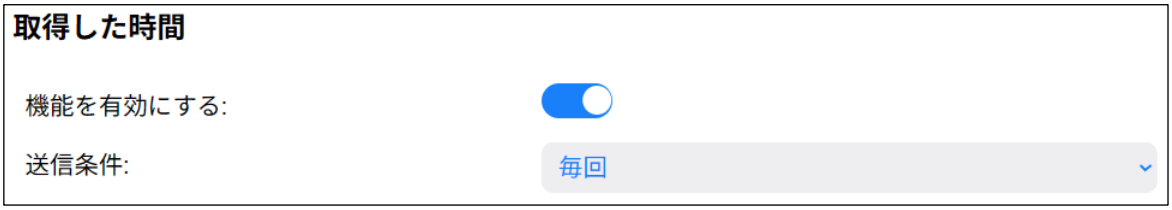
■システム起動経過時間

通知の際にシステム起動経過時間も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



■取得した時間

通知の際に NTP の状態も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



送信条件	
毎回	毎回状態を送信します。
時刻を取得した直後だけ	時刻を取得した直後だけ送信します。

■RAM 使用率

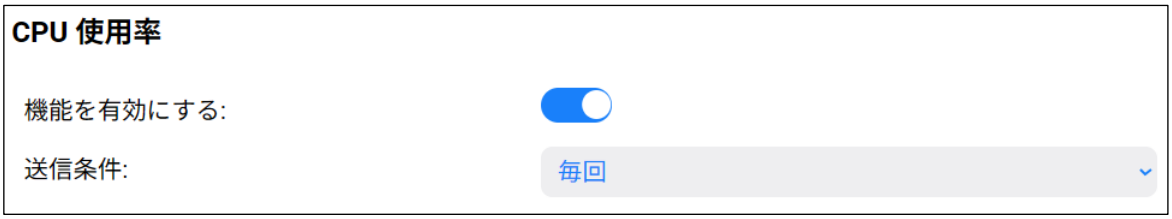
通知の際に RAM の使用率も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。

送信条件	
毎回	毎回使用率を送信します。
変化した場合	使用率が変化した場合に送信します。

〈次のページへ進んで下さい〉

■CPU 使用率

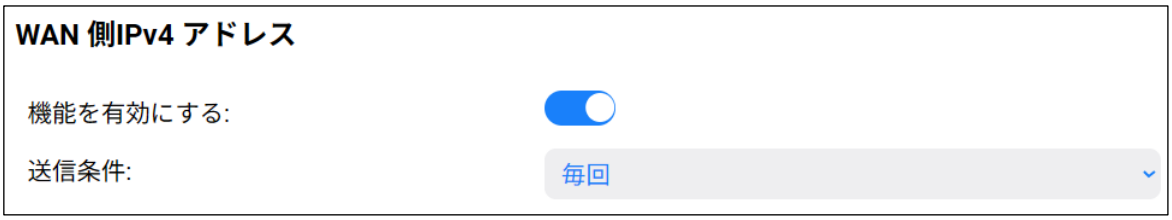
通知の際に CPU の使用率も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



送信条件	
毎回	毎回使用率を送信します。
変化した場合	使用率が変化した場合に送信します。

■WAN 側 IPv4 アドレス

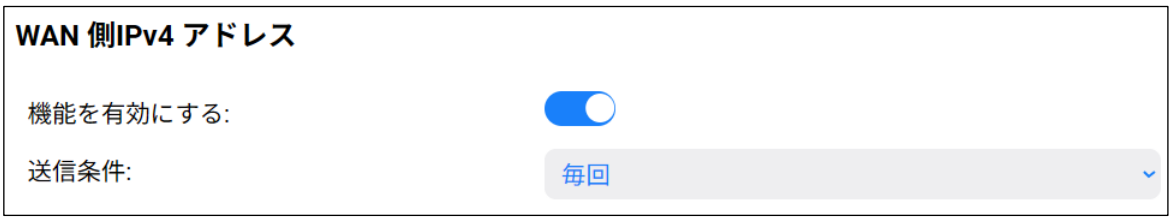
通知の際に WAN 側 IPv4 アドレスの情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



送信条件	
毎回	毎回 WAN 側 IPv4 アドレスの情報を送信します。
変化した場合	WAN 側 IPv4 アドレスが変化した場合に送信します。

■LAN 側 IPv4 アドレス

通知の際に LAN 側 IPv4 アドレスの情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



送信条件	
毎回	毎回 LAN 側 IPv4 アドレスの情報を送信します。
変化した場合	LAN 側 IPv4 アドレスが変化した場合に送信します。

〈次のページへ進んで下さい〉

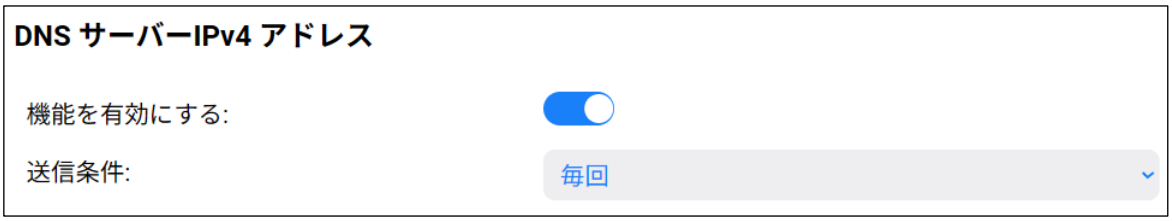
■デフォルトゲートウェイ IPv4 アドレス

通知の際にデフォルトゲートウェイ IPv4 アドレスの情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。

送信条件	
毎回	毎回デフォルトゲートウェイ IPv4 アドレスの情報を送信します。
変化した場合	デフォルトゲートウェイ IPv4 アドレスが変化した場合に送信します。

■DNS サーバーIPv4 アドレス

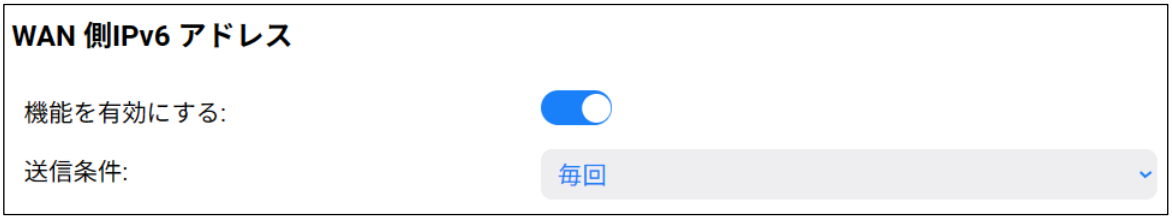
通知の際に DNS サーバーIPv4 アドレスの情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



送信条件	
毎回	毎回 DNS サーバーIPv4 アドレスの情報を送信します。
変化した場合	DNS サーバーIPv4 アドレスが変化した場合に送信します。

■WAN 側 IPv6 アドレス

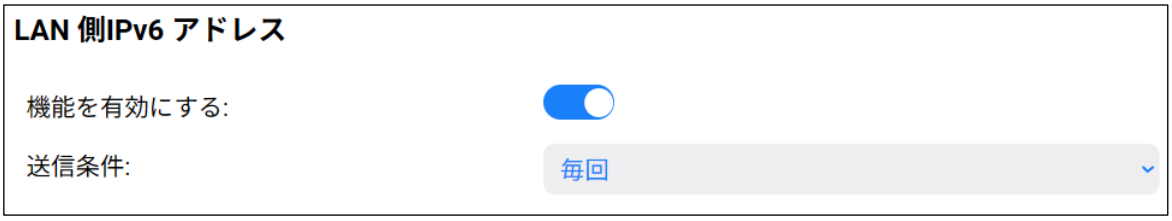
通知の際に WAN 側 IPv6 アドレスの情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



送信条件	
毎回	毎回 WAN 側 IPv6 アドレスの情報を送信します。
変化した場合	WAN 側 IPv6 アドレスが変化した場合に送信します。

■LAN 側 IPv6 アドレス

通知の際に LAN 側 IPv6 アドレスの情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



送信条件	
毎回	毎回 LAN 側 IPv6 アドレスの情報を送信します。
変化した場合	LAN 側 IPv6 アドレスが変化した場合に送信します。

〈次のページへ進んで下さい〉

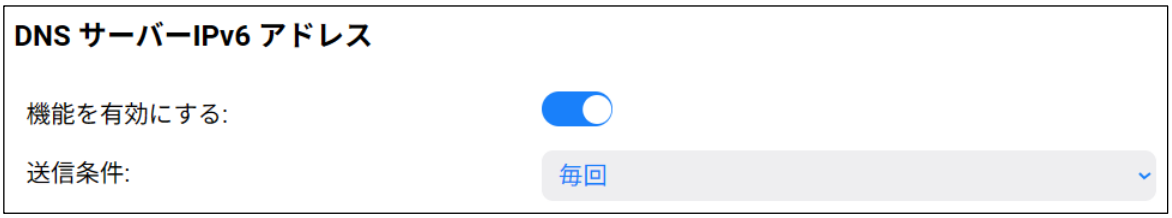
■デフォルトゲートウェイ IPv6 アドレス

通知の際にデフォルトゲートウェイ IPv6 アドレスの情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。

送信条件	
毎回	毎回デフォルトゲートウェイ IPv6 アドレスの情報を送信します。
変化した場合	デフォルトゲートウェイ IPv6 アドレスが変化した場合に送信します。

■DNS サーバーIPv6 アドレス

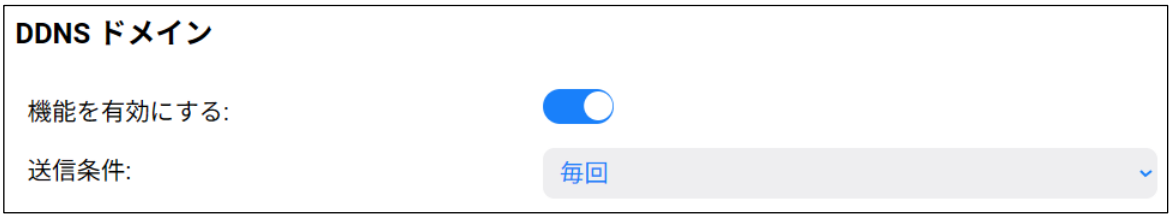
通知の際に DNS サーバーIPv6 アドレスの情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



送信条件	
毎回	毎回 DNS サーバーIPv6 アドレスの情報を送信します。
変化した場合	DNS サーバーIPv6 アドレスが変化した場合に送信します。

■DDNS ドメイン

通知の際に DDNS ドメインの情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。

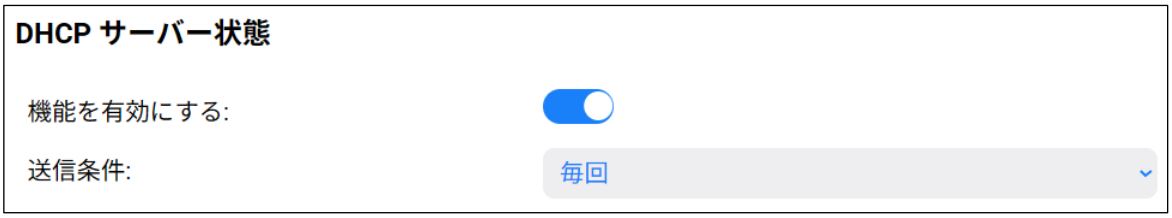


送信条件	
毎回	毎回 DDNS ドメインの情報を送信します。
変化した場合	DDNS ドメインが変化した場合に送信します。

〈次のページへ進んで下さい〉

■DHCP サーバー状態

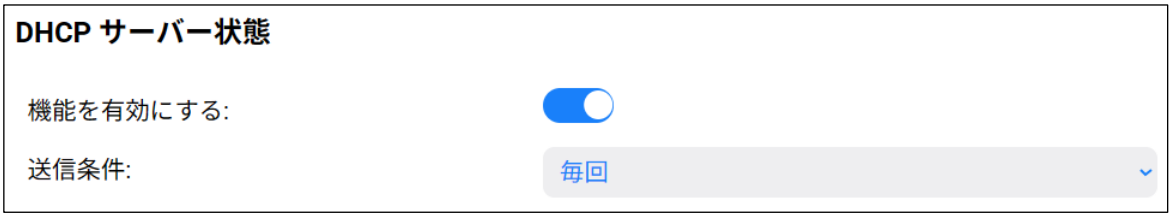
通知の際に DHCP サーバーの状態も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



送信条件	
毎回	毎回 DHCP サーバーの状態を送信します。
変化した場合	DHCP サーバーの状態が変化した場合に送信します。

■ハードウェアバージョン

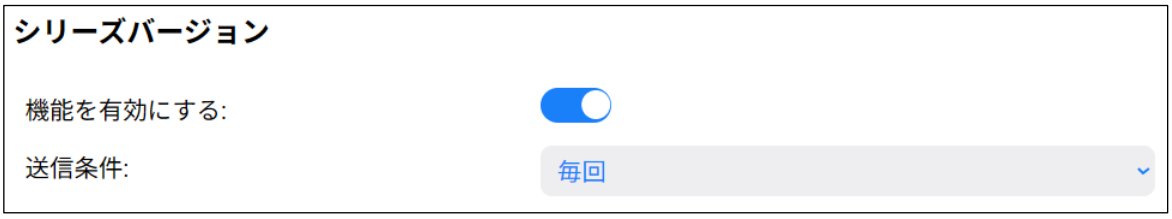
通知の際にハードウェアバージョンの情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



送信条件	
毎回	毎回ハードウェアバージョンの情報を送信します。
初回のみ	初回のみハードウェアバージョンの情報を送信します。

■シリーズバージョン

通知の際にシリーズバージョンの情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。

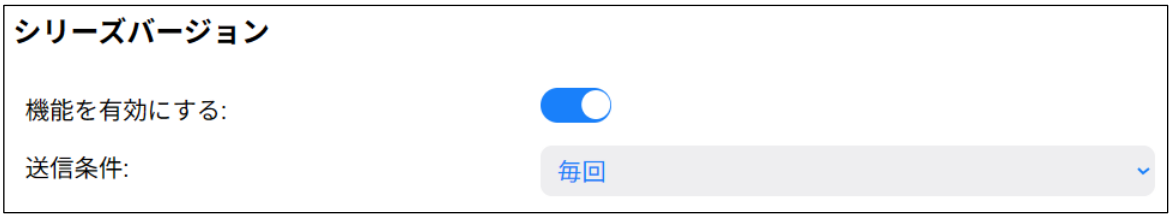


送信条件	
毎回	毎回シリーズバージョンの情報を送信します。
初回のみ	初回のみシリーズバージョンの情報を送信します。

〈次のページへ進んで下さい〉

■ビルド日時

通知の際にファームウェアビルド日時の情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



送信条件	
毎回	毎回ビルド日時の情報を送信します。
初回のみ	初回のみビルド日時の情報を送信します。

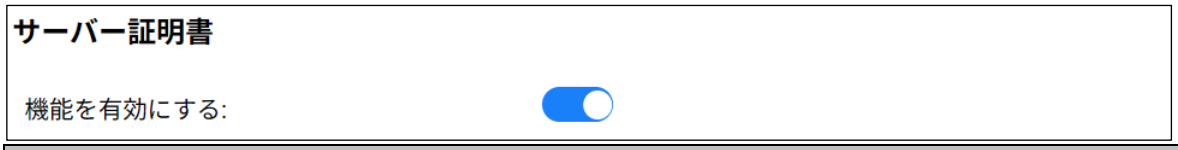
■loadavg

通知の際に loadavg の情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。

送信条件	
毎回	毎回 loadavg の情報を送信します。
変化した場合	loadavg の情報が変化した場合に送信します。

■サーバー証明書

通知の際にサーバー証明書の情報も送信する場合、「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



送信条件	
毎回	毎回サーバー証明書の情報を送信します。
初回のみ	初回のみサーバー証明書の情報を送信します。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

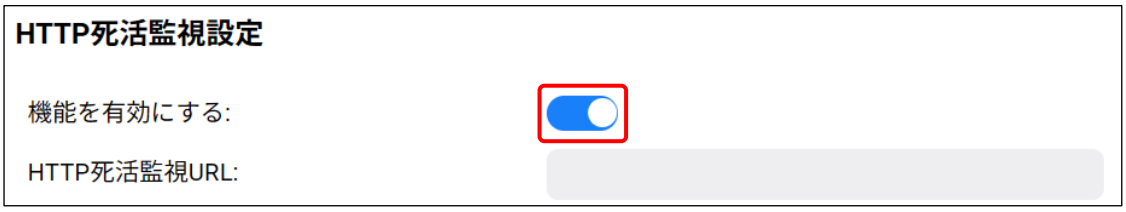
以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

13-2.死活監視

死活監視機能は、デバイスと MRL-IDM の通信経路の死活状態を確認します。

①「IDM」から「死活監視」をクリックして下さい。

②HTTP 死活監視設定の「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。



③「HTTP 死活監視 URL」に MRL-IDM の「監視・アラート管理」内「HTTP 監視 URL 設定」で発行した URL を入力（コピー・貼り付け）して下さい。

④「HTTP 死活監視間隔」に MRL-IDM へ HTTP パケットを送信する間隔を入力して下さい。

確 認	MRL-IDM の「監視・アラート管理」内「HTTP 監視 URL 設定」で設定した監視時間と同じ時間（もしくは短い時間）を設定して下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

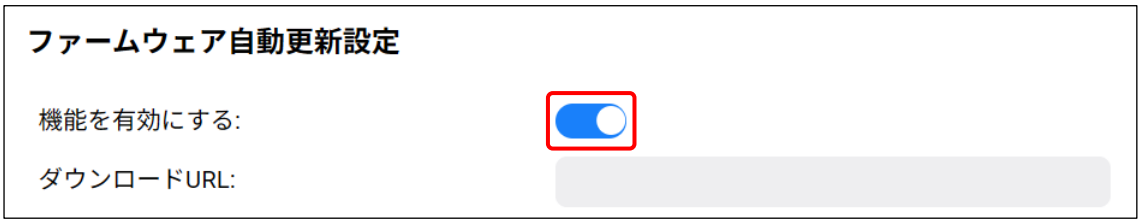
以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

13-3.ファームウェア更新

MRL-IDM からファームウェアをダウンロードし、自動更新できるように設定します。

①「IDM」から「ファームウェア更新」をクリックして下さい。

②ファームウェア自動更新設定の「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。

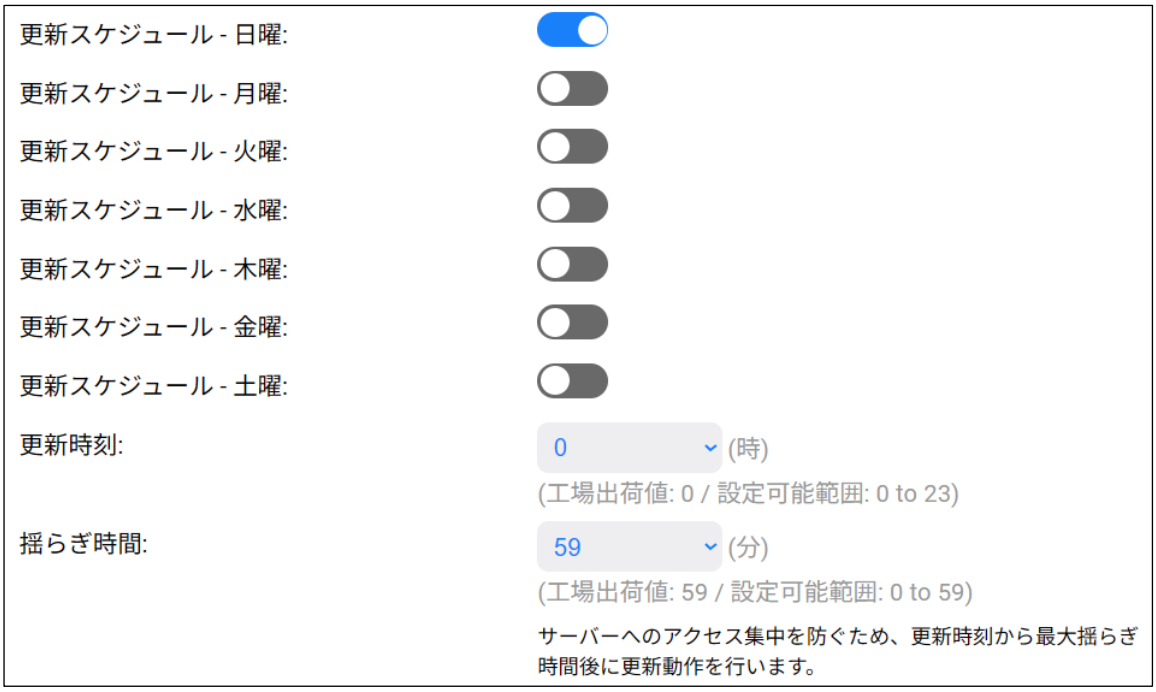


③「ダウンロード URL」に MRL-IDM の「ファームウェア更新」で発行した URL を入力（コピー・貼り付け）して下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

④ファームウェア更新確認を行う曜日と更新時刻、揺らぎ時間を設定して下さい。

設定したスケジュールでファームウェア更新確認を行い、MRL-IDM 上のファームウェアバージョンとデバイスのファームウェアバージョンが異なる場合ファームウェアバージョンアップが実行されます。



設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

13-4. リモート管理

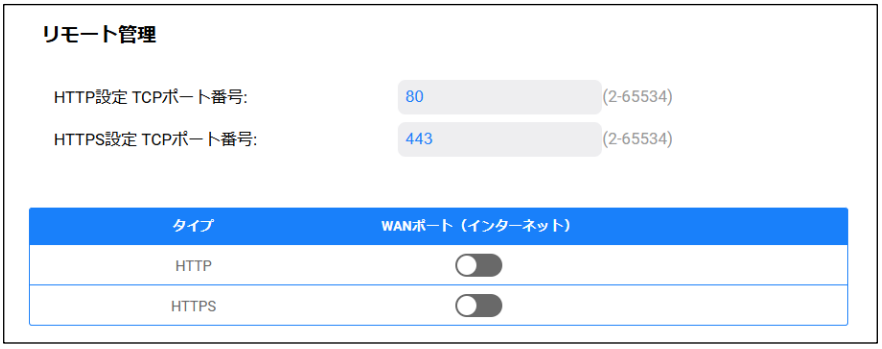
確 認	WAN ポートの動作モードを「**IPv4 Over IPv6**」に設定した場合、本機能は無効になります。

リモート管理機能は、MRL-IDM からリモートでデバイスの設定を変更する事が可能になる機能です。

WAN 側からの HTTP 設定へのアクセスを受け入れるよう「アクセス制御」の設定を行います。

①「管理」から「アクセス制御」をクリックして下さい。

②「アクセス制御」画面が表示され、「リモート管理」項目が表示されます。



■HTTP 設定 TCP ポート番号

HTTP で設定画面へのアクセスに使用する際のポート番号を設定します。

MRL-IDM 管理サーバーのデバイス管理に設定した WEB ポートと同じポート番号を設定して下さい。

■WAN ポート（インターネット）(HTTP)

有効にすると、WAN ポート側からの HTTP での設定画面へのアクセスが有効になります。有効に設定して下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

14.管理

NetGenesis の管理機能について説明します。

14-1.アカウント

①「管理」から「アカウント」をクリックして下さい。

②「アカウント」画面が表示され、「管理者パスワード」項目が表示されます。

■新しいパスワード

設定画面にアクセスするためのパスワードを入力して下さい。

■パスワード再入力

「新しいパスワード」で入力した内容を再入力して下さい。

確 認	スペースキーは使用できません。
	6～30 文字で設定して下さい。
	使用可能な文字は 0-9、a-z、A-Z、-、_ となります。
	文字と数字を組み合わせて設定して下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

確認	NetGenesis を使用するにあたり、パスワードを変更することを強く推奨します。 パスワードを変更することにより、安全に NetGenesis を使用することができます。

14-2.アクセス制御

14-2-1.ログインリトライ制限設定

①「管理」から「アクセス制御」をクリックして下さい。

②「アクセス制御」画面が表示され、「ログインリトライ制限設定」項目が表示されます。

■ログインリトライ許容回数

設定画面へのログインリトライを許容する回数を設定します。

工場出荷値は「3 回」です。

失敗した回数が本設定回数を超えると下記エラーメッセージが表示されます。

確 認	WWW ブラウザ側の動作（制限）により、本設定値が無視される場合があります。 （WWW ブラウザ側の規定回数でログインエラーメッセージが表示される場合があります。）

〈次ページへ進んで下さい〉

■**ログインエラーリセット時間**

ログインリトライ回数をリセットする時間を設定します。

工場出荷値は「3 分」です。

ログインリトライ回数がログインリトライ許容回数を超えた場合、

ここで設定した時間が経過するまで、パソコンから再ログインすることはできません。

例えば、ログインエラーリセット時間を「1」に設定した場合、1 分間 再ログインすることができなくなります。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

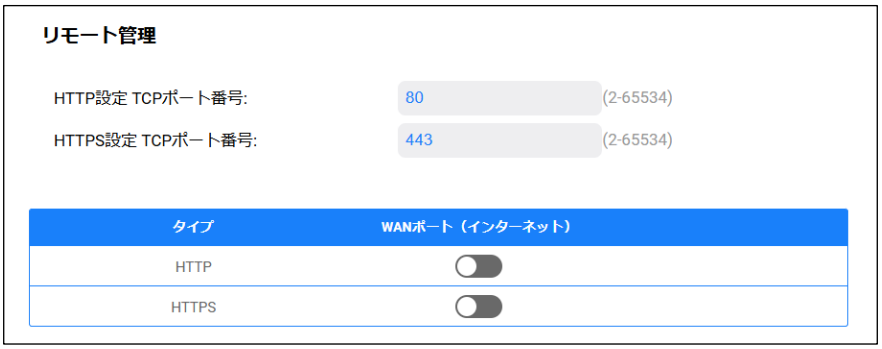
以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

確 認	設定保存後、設定内容の反映に 1～2 分時間を要するため、再ログイン時には注意して下さい。

14-2-2.リモート管理

①「管理」から「アクセス制御」をクリックして下さい。

②「アクセス制御」画面が表示され、「リモート管理」項目が表示されます。



■HTTP 設定 TCP ポート番号

HTTP で設定画面へのアクセスに使用する際のポート番号を設定します。

工場出荷値は「80」です。

■HTTPS 設定 TCP ポート番号

HTTPS で設定画面へのアクセスに使用する際のポート番号を設定します。

工場出荷値は「443」です。

確 認	TCP ポート番号を変更する場合は、「1025～65534」の範囲で設定することを推奨します。 ウェルノウンポート（1～1024）の範囲で設定すると、WWW ブラウザ側の動作（制限）で設定画面へログインできなくなる場合がありますので、ご注意下さい。

■WAN ポート（インターネット）（HTTP）

有効にすると、WAN ポート側からの HTTP での設定画面へのアクセスが有効になります。

■WAN ポート（インターネット）（HTTPS）

有効にすると、WAN ポート側からの HTTPS での設定画面へのアクセスが有効になります。

確 認	WAN ポートの動作モードを「IPv4 Over IPv6」に設定した場合、本機能は無効になります。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

確 認	リモート管理とポートフォワーディングを併用した場合、ポートフォワーディングが優先されます。

14-2-3.信頼 IP アドレス情報の登録

以下の手順で信頼 IP アドレス情報の登録を行って下さい。

①「管理」から「アクセス制御」をクリックして下さい。

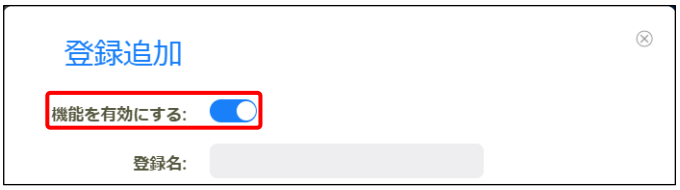
②「アクセス制御」画面が表示され、「リモート管理のための信頼ネットワーク」、「信頼 IP アドレス登録リスト」項目が表示されます。

No.	No.が表示されます。
機能を有効にする	登録情報の有効/無効が表示されます。
IP アドレス	登録した IP アドレスが表示されます。
インターフェース	登録したインターフェースが表示されます。
登録名	登録名が表示されます。
編集	意図する登録情報を編集することができます。
削除	意図する登録情報を削除することができます。

〈次ページへ進んで下さい〉

③[追加]ボタンをクリックして下さい。「登録追加」画面が表示されます。

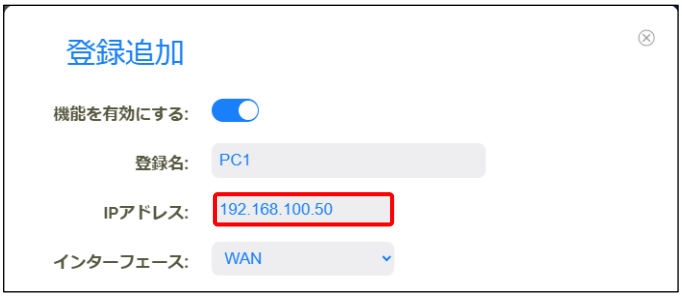
④登録する情報を有効にする場合は「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。一時的に無効な状態で登録したい場合は OFF にして下さい。下図は ON の状態を示します。



⑤「登録名」に登録情報を認識するための任意の名前を入力して下さい。

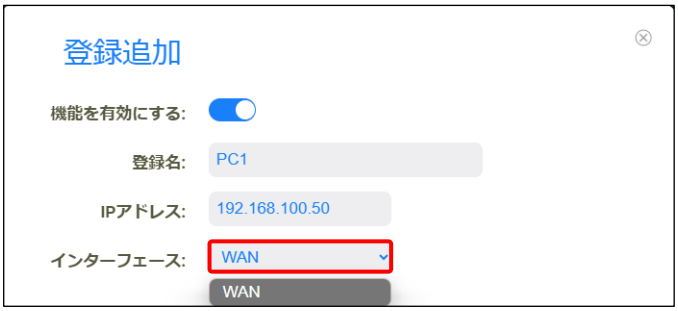
確 認	登録名は最大 32 文字(半角英数字)まで入力可能です。空欄は禁止となります。

⑥「IP アドレス」に NetGenesis への WAN 側信頼 IP アドレスを入力して下さい。



〈次ページへ進んで下さい〉

⑦対象とする「インターフェース」を選択して下さい。



WAN	WAN インターフェースを対象とします。

確 認	LAN インターフェースを対象としたい場合は、「11-3.IP フィルタリング」(74 ページ)で、フィルタ設定を行って下さい。

⑧[OK]ボタンをクリックして下さい。

⑨登録した設定を動作させるために「信頼 IP アドレス機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。下図は ON の状態を示します。

確 認	機能を有効にする前に、少なくとも 1 つの WAN 側信頼 IP アドレスを信頼 IP アドレス登録リストに登録しておく必要があります。

〈次ページへ進んで下さい〉

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

確 認	最大 32 エントリまで登録することができます。

14-2-4.信頼 IP アドレス情報の編集

以下の手順で信頼 IP アドレス情報の編集を行って下さい。

①意図する登録情報の編集アイコンをクリックして下さい。

②「信頼 IP が有効になりました。ルールを編集すると、信頼 IP 機能に影響します。」とメッセージが表示されるため、[OK]ボタンをクリックして下さい。

③「登録編集」画面が表示されます。本画面では各設定値を編集（変更）することが可能です。

編集した設定を適用せずキャンセルしたい場合は、右上の「⊗」をクリックして下さい。

④編集が終わりましたら、[OK]ボタンをクリックして下さい。

⑤[OK]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば編集完了です。

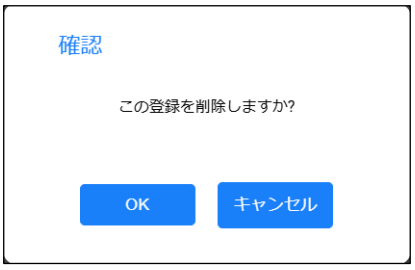
14-2-5.信頼 IP アドレス情報の削除

以下の手順で信頼 IP アドレス情報の削除を行って下さい。

①意図する登録情報の削除アイコンをクリックして下さい。

②「信頼 IP が有効になりました。ルールを編集すると、信頼 IP 機能に影響します。」とメッセージが表示されるため、[OK]ボタンをクリックして下さい。

③「確認」画面が表示されますので、削除する場合は[OK]ボタンを、キャンセルする場合は[キャンセル]ボタンをクリックして下さい。



④[OK]ボタンをクリックして下さい。

④ [OK]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば削除完了です。

14-3.ファームウェアバージョンアップ

確 認	WAN ポートを PPPoE で接続している場合、回線を手動で切断してからバージョンアップを実行して下さい。 WAN ポートの切断は「ダッシュボード」の「WAN ポートの情報」の「接続時間」にある [Disconnect]ボタンをクリックして下さい。

14-3-1.HTTP 経由で手動バージョンアップを実行する

①「管理」から「ファームウェアバージョンアップ」をクリックして下さい。

②「ファームウェアバージョンアップ」画面が表示され、「手動バージョンアップ」項目が表示されます。

■ファームウェア情報

NetGenesis の現在のファームウェアバージョン情報が表示されます。

■サーバー

「HTTP」を選択して下さい。

■ファイルを選択

NetGenesis のファームウェアファイルを選択して下さい。

■バージョンアップと同時に設定を工場出荷値に戻す

有効にすると、バージョンアップ時に設定を工場出荷値に戻します。

〈次ページへ進んで下さい〉

設定が終わりましたら、[バージョンアップ開始]ボタンをクリックして下さい。

バージョンアップ開始

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

確 認	バージョンアップを行うパソコンと NetGenesis が、1 対 1 で接続されている状態にして下さい。 （他のネットワーク端末機器は、いったん切り離して下さい。）
	バージョンアップを実行するパソコンでは、他のアプリケーションソフトやスクリーンセーバーを終了して、バージョンアップ中には動作しないようにして下さい。 アンチウィルスソフトウェアが常駐している場合、またはファイアウォール関係のソフトウェアが稼働している場合、一時的に終了させて下さい。
	パソコンの IP アドレスは、192.168.0.1 以外のアドレスに設定して下さい。 （バージョンアップ時、NetGenesis は一時的に 192.168.0.1 を使用します。）
	バージョンアップ実行中に、誤って NetGenesis やパソコンの電源を OFF にすると NetGenesis が全く動作しなくなりますので注意して下さい。

14-3-2.TFTP 経由で手動バージョンアップを実行する

①「管理」から「ファームウェアバージョンアップ」をクリックして下さい。

②「ファームウェアバージョンアップ」画面が表示され、「手動バージョンアップ」項目が表示されます。

■**ファームウェア情報**

NetGenesis の現在のファームウェアバージョン情報が表示されます。

■**サーバー**

「TFTP」を選択して下さい。

■**TFTP サーバーの IP アドレス**

TFTP サーバーの IP アドレスを入力して下さい。

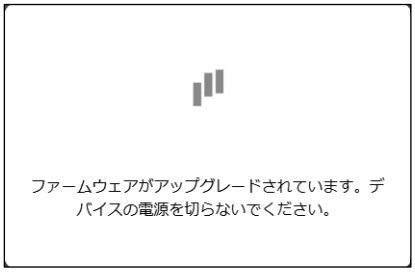
■**ファイルロケーション**

NetGenesis のファームウェアファイルの格納先の絶対パスを入力して下さい。

設定が終わりましたら、[バージョンアップ開始]ボタンをクリックして下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。



確 認	バージョンアップを行うパソコンと NetGenesis が、1 対 1 で接続されている状態にして下さい。 （他のネットワーク端末機器は、いったん切り離して下さい。）
	バージョンアップを実行するパソコンでは、他のアプリケーションソフトやスクリーンセーバーを終了して、バージョンアップ中には動作しないようにして下さい。 アンチウィルスソフトウェアが常駐している場合、またはファイアウォール関係のソフトウェアが稼働している場合、一時的に終了させて下さい。
	パソコンの IP アドレスは、192.168.0.1 以外のアドレスに設定して下さい。 （バージョンアップ時、NetGenesis は一時的に 192.168.0.1 を使用します。）
	バージョンアップ実行中に、誤って NetGenesis やパソコンの電源を OFF にすると NetGenesis が全く動作しなくなりますので注意して下さい。

14-3-3.FTP 経由で手動バージョンアップを実行する

①「管理」から「ファームウェアバージョンアップ」をクリックして下さい。

②「ファームウェアバージョンアップ」画面が表示され、「手動バージョンアップ」項目が表示されます。

■**ファームウェア情報**

NetGenesis の現在のファームウェアバージョン情報が表示されます。

■**サーバー**

「FTP」を選択して下さい。

■**FTP サーバーの IP アドレス**

FTP サーバーの IP アドレスを入力して下さい。

■**ユーザー名**

FTP サーバーのユーザー名を入力して下さい。

■**パスワード**

FTP サーバーのパスワードを入力して下さい。

■**ファイルロケーション**

NetGenesis のファームウェアファイルの格納先の絶対パスを入力して下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

設定が終わりましたら、[バージョンアップ開始]ボタンをクリックして下さい。

バージョンアップ開始

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

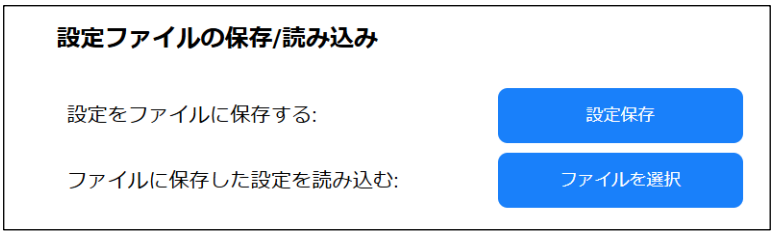
確 認	バージョンアップを行うパソコンと NetGenesis が、1 対 1 で接続されている状態にして下さい。 （他のネットワーク端末機器は、いったん切り離して下さい。）
	バージョンアップを実行するパソコンでは、他のアプリケーションソフトやスクリーンセーバーを終了して、バージョンアップ中には動作しないようにして下さい。 アンチウィルスソフトウェアが常駐している場合、またはファイアウォール関係のソフトウェアが稼働している場合、一時的に終了させて下さい。
	パソコンの IP アドレスは、192.168.0.1 以外のアドレスに設定して下さい。 （バージョンアップ時、NetGenesis は一時的に 192.168.0.1 を使用します。）
	バージョンアップ実行中に、誤って NetGenesis やパソコンの電源を OFF にすると NetGenesis が全く動作しなくなりますので注意して下さい。

14-4.設定保存・読み込み・初期化

14-4-1.設定ファイルの保存・読み込み

①「管理」から「設定保存・読み込み・初期化」をクリックして下さい。

②「設定保存・読み込み・初期化」画面が表示され、「設定ファイルの保存・読み込み」項目が表示されます。



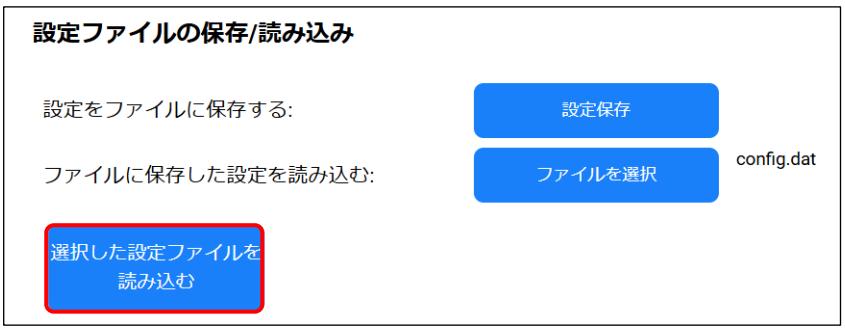
■設定をファイルに保存する

現在の設定をファイル(config.dat ファイル)に保存します。

■ファイルに保存した設定を読み込む

保存した設定ファイル(config.dat ファイル)を読み込みます。

③設定ファイルを読み込み、[選択した設定ファイルを読み込む]ボタンをクリックして下さい。



〈次のページへ進んで下さい〉

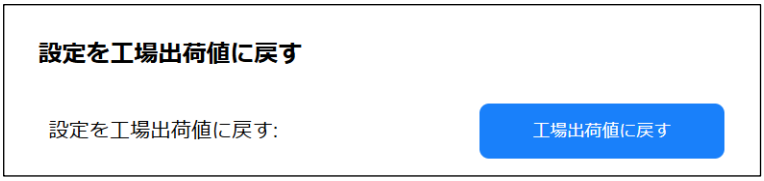
以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば読み込み完了です。

確 認	設定ファイルを読み込むと、管理者パスワードが工場出荷値に戻ります。 再ログイン後、再度、管理者パスワードの変更をお願いします。

14-4-2.設定を工場出荷値に戻す

①「管理」から「設定保存・読み込み・初期化」をクリックして下さい。

②「設定保存・読み込み・初期化」画面が表示され、「設定を工場出荷値に戻す」項目が表示されます。

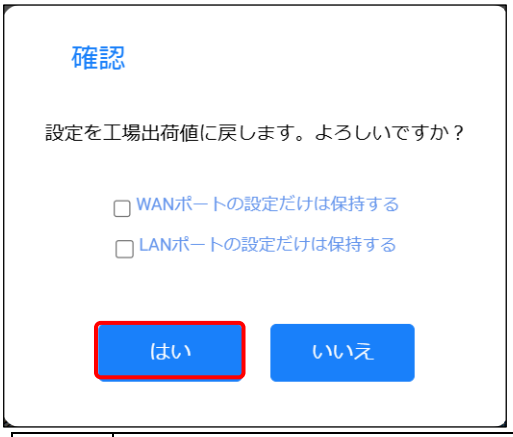


■**設定を工場出荷値に戻す**

現在の設定を工場出荷値に戻します。

③[工場出荷値に戻す]ボタンをクリックして下さい。

④確認のメッセージが表示されるため、[はい]ボタンをクリックして下さい。



確認	WAN ポートの設定を保持したい場合には、「WAN ポートの設定だけは保持する」のチェックボックスにチェックを入れて下さい。
	LAN ポートの設定を保持したい場合には、「LAN ポートの設定だけは保持する」のチェックボックスにチェックを入れて下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば初期化完了です。

14-5.システムログ

14-5-1.ログをファイルに保存

①「管理」から「システムログ」をクリックして下さい。

②「システムログ」画面が表示され、「ログをファイルに保存」項目が表示されます。

■システムログをファイルに保存する

現在までのシステムログをファイルに保存します。

③[ファイルに保存する]ボタンをクリックして下さい。

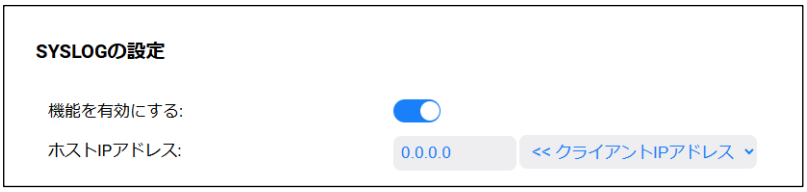
④「sysLog.txt」ファイルが保存されることを確認して下さい。

確認	システムログに表示される日時は、NetGenesis 内部の時刻情報です。 設定方法については、「14-6.システム時間」(159 ページ)をご確認下さい。

14-5-2.SYSLOG の設定

①「管理」から「システムログ」をクリックして下さい。

②「システムログ」画面が表示され、「SYSLOG の設定」項目が表示されます。



■**機能を有効にする**

有効にすると、SYSLOG 送信機能が有効になります。

■**ホスト IP アドレス**

SYSLOG を受信するパソコンの IP アドレスを入力して下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

確認	パソコンで SYSLOG を受信するためには、SYSLOG 受信・表示ソフトウェアが別途必要になります。

14-6.システム時間

14-6-1.指定された NTP サーバーを設定する

①「管理」から「システム時間」をクリックして下さい。

②「システム時間」画面が表示され、「NTP 設定」項目が表示されます。

■機能を有効にする

有効にすると、NTP クライアント機能と NTP サーバー機能が有効になります。

■NTP サーバー

指定された選択肢の中から、NTP サーバーを選択して下さい。

■セカンダリ NTP サーバーを設定する

有効にすると、セカンダリ NTP サーバーも設定できるようになります。

■セカンダリ NTP サーバー

指定された選択肢の中から、セカンダリ NTP サーバーの NTP サーバーを選択して下さい。

■タイムゾーン

日本の標準時間帯「Asia/Tokyo」が選択されていることを確認して下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

確 認	インターネット上の NTP サーバーを利用するため、インターネットに接続した状態で設定して下さい。

14-6-2.個別に NTP サーバーを設定する(ドメイン名)

①「管理」から「システム時間」をクリックして下さい。

②「システム時間」画面が表示され、「NTP 設定」項目が表示されます。

■**機能を有効にする**

有効にすると、NTP 機能が有効になります。

■**NTP サーバー**

「カスタマイズ」を選択して下さい。

■**NTP サーバーの指定方法**

「ドメイン名」を選択して下さい。

■**NTP サーバー名**

個別に設定したい NTP サーバーのドメイン名を入力して下さい。

■**セカンダリ NTP サーバーを設定する**

有効にすると、セカンダリ NTP サーバーも設定できるようになります。

■**セカンダリ NTP サーバー**

セカンダリ NTP サーバーを有効の上、「カスタマイズ」を選択して下さい。

■**セカンダリ NTP サーバーの指定方法**

セカンダリ NTP サーバーを有効の上、「ドメイン名」を選択して下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

■**セカンダリ NTP サーバー名**

個別に設定したい NTP サーバーのドメイン名を入力して下さい。

■**タイムゾーン**

日本の標準時間帯「Asia/Tokyo」が選択されていることを確認して下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

14-6-3.個別に NTP サーバーを設定する(IP アドレス)

①「管理」から「システム時間」をクリックして下さい。

②「システム時間」画面が表示され、「NTP 設定」項目が表示されます。

■**機能を有効にする**

有効にすると、NTP 機能が有効になります。

■**NTP サーバー**

「カスタマイズ」を選択して下さい。

■**NTP サーバーの指定方法**

「IPv4 アドレス」または「IPv6 アドレス」を選択して下さい。

■**NTP サーバーIP アドレス**

個別に設定したい NTP サーバーの IP アドレスを入力して下さい。

■**セカンダリ NTP サーバーを設定する**

有効にすると、セカンダリ NTP サーバーも設定できるようになります。

■**セカンダリ NTP サーバー**

セカンダリ NTP サーバーを有効の上、「カスタマイズ」を選択して下さい。

■**セカンダリ NTP サーバーの指定方法**

セカンダリ NTP サーバーを有効の上、「IPv4 アドレス」または「IPv6 アドレス」を選択して下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

■**セカンダリ NTP サーバーIP アドレス**

個別に設定したい NTP サーバーの IP アドレスを入力して下さい。

■**タイムゾーン**

日本の標準時間帯「Asia/Tokyo」が選択されていることを確認して下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば設定完了です。

14-7.診断

14-7-1.Ping テスト(ドメイン名)

①「管理」から「診断」をクリックして下さい。

②「診断」画面が表示されます。

■診断ツール

「Ping テスト」を選択して下さい。

■プロトコル

「IPv4 ドメイン名」または「IPv6 ドメイン名」を選択して下さい。

■宛先ドメイン名

通信先のドメイン名を入力して下さい。

■Ping サイズ

Ping サイズを入力して下さい。

工場出荷値は「64 バイト」です。

〈次のページへ進んで下さい〉

■**Ping 送信間隔**

Ping の送信間隔を入力して下さい。

工場出荷値は「1000 ミリ秒」です。

■**送信継続時間**

Ping の送信継続間隔時間を入力して下さい。

工場出荷値は「1 分」です。

設定が終わりましたら、[送信開始]ボタンをクリックして下さい。

結果に疎通確認結果が表示されます。

結果:

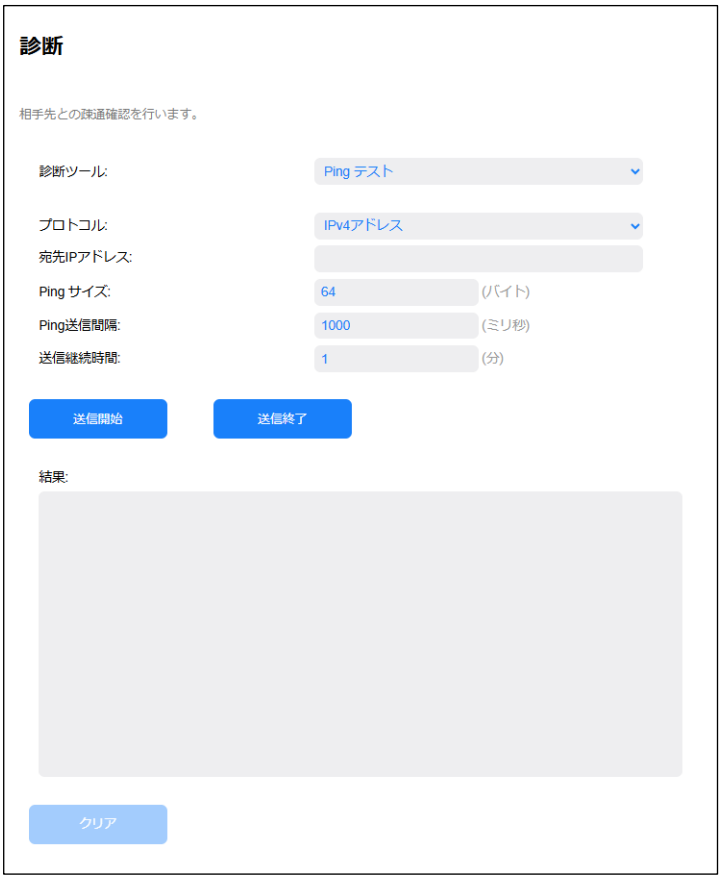
```
PING localhost (127.0.0.1): 64 data bytes
72 bytes from 127.0.0.1: seq=0 ttl=64 time=0.269 ms
72 bytes from 127.0.0.1: seq=1 ttl=64 time=0.257 ms
72 bytes from 127.0.0.1: seq=2 ttl=64 time=0.409 ms
72 bytes from 127.0.0.1: seq=3 ttl=64 time=0.365 ms
72 bytes from 127.0.0.1: seq=4 ttl=64 time=0.260 ms
72 bytes from 127.0.0.1: seq=5 ttl=64 time=0.372 ms
72 bytes from 127.0.0.1: seq=6 ttl=64 time=0.205 ms
72 bytes from 127.0.0.1: seq=7 ttl=64 time=0.202 ms
72 bytes from 127.0.0.1: seq=8 ttl=64 time=0.212 ms
72 bytes from 127.0.0.1: seq=9 ttl=64 time=0.258 ms
72 bytes from 127.0.0.1: seq=10 ttl=64 time=0.203 ms
72 bytes from 127.0.0.1: seq=11 ttl=64 time=0.371 ms
72 bytes from 127.0.0.1: seq=12 ttl=64 time=0.203 ms
```

確認	Ping 送信を止めたい場合、[送信終了]ボタンをクリックして下さい。
	結果をクリアしたい場合、Ping 送信中に[クリア]ボタンをクリックして下さい。

14-7-2.Ping テスト(IP アドレス)

①「管理」から「診断」をクリックして下さい。

②「診断」画面が表示されます。



■**診断ツール**

「Ping テスト」を選択して下さい。

■**プロトコル**

「IPv4 アドレス」または「IPv6 アドレス」を選択して下さい。

■**宛先 IP アドレス**

通信先の IP アドレスを入力して下さい。

■**Ping サイズ**

Ping サイズを入力して下さい。

工場出荷値は「64 バイト」です。

〈次のページへ進んで下さい〉

■**Ping 送信間隔**

Ping の送信間隔を入力して下さい。

工場出荷値は「1000 ミリ秒」です。

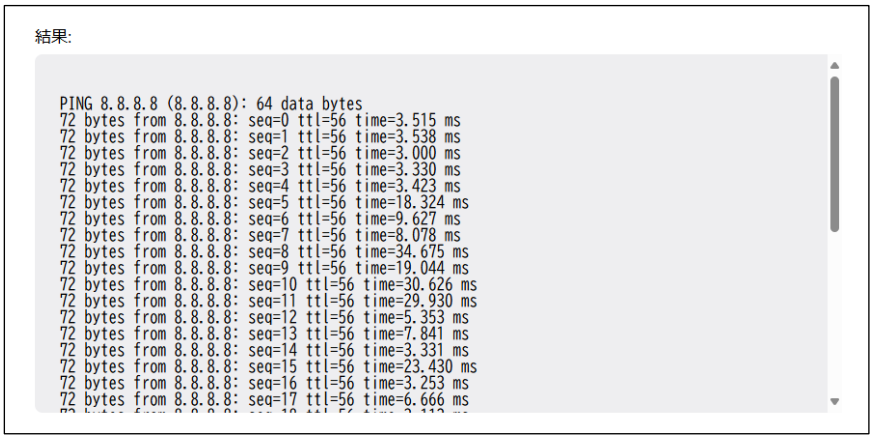
■**送信継続時間**

Ping の送信継続間隔時間を入力して下さい。

工場出荷値は「1 分」です。

設定が終わりましたら、[送信開始]ボタンをクリックして下さい。

結果に疎通確認結果が表示されます。



確 認	Ping 送信を止めたい場合、[送信終了]ボタンをクリックして下さい。
	結果をクリアしたい場合、Ping 送信中に[クリア]ボタンをクリックして下さい。

14-7-3.トレースルート（ドメイン名）

①「管理」から「診断」をクリックして下さい。

②「診断」画面が表示されます。

■**診断ツール**

「トレースルート」を選択して下さい。

■**プロトコル**

「IPv4 ドメイン名」または「IPv6 ドメイン名」を選択して下さい。

■**宛先ドメイン名**

通信先のドメイン名を入力して下さい。

■**トレースルート最大 TTL 値**

トレースルートの最大 TTL 値を入力して下さい。

工場出荷値は「20 ホップ」です。

〈次のページへ進んで下さい〉

設定が終わりましたら、[送信開始]ボタンをクリックして下さい。

送信開始

結果に疎通確認結果が表示されます。

結果:

```
traceroute to localhost (127.0.0.1), 20 hops max, 38 byte packets
 1  localhost.mrlrouter3839 (127.0.0.1)  0.027 ms  0.027 ms  0.028 ms
```

確認	トレースルートを止めたい場合、[送信終了]ボタンをクリックして下さい。
	結果をクリアしたい場合、トレースルート中に[クリア]ボタンをクリックして下さい。

14-7-4.トレースルート（IP アドレス）

①「管理」から「診断」をクリックして下さい。

②「診断」画面が表示されます。

■**診断ツール**

「トレースルート」を選択して下さい。

■**プロトコル**

「IPv4 アドレス」または「IPv6 アドレス」を選択して下さい。

■**宛先 IP アドレス**

通信先のドメイン名を入力して下さい。

■**トレースルート最大 TTL 値**

トレースルートの最大 TTL 値を入力して下さい。

工場出荷値は「20 ホップ」です。

〈次のページへ進んで下さい〉

設定が終わりましたら、[送信開始]ボタンをクリックして下さい。

送信開始

結果に疎通確認結果が表示されます。

結果:

```
traceroute to 8.8.8.8 (8.8.8.8), 20 hops max, 38 byte packets
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
```

確 認	トレースルートを止めたい場合、[送信終了]ボタンをクリックして下さい。
	結果をクリアしたい場合、トレースルート中に[クリア]ボタンをクリックして下さい。

14-8.再起動

①「管理」から「再起動」をクリックして下さい。

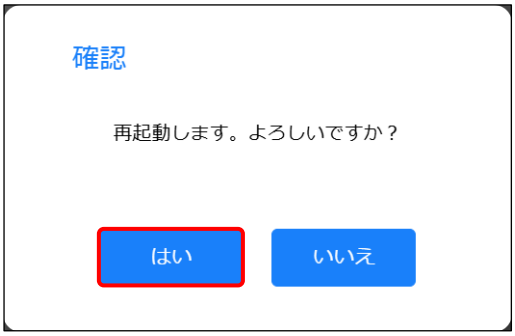
②「再起動」画面が表示されます。

■再起動します　再起動(ボタン)

NetGenesis を再起動します。

③[再起動]ボタンをクリックして下さい。

④確認のメッセージが表示されるため、[はい]ボタンをクリックして下さい。



〈次のページへ進んで下さい〉

以下のメッセージが表示されます。メッセージが消えれば再起動完了です。

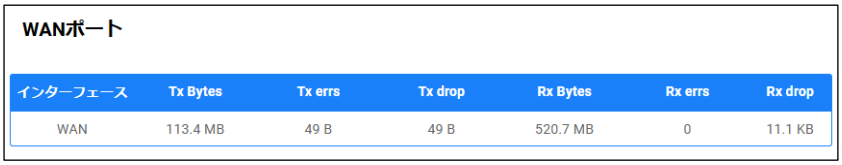
15.統計情報

統計情報について説明します。

15-1.インターフェース統計情報

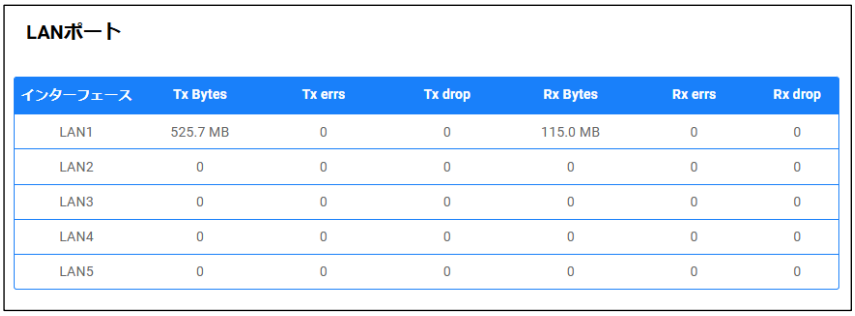
①「統計情報」から「インターフェース統計情報」をクリックして下さい。

②「インターフェース統計情報」画面が表示され、各インターフェースを介した送受信のデータ統計情報が表示されます。



WANポート

インターフェース	Tx Bytes	Tx errs	Tx drop	Rx Bytes	Rx errs	Rx drop
WAN	113.4 MB	49 B	49 B	520.7 MB	0	11.1 KB



LANポート

インターフェース	Tx Bytes	Tx errs	Tx drop	Rx Bytes	Rx errs	Rx drop
LAN1	525.7 MB	0	0	115.0 MB	0	0
LAN2	0	0	0	0	0	0
LAN3	0	0	0	0	0	0
LAN4	0	0	0	0	0	0
LAN5	0	0	0	0	0	0

インターフェース	対象のインターフェースが表示されます。
Tx Bytes	ポートで送信したバイト数が表示されます。
Tx errs	パケット送信中のポートでのエラー数が表示されます。
Tx drop	ポート(Tx)でパケットがドロップされる割合が表示されます。
Rx Bytes	ポートで受信したバイト数が表示されます。
Rx errs	パケット受信中のポートでのエラー数が表示されます。
Rx drop	ポート(Rx)でパケットがドロップされる割合が表示されます。

〈次のページへ進んで下さい〉

最新の情報に更新したい場合には、[最新の情報に更新]ボタンをクリックして下さい。

最新の情報に更新

15-2.IP アドレス統計情報

②「統計情報」から「IP アドレス統計情報」をクリックして下さい。

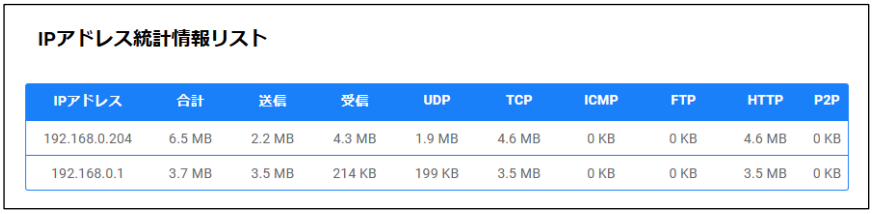
②「IP アドレス統計情報」画面が表示されるので、「IP アドレス統計機能の設定」の「機能を有効にする」のスイッチを ON にして下さい。

〈次のページへ進んで下さい〉

③[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

④以下のメッセージが表示されます。

⑤「IP アドレス統計情報リスト」のリストの情報が表示されていることを確認して下さい。



IPアドレス統計情報リスト

IPアドレス	合計	送信	受信	UDP	TCP	ICMP	FTP	HTTP	P2P
192.168.0.204	6.5 MB	2.2 MB	4.3 MB	1.9 MB	4.6 MB	0 KB	0 KB	4.6 MB	0 KB
192.168.0.1	3.7 MB	3.5 MB	214 KB	199 KB	3.5 MB	0 KB	0 KB	3.5 MB	0 KB

IP アドレス	対象の IP アドレスが表示されます。
合計	送受信されるデータ量の総量が表示されます。
送信	送信されたデータ量が表示されます。
受信	受信されたデータ量が表示されます。
UDP	UDP によるデータ量が表示されます。
TCP	TCP によるデータ量が表示されます。
ICMP	ICMP によるデータ量が表示されます。
FTP	FTP によるデータ量が表示されます。
HTTP	HTTP によるデータ量が表示されます。
P2P	P2P によるデータ量が表示されます。

確認	設定保存後、IP アドレス統計情報リストへの情報反映に時間を要するため、注意して下さい。 また、情報を更新したい場合には、[最新の情報に更新]ボタンをクリックして下さい。

Q&A 集

設定前の Q&A

Q. IPv6 サービスを利用したい。

A. WAN ポートの動作モードを「IPv4 over IPv6」に設定して下さい。

NetGenesis が工場出荷値状態の場合、WAN ポートに IPv4 over IPv6 対応の回線を繋いで電源を ON すると、自動的に接続を行います。

IPv4 over IPv6 接続の設定については

「6.IPv4 Over IPv6 で接続する（DS-Lite、MAP-E 等）」（36 ページ）を参照して下さい。

設定時の Q&A

Q. NetGenesis の設定画面へログインできない。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

NetGenesis 前面の LAN1～LAN5 ランプは点灯していますか？
パソコンのネットワークアダプタと NetGenesis が LAN ケーブルで正しく接続されているか確認して下さい。
なお、LAN ケーブルを NetGenesis 及びネットワークアダプタに差し込む際、「カチッ」と音がするまでしっかりと差し込んで下さい。

NetGenesis に付属の電源アダプターを接続していますか？
NetGenesis の電源は ON になっていますか？
他製品の電源アダプターを接続した場合、NetGenesis は正しく動作しません。
必ず NetGenesis に付属の電源アダプターを接続して下さい。

パソコンのネットワークアダプタは正常に動作していますか？
パソコンのネットワークアダプタが正常に動作していることを確認して下さい。

パソコンにネットワークアダプタが複数セットアップされていませんか？
パソコンにネットワークアダプタ（無線 LAN も含む）が複数セットアップされている場合は、NetGenesis に接続していないネットワークアダプタを一時的に無効（未使用）にして下さい。

NetGenesis の DHCP サーバーを使用する（工場出荷値）場合、IP アドレスが正しく取得されていますか？
パソコン側で NetGenesis から IP アドレスが正しく取得できているか確認して下さい。
<NetGenesis の DHCP サーバー設定が工場出荷値の場合>
IP アドレス：192.168.0.2～192.168.0.254 のいずれか
サブネットマスク：255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ：192.168.0.1
プライマリ DNS：192.168.0.1

WWW ブラウザが「プロキシサーバーを使用する」設定になっていませんか？
NetGenesis の設定を行う際は、WWW ブラウザを「プロキシサーバーを使用しない」設定にする必要があります。

ファイアウォール・セキュリティ対策ソフトウェア等が起動・常駐していませんか？
NetGenesis の設定を行うパソコンにファイアウォール・セキュリティ対策ソフトウェアが起動・常駐している場合、NetGenesis の設定を始める前に一時的に「無効」にして下さい。

WWW ブラウザのキャッシュを削除してみて下さい。
WWW ブラウザのキャッシュを削除する方法については、各 WWW ブラウザのマニュアルやヘルプを参照して下さい。

Q. WAN（PPPoE）ポート側から設定を行うには？

A. 「管理」の中の「アクセス制御」から、「リモート管理」を設定して下さい。

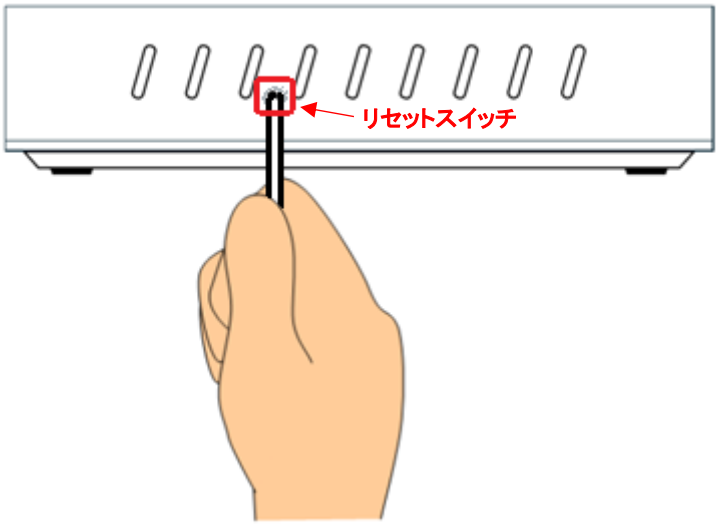
「14-2-2.リモート管理」（139 ページ）を参照して下さい。

Q. NetGenesis に設定した管理者 ID とパスワードを忘れたため、設定変更ができなくなった。

A. 以下の手順で設定を初期化して下さい。

1. 電源を投入し、「POWER」と「STATUS」ランプがグリーンで点灯している事を確認して下さい。
2. 本体側面の穴に細い棒等を差し込んで中のリセットスイッチを 20 秒以上押し続けて下さい。
3. 「POWER」以外の LED が全て消灯して、再度点灯したらリセットボタンを離して下さい。
4. 「POWER」と「STATUS」ランプがグリーンで点灯すれば初期化完了です。

以上で NetGenesis の設定は工場出荷値に戻ります。



Q. サーバー公開（ポート開放）をしたい。

A. 「ポートフォワーディング設定」または「DMZ ホスト機能の設定」が必要な場合があります。

（NetGenesis の IP アドレス変換機能を使用してインターネットへ接続する場合）

初期状態（ポートフォワーディング未設定、及び DMZ ホスト機能が無効）の場合、NetGenesis の IP マスカレード（IP アドレス変換機能）によって、インターネット側（WAN 側）から開始された通信は破棄されます。

「ポートフォワーディング設定」または「DMZ ホスト設定」を行うことにより、インターネット側（WAN 側）から開始される通信を、NetGenesis の LAN 側へ通すことが可能です。

■ポートフォワーディング機能（静的 IP マスカレード機能）

インターネット側から発信された IP フレームを、プロトコルやポート番号に応じて LAN 内の特定の IP アドレスへ転送する機能です。

「11-2.ポートフォワーディング」（63 ページ）を参照して下さい。

■DMZ ホスト機能

インターネット側から発信された全ての IP フレームを、LAN 内の特定の IP アドレスへ転送する機能です。

「11-7.DMZ ホスト」（93 ページ）を参照して下さい。

WAN ポート使用時の Q&A

Q. インターネットへ接続できない。～ DHCP クライアント接続時 ～

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■プロバイダから IP アドレス等が正しく取得できているか、確認して下さい。

「ダッシュボード」画面で確認することができます。

4-2.IPv4 ネットワーク情報 （13 ページ）

・IP アドレス等が正しく取得できている場合

パソコンの TCP/IP 設定（デフォルトゲートウェイや DNS サーバーアドレス等）や、使用するソフトウェアの設定が正しいか確認して下さい。

・IP アドレス等が正しく取得できていない場合

以降の各項目を確認して下さい。

■NetGenesis の WAN ポートと回線終端装置の接続を確認して下さい。

WAN ポートと回線終端装置が正しく接続され、NetGenesis 前面の WAN ランプが点灯しているか確認して下さい。

（WAN ランプが点灯していない場合、正しく接続できていません。）

■ケーブルモデムを使用している場合、MAC アドレス（物理アドレス）の消去をお試し下さい。

ケーブルモデムの中には、接続されているネットワーク機器の MAC アドレス（物理アドレス）を記憶する機種があります。

この場合、ケーブルモデムの電源を落として 30 分程度放置し、MAC アドレスの消去を行なって下さい。

「1-2.設定を行う前に確認する事」（3 ページ）を参照して下さい。

■回線側で障害が発生していませんか？

回線終端装置とパソコンを直結して（NetGenesis を介さない状態にして）インターネットへ接続できるか確認して下さい。

接続できない場合は回線事業者やプロバイダへお問い合わせ下さい。

Q. インターネットへ接続できない。～ IP アドレス固定接続時 ～

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■「WAN ポート設定」の「IP アドレス固定設定」に設定した、IP アドレスやデフォルトゲートウェイに誤りが無いか確認して下さい。

「8.IP アドレス固定で接続する（CATV や社内 LAN 等）」（40 ページ）を参照して下さい。

■NetGenesis の WAN ポートと回線終端装置の接続を確認して下さい。

WAN ポートと回線終端装置が正しく接続され、NetGenesis 前面の WAN ランプが点灯しているか確認して下さい。

（WAN ランプが点灯していない場合、正しく接続できていません。）

■ケーブルモデムを使用している場合、MAC アドレス（物理アドレス）の消去をお試し下さい。

ケーブルモデムの中には、接続されているネットワーク機器の MAC アドレス（物理アドレス）を記憶する機種があります。

この場合、ケーブルモデムの電源を落として 30 分程度放置し、MAC アドレスの消去を行なって下さい。

「1-2.設定を行う前に確認する事」（3 ページ）を参照して下さい。

■回線側で障害が発生していませんか？

回線終端装置とパソコンを直結して（NetGenesis を介さない状態にして）インターネットへ接続できるか確認して下さい。

接続できない場合は回線事業者やプロバイダへお問い合わせ下さい。

Q. インターネットへ接続できない。～ PPPoE クライアント（NTT フレッツシリーズ等）接続時 ～

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■プロバイダから IP アドレス等が正しく取得できているか、確認して下さい。

「ダッシュボード」画面で確認することができます。

4-2.IPv4 ネットワーク情報 （13 ページ）

・IP アドレス等が正しく取得できている場合

パソコンの TCP/IP 設定（デフォルトゲートウェイや DNS サーバーアドレス等）や、使用するソフトウェアの設定が正しいか確認して下さい。

・IP アドレス等が正しく取得できていない場合

以降の各項目を確認して下さい。

■設定した「ユーザー名」や「パスワード」に誤りがないか確認して下さい。

設定した PPPoE クライアントの動作モードに応じて、接続情報（アカウント）の設定を確認して下さい。

5-1.PPPoE クライアント接続 IP アドレス自動取得（19 ページ）
5-2.PPPoE クライアント接続 IP アドレス固定（22 ページ）
5-3.PPPoE クライアント接続 アンナンバード接続（25 ページ）
5-4.PPPoE クライアント接続 マルチセッション接続（29 ページ）

■回線終端装置と NetGenesis の接続を確認して下さい。

WAN ポートと回線終端装置が正しく接続され、NetGenesis 前面の WAN ランプが点灯しているか確認して下さい。
（WAN ランプが点灯していない場合、正しく接続できていません。）

■回線終端装置、または NetGenesis の電源を OFF/ON した場合、一定時間再接続できない場合があります。

回線終端装置にルーター機能がある場合、回線終端装置のルーター機能を無効にする、もしくは PPPoE ブリッジ機能を有効にして下さい。回線終端装置の設定については、回線事業者にお問い合わせ下さい。

■回線側で障害が発生していませんか？

回線終端装置とパソコンを直結して（NetGenesis を介さない状態にして）インターネットへ接続できるか確認して下さい。
接続できない場合は回線事業者やプロバイダへお問い合わせ下さい。

Q. サーバーへ接続できない。～ L2TP 接続時 ～

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■サーバーから IP アドレス等が正しく取得できているか、確認して下さい。

「ダッシュボード」画面で確認することができます。

4-2.IPv4 ネットワーク情報 （13 ページ）

・IP アドレス等が正しく取得できている場合

パソコンの TCP/IP 設定（デフォルトゲートウェイや DNS サーバーアドレス等）や、使用するソフトウェアの設定が正しいか確認して下さい。

・IP アドレス等が正しく取得できていない場合

以降の各項目を確認して下さい。

■設定した「ユーザー名」や「パスワード」に誤りがないか確認して下さい。

9-1.L2TP 接続（42 ページ）

Q. サーバーへ接続できない。～ PPTP 接続時 ～

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■サーバーから IP アドレス等が正しく取得できているか、確認して下さい。

「ダッシュボード」画面で確認することができます。

4-2.IPv4 ネットワーク情報 （13 ページ）

・IP アドレス等が正しく取得できている場合

パソコンの TCP/IP 設定（デフォルトゲートウェイや DNS サーバーアドレス等）や、使用するソフトウェアの設定が正しいか確認して下さい。

・IP アドレス等が正しく取得できていない場合

以降の各項目を確認して下さい。

■設定した「PPP 認証」の方式、「ユーザー名」や「パスワード」に誤りがないか確認して下さい。

9-2.PPTP 接続（46 ページ）

Q. インターネットへ接続できない。～ IPv4 over IPv6 接続時 ～

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■プロバイダから IP アドレス等が正しく取得できているか、確認して下さい。

「ダッシュボード」画面で確認することができます。

4-2.IPv4 ネットワーク情報 （13 ページ）

・IP アドレス等が正しく取得できている場合

パソコンの TCP/IP 設定（デフォルトゲートウェイや DNS サーバーアドレス等）や、使用するソフトウェアの設定が正しいか確認して下さい。

・IP アドレス等が正しく取得できていない場合

以降の各項目を確認して下さい。

■設定した「IPv4 Over IPv6 接続方式」が「Auto」の場合、実際の通信方式に合わせた設定を行って下さい。

「Auto」に設定した場合、接続完了までに時間がかかることがあります。しばらく待っても接続出来ないようならば実際の通信方式に合わせて設定を変更して下さい。

Transix Service (DS-Lite)	インターネットマルチフィード株式会社が提供する「transix」（DS-Lite 方式）で IPv4 over IPv6 通信を行います。
v6Plus (MAP-E)	株式会社 JPIX が提供する「v6 プラス」（MAP-E 方式）で IPv4 over IPv6 通信を行います。
IPv6Option (MAP-E)	ビッグローブ株式会社が提供する「IPv6 オプション」（MAP-E 方式）で IPv4 over IPv6 通信を行います。

詳しくは「6.IPv4 Over IPv6 で接続する（DS-Lite、MAP-E 等）（36 ページ）を参照して下さい。

■再起動して下さい。

電源を OFF/ON する、または設定画面の「管理」から「再起動」を実行して下さい。

設定後の Q&A

Q. NetGenesis の LAN ポート IP アドレスを変更した後、NetGenesis の設定画面へログオンできなくなった。

A. NetGenesis の LAN ポート IP アドレスを別ネットワークへ変更して設定を更新・再起動した場合、再起動後に NetGenesis の設定画面へログオンできなくなる場合があります。

これは、パソコンの IP アドレスと NetGenesis の LAN ポート IP アドレスが別ネットワークとなったためです。
NetGenesis に接続したパソコンの IP アドレスを、変更した NetGenesis の LAN ポート IP アドレスと同一ネットワークに設定することにより、再度 NetGenesis の設定画面へログオンできるようになります。

Q. NetGenesis（または回線終端装置）の電源を入れ直したところ、インターネットへ接続できなくなった。

A. PPPoE クライアント機能使用時に回線終端装置、または NetGenesis の電源を OFF にした場合、PPPoE の切断処理が正しく行われないため、一定時間再接続ができなくなることがあります。

再接続が可能になるまで、一定時間（10 分程度）お待ち下さい。
※再接続可能になるまでの時間は、回線事業者により異なります。詳しくは回線事業者にお問い合わせ下さい。

Q. NetGenesis のバージョンアップを行ったところ、インターネットへ接続できなくなった。

A. 回線を手動切断せずにバージョンアップを行った場合、一定時間再接続ができなくなることがあります。

再接続が可能になるまで、一定時間（10 分程度）お待ち下さい。
※再接続可能になるまでの時間は、回線事業者により異なります。詳しくは回線事業者にお問い合わせ下さい。

Q. 一部のホームページが表示されない、一部の通信が出来ない～ PPPoE クライアント使用時 ～

A. 「PPPoE クライアント設定」画面の中の、「MTU の設定」（MTU 値）を変更していませんか？

「MTU の設定」（MTU 値）を変更した場合、このような現象が発生します。
この場合は、「MTU の設定」を工場出荷値にして下さい。
設定した PPPoE クライアントの動作モードに応じて、「MTU の設定」を確認して下さい。

5-1.PPPoE クライアント接続 IP アドレス自動取得（19 ページ）
5-2.PPPoE クライアント接続 IP アドレス固定（22 ページ）
5-3.PPPoE クライアント接続 アンナンバード接続（25 ページ）
5-4.PPPoE クライアント接続 マルチセッション接続（29 ページ）

Q. インターネットに接続できるが、速度が遅い。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■回線自体の速度が低下していないか確認して下さい。

回線終端装置とパソコンを直結して（NetGenesis を介さない状態にして）速度を確認して下さい。
NetGenesis を介さない状態でも速度が遅い場合は回線事業者やプロバイダへお問い合わせ下さい。

■回線終端装置のリンク速度（接続）設定を変更していませんか？

回線終端装置にリンク速度の切り替えスイッチが付いている場合、Auto モード（オートネゴシエーション有効）に設定して下さい。詳しくは回線終端装置のマニュアルを参照して下さい。

■パソコンのネットワークアダプタの速度（接続）設定を変更していませんか？

ネットワークアダプタの速度（接続）設定を変更している場合、Auto モード（オートネゴシエーション有効）に戻して下さい。
詳しくはネットワークアダプタのマニュアルを参照して下さい。

■ファイアウォール/セキュリティ対策ソフトウェア等が起動・常駐していませんか？

インターネット通信を常時監視するソフトウェアが起動・常駐している場合、いったん停止（終了）した後、再度確認して下さい。詳しくはソフトウェアのマニュアルを参照して下さい。

Q. LAN 内の DNS サーバーが通信できない。

A. WAN ポート設定の「静的 DNS サーバーを指定する」欄に、LAN 内の DNS サーバーの IP アドレスを設定して下さい。

ProxyDNS を使用する場合は、WAN ポート設定画面内の「静的 DNS サーバーを指定する」欄に、LAN 側の DNS サーバーの IP アドレスを設定して下さい。設定は以下を参照して下さい。

5-1.PPPoE クライアント接続 IP アドレス自動取得（19 ページ）
5-2.PPPoE クライアント接続 IP アドレス固定（22 ページ）
5-3.PPPoE クライアント接続 アンナンバード接続（25 ページ）
5-4.PPPoE クライアント接続 マルチセッション接続（29 ページ）
7.DHCP クライアントで接続する（CATV や社内 LAN 等）（38 ページ）

Q. EasyDNS 機能が動作しない。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■「機能を有効にする」が ON に設定されていますか？

機能の設定と登録したエントリの両方が ON に設定されていないと、EasyDNS 機能は動作しません。

「11-9.EasyDNS （98 ページ）」を参照して下さい。

■パソコンの TCP/IP 設定で、DNS サーバーIP アドレスに NetGenesis の LAN ポート IP アドレスを設定していますか？

EasyDNS 機能を使用するには、NetGenesis の ProxyDNS 機能を使用している状態（※）である必要があります。

※パソコンの DNS サーバーIP アドレスに NetGenesis の LAN ポート IP アドレスが設定されている状態

■Windows パソコンを利用している場合、EasyDNS 設定で登録したホスト名に「.」（ドット）が含まれていますか？

Windows パソコンでは、「.」を含まないホスト（ドメイン）名に対するアクセスの場合、名前解決（DNS 問い合わせ）が発生しません。

この場合、以下のどちらかの方法で問題を解決して下さい。

解決方法 1） Windows パソコンからは「ホスト名」+「.」（ドット）で名前解決を行う。

例えば EasyDNS 設定のホスト名に「PC1」と登録した場合、Windows パソコンからは「PC1.」と末尾に「.」（ドット）を付加して名前解決を行う。

解決方法 2） EasyDNS 設定で登録するホスト名は「.」が含まれる形にする。

例えば「WWW.PC1」のようにホスト名に「.」が含まれる形で登録する。

Q. NetGenesis がプロバイダから自動取得した IP アドレスを知りたい。

A. NetGenesis 設定画面のダッシュボードを確認して下さい。

4.ダッシュボード（12 ページ）

Q. セキュリティ設定でログオンリトライ許容回数を設定しても設定値が反映されない。

A. WWW ブラウザ側の動作（制限）により、本設定値が無視される場合がありますのでご注意下さい。

WWW ブラウザ側の動作（制限）により、規定回数でログオンエラー画面が表示される場合があります。

例えば Internet Explorer の場合、必ずリトライ 3 回目でログオンエラーとなります。

Q. ダイナミック DNS でサーバーへの登録が行われない。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■「機能を有効にする」が ON に設定されていますか？

機能の設定と登録したエントリの両方が ON に設定されていないと、ダイナミック DNS 機能は動作しません。

「12-2.ダイナミック DNS （109 ページ）」を参照して下さい。

■NetGenesis に登録した接続情報は正しいですか？

DDNS プロバイダへの接続情報を確認して下さい。また、「ドメイン名」と「ホスト名」は同じものを設定して下さい。

「12-2.ダイナミック DNS （109 ページ）」を参照して下さい。

■WAN ポートが取得した（または WAN ポートに設定した）IP アドレスがプライベート IP アドレスの場合、DDNS サーバーへの登録は行いません。

セキュリティの観点から、プライベート IP アドレスは DDNS サーバーへ登録しません。
これは DDNS プロバイダの仕様に関わらず適用されます。

■1 つの DDNS プロバイダに対し、DDNS クライアントとしての動作が可能なのは 1 つのアカウントとなります。

例えば、No-IP の DDNS サーバーに登録した 3 つのホスト名が存在する場合でも、NetGenesis へ登録して DDNS クライアントとして動作させられるのは 1 つのホスト名になります。NetGenesis へ 3 つ登録しても動作するのは 1 つのホスト名に対してとなります。但し、NetGenesis へ IPv4 と IPv6 で 1 つずつ登録した場合は両者共に動作可能です。

その他の Q&A

Q.NetGenesis のファームウェアバージョンや MAC アドレスを知りたい

A. NetGenesis 設定画面のダッシュボードを確認して下さい。

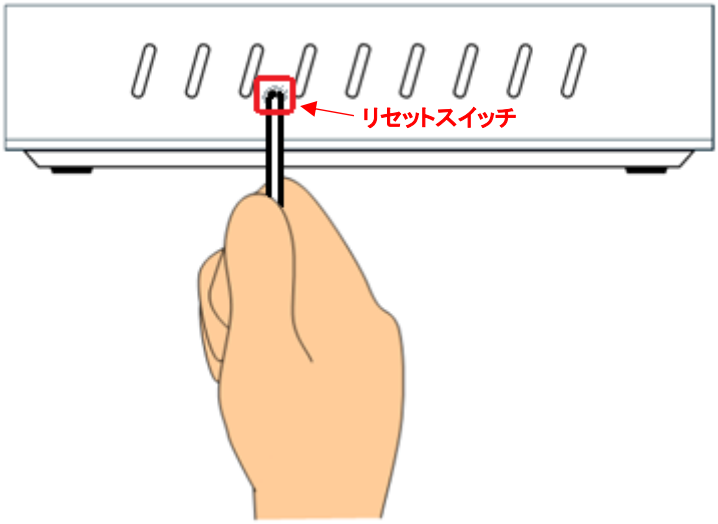
4.ダッシュボード（12 ページ）

Q. 全ての設定を工場出荷値に戻したい。

A. 以下の手順で設定を初期化して下さい。

1. 電源を投入し、「POWER」と「STATUS」ランプがグリーンで点灯している事を確認して下さい。
2. 本体側面の穴に細い棒等を差し込んで中のリセットスイッチを 20 秒以上押し続けて下さい。
3. 「POWER」以外の LED が全て消灯して、再度点灯したらリセットボタンを離して下さい。
4. 「POWER」と「STATUS」ランプがグリーンで点灯すれば初期化完了です。

以上で NetGenesis の設定は工場出荷値に戻ります。



仕様

ソフトウェア仕様

分類	項目	仕様
IPv4 アドレス変換	IPv4 アドレス変換仕様	IP マスカレード（NAPT）
	H/W NAPT セッション数	約 8,000～16,000 セッション（リアルタイムに変動）
	VPN パススルー	PPTP パススルー
	ポートフォワーディング	最大 32 エントリ ポートマッピング（ポート番号変換）対応 PPPoE 接続時はセッション 1 のみが利用可能
	DMZ ホスト	転送先 IP アドレスを設定 PPPoE 接続時はセッション 1～4 で利用可能
ルーティング	ルーティング対象	IP フレーム（H/W ルーティング）
	ルーティング方式	スタティックルーティング（最大 32 エントリ）
アドレス解決	DHCP クライアント	WAN 側のみ（有効/無効 切替可能）
	DHCP サーバー	LAN 側のみ（最大 253 IP アドレス付与可能・有効/無効 切替可能）
	ProxyDNS	サポート
	EasyDNS（簡易 DNS）	サポート（LAN 側：正引きのみ）
	ダイナミック DNS	サポート（MyDNS.JP、No-IP、DynDNS）
	mDNS（Multicast DNS）	サポート
PPPoE	PPPoE クライアント	4 セッションサポート
	unnumbered 接続	サポート（最大 16IP アドレスまで、PPPoE セッション 1 のみ）
	セッション・キープ・アライブ	サポート（常に有効）
	MTU 値調整	サポート（64～1492bytes）
IPv4 over IPv6	接続方式	インターネットマルチフィード社「transix」（DS-Lite） JPIX 社「v6 プラス」（MAP-E） ビッグローブ社「IPv6 オプション」（MAP-E）
MRL-IDM 機能	デバイス管理機能	ステータス監視 死活監視 ファームウェア更新 リモート管理
VPN 接続	プロトコル	PPTP

分類	項目	仕様
IP フィルタリング	フィルタリング方向	LAN→WAN、WAN→LAN（最大 32 エントリ） 拒否リスト/許可リスト PPPoE 接続時はセッション 1 のみが利用可能
	対象プロトコル	TCP/UDP/TCP&UDP
	IP アドレス	発信元/送信先
	ポート番号指定	発信元/送信先（範囲指定可能）
MAC フィルタリング	フィルタリング方向	LAN→WAN（最大 32 エントリ） 拒否リスト/許可リスト
URL フィルタリング	フィルタリング方向	LAN→WAN（最大 32 エントリ） 拒否リスト/許可リスト
付加機能	NTP	NTP クライアント NTP サーバー（LAN 側のみ）
	UPnP	サポート PPPoE 接続時はセッション 1 のみが利用可能
	L2TP 接続	L2TP プロトコルにて拠点間接続が可能
機器設定管理	機器設定	WWW ブラウザ（HTTPd 内蔵 ・ リモート設定可能）
	設定保護	ユーザーID/パスワード
	アクセス制御	リモート管理のための信頼ネットワーク
	Syslog	一部サポート
	診断	Ping による疎通テスト トレースルート
	統計情報	インターフェース統計情報 IP アドレス統計情報

ハードウェア仕様

分類	項目	仕様
WAN ポート	ポート数	1 ポート 100BASE-TX：AUTO MDI/MDI-X 対応 1000BASE-T/2.5GBASE-T：AUTO MDI/MDI-X 対応、Master/Slave 対応
	規格	IEEE 802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3ab 1000BASE-T IEEE 802.3bz 2.5GBASE-T IEEE 802.3x Flow Control CSMA/CD
	コネクタ形状	8 ピンモジュラー（RJ-45・メス）
	通信速度	100Mbps 全二重/半二重 自動認識 1000Mbps/2.5Gbps 全二重 自動認識
LAN ポート （2.5GbE）	ポート数	1 ポート 100BASE-TX：AUTO MDI/MDI-X 対応 1000BASE-T/2.5GBASE-T：AUTO MDI/MDI-X 対応、Master/Slave 対応
	規格	IEEE 802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3ab 1000BASE-T IEEE 802.3bz 2.5GBASE-T IEEE 802.3x Flow Control CSMA/CD
	コネクタ形状	8 ピンモジュラー（RJ-45・メス）
	通信速度	100Mbps 全二重/半二重 自動認識 1000Mbps/2.5Gbps 全二重 自動認識
LAN ポート （1GbE）	ポート数	4 ポート 10Base-T/100Base-TX：AUTO MDI/MDI-X 対応 1000Base-T：Master/Slave 対応
	規格	IEEE802.3 10Base-T IEEE802.3u 100Base-TX IEEE802.3ab 1000Base-T IEEE802.3x Flow Control CSMA/CD
	コネクタ形状	8 ピンモジュラー（RJ-45・メス）
	通信速度	10Mbps/100Mbps 全二重/半二重 1000Mbps 全二重 自動認識（固定設定可能）

分類	項目	仕様
電源	外部電源	入力：100VAC 50/60Hz 出力：12VDC 1.5A 以上
	消費電力	約 8.2W 以下
筐体	外形寸法	180（W）×130（D）×30（H） ㎜ （本体のみ・突起部を除く）
	重量	約 305g （本体のみ）
環境条件 環境対応	温度	0～45℃
	湿度	5～90% （結露しないこと）
	RoHS 指令	準拠
保証期間	－	1 年間

ユーザーサポート

お問い合わせ窓口について

NetGenesis のユーザーサポートは以下で行っています。

株式会社マイクロリサーチ　ユーザーサポートセンター

■マイクロリサーチ　サポート問い合わせフォーム

https://www.MRL.co.jp/contact/support-inquiry/
受付：24 時間 365 日
対応時間：平日　10:00～12:00、13:00～17:00（土日・祝日・年末年始を除く）

■インターネットホームページ

URL　：　https://www.MRL.co.jp（トップページ）
当社からのお知らせ、最新情報の提供を行っています。本製品のファームウェア等、こちらで提供しています。

お問い合わせ頂く際は、以下の各項目についてあらかじめご確認(メモ等)して頂くことで、よりスムーズなサポートを受けることが出来ます。

- お名前
- ご住所/電話番号
- NetGenesis の機種名（型番）
- NetGenesis の製造番号
- NetGenesis のファームウェアバージョン
- NetGenesis の設定内容
- NetGenesis に接続されているパソコンの台数
- 使用しているパソコン機種名
- 使用している OS 及びバージョン
- 契約している回線事業者名・サービス名・プラン名
- 契約しているプロバイダ名
- 使用している CTU・メディアコンバータ・ONU・ケーブルモデム等、回線終端装置の機種名・型番
- プロバイダ側の DHCP サーバー、または PPPoE サポートの有無
- 具体的な症状（エラーメッセージ等も含め、できる限り詳細に

確認	お問い合わせ頂く前に、サポート規定をご確認下さい。 MRL 製品サポート規定　https://www.mrl.co.jp/supports/support-policy/
	お問い合わせ頂く前に、Q&A 集（179 ページ）の内容を確認して下さい。

ーサポートセンターにおける個人情報の取り扱いについてー
当社は製品サポートの過程で取得したお客様の個人情報を、サポート業務および付随業務以外の目的に使用することはありません。

製品の修理について

確 認	修理をご依頼頂く前に、修理規定をご確認下さい。 MRL 製品修理規定 https://www.mrl.co.jp/supports/repair-policy/

NetGenesis が故障してしまった場合、以下の項目をご確認のうえ、弊社修理センターへ送付して下さい。

■修理は「センドバック修理」となります。

■修理品送付に伴う送料は、送り主負担とさせて頂きます。

■修理期間中の代替機のお貸し出しは行っておりませんので、あらかじめご了承下さい。

■修理品には必ず、使用環境、故障状況等を詳しくお書き添え下さい。

■修理品の設定内容は動作確認のため初期化されますので、あらかじめご了承下さい。

（修理依頼前に「設定をファイルに保存する」ことをお勧めします。）

■保証期間中は無償で修理を行います。

ただし、以下の場合は有償修理となりますのでご了承下さい。

- 保証書が同梱されていない場合。
- 保証書の所定事項が未記入の場合。
- 誤った操作等により発生した故障や破損の場合。
- 落雷、火災、水没等の事故により発生した故障や破損の場合。

確 認	分解・改造が行われた製品については、一切のサポートおよび修理サービスをお断りさせて頂きます。

■修理品の送付先は以下の通りです。

株式会社マイクロリサーチ　修理センター

〒140-0004 東京都品川区南品川 2-2-10 南品川 N ビル 2F

ー修理センターにおける個人情報の取り扱いについてー
当社は修理対応の過程で取得したお客様の個人情報を、修理業務および配送等の付随業務以外の目的に使用することはありません。